

# 中垣内遺跡発掘調査報告書

— 関西電力株式会社東大阪変電所内所在 —

1990年9月

大東市教育委員会

## はしがき

中垣内遺跡は、昭和34年に発見された弥生時代の遺跡です。当時は簡単な調査が行われただけであります。また、そこから出土した土器は当時の弥生土器研究にとって大変貴重な資料がありました。その後長らく発掘調査の機会がなく、集落の営まれた時期や範囲については、不明であったにもかかわらず、これまで中垣内遺跡の名前だけが一人歩きしてきた感があります。

今回実施しました調査も各調査区の面積が100m<sup>2</sup>前後という狭いものでしたが、遺跡の規模を知るうえでも有意義な調査であったものと思われます。中垣内遺跡の調査は始まったばかりといっても過言ではなく、今後の調査例が増えれば集落の全貌も明らかになることでしょう。そして、これらの調査の結果得られた新しい資料が、弥生時代研究の一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査、整理について多大なるご協力を頂いた関西電力株式会社をはじめ、関係諸機関、諸氏に感謝の意を表するとともに、今後とも一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げる次第です。

平成2年9月

大東市教育委員会

教育長 中野昭明

## 例　　言

1. 本書は、大東市中垣内5丁目にある関西電力株式会社東大阪変電所敷地内に所在する中垣内遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は大東市教育委員会歴史民俗資料館、黒田淳を担当者として、昭和62年10月14日～同年11月1日、昭和63年5月3日～同年5月6日、昭和63年10月13日～同年11月20日、平成1年7月14日～同年8月19日の計4回の現地調査を実施し、引き続き内業整理及び報告書作成作業に取りかかり、平成2年8月31日にすべての整理作業を終了した。
3. 発掘調査に係る費用すべては関西電力株式会社がこれを負担した。
4. 調査及び遺物整理においては、以下の人々の協力を得た。

石井裕己、石田昌世、大谷聰、大山清、岡田幸博、北田亭子、金弘美、谷崎光子、玉本雅巳、辻本智英、中村亘登、野村香枝、東坂宣欣、広瀬悟郎、深沢吉隆、増田耀子、松本哲、三加茂憲明、三宅秀男、森石千枝子、山村俊之、山本裕子、山本芳子、吉田すみ子、吉村早苗、渡辺新平。

また、帝塚山短期大学教授田代克巳、大阪府教育委員会文化財保護課技師松岡良恵、三宅正浩、(財)大阪文化財センター技師三好孝一諸氏からは有意義な御指導を受けた。記して感謝の意を表す。
5. 本書の執筆、纏集は黒田が行った。
6. 調査において作成した写真、実測図、カラースライド等は、大東市歴史民俗資料館に保管されている。広く利用されることを希望する。

## 本文目次

第1章 序説.....	1
1.位置と環境.....	1
2.調査に至る経過.....	3
第2章 調査成果.....	5
1.A区（N G T - II）の調査.....	5
2.B区（N G T - III）の調査.....	11
3.C区（N G T - IV）の調査.....	29
4.D区（N G T 89- 1）の調査.....	51
第3章 まとめ.....	59
1.遺構について.....	59
2.その他の出土遺物.....	59
3.中垣内遺跡の集落の範囲について.....	61
おわりに.....	66
遺物観察表.....	67

## 挿図目次

第1図 周辺の遺跡分布図.....	2
第2図 調査区位置図.....	3
第3図 A区遺構平面図.....	5
第4図 A区北壁土層断面図.....	7、8
第5図 A区出土土器.....	9
第6図 A区出土木器.....	10
第7図 B区北壁土層断面図.....	11
第8図 B区B S D - 1 全体図.....	12
第9図 B S D - 1 遺物出土状況.....	13、14
第10図 B S D - 1 出土土器(1) .....	15
第11図 B S D - 1 出土土器(2) .....	16
第12図 B S D - 1 出土土器(3) .....	17

第13图	B S D - 1 出土土器(4) .....	18
第14图	B S D - 1 出土土器(5) .....	19
第15图	B S D - 1 出土土器(6) .....	20
第16图	B区包含层出土土器.....	21
第17图	B区出土土器(1) .....	22
第18图	B区出土木器(2) .....	23
第19图	B S D - 1 出土土器.....	23
第20图	B区包含层出土土器(1) .....	25
第21图	B区包含层出土土器(2) .....	26
第22图	B区包含层出土土器(3) .....	27
第23图	B区包含层出土土器(4) .....	28
第24图	C区北壁土层断面图.....	29
第25图	C区第1遗構面平面图.....	30
第26图	C S K - 2, 3, 4, 5遗物出土状况.....	31
第27图	C区第2遗構面上层平面图.....	31
第28图	C区第2遗構面下层平面图.....	32
第29图	C S K - 10遗物出土状况.....	33
第30图	C S K - 11遗物出土状况.....	34
第31图	C S K - 22遗物出土状况.....	35
第32图	C S D - 5 上层遗物出土状况.....	36
第33图	C S D - 5 下层遗物出土状况.....	36
第34图	C S D - 6 遗物出土状况.....	37
第35图	C区第3遗構面平面图.....	38
第36图	C S R - 1 土层断面图.....	38
第37图	C S K - 4、5、6、10、11出土土器.....	39
第38图	C S K - 14、17、18、21、22、24出土土器.....	40
第39图	C S D - 5 出土土器.....	41
第40图	C S D - 6、8 出土土器.....	42
第41图	C S P - 15、80出土土器.....	42
第42图	C区土器群A、B、C、D出土土器.....	43

第43図	C区出土木器	44
第44図	C区出土土器(1)	45
第45図	C区出土土器(2)	46
第46図	C区出土土器(3)	47
第47図	C区出土土器(4)	48
第48図	C区出土土器(5)	49
第49図	C区出土土器(6)	50
第50図	D区西壁土層断面図	51
第51図	D区第1遺構面平面図	52
第52図	D区第2遺構面平面図	53
第53図	D区第3遺構面平面図	54
第54図	D区第4遺構面平面図	54
第55図	DSR-1下層遺物出土状況	54
第56図	D区第3、4遺構面及びDSR-1下層出土土器	55
第57図	D区包含層出土土器(1)	56
第58図	D区包含層出土土器(2)	56
第59図	D区包含層出土土器(3)	57
第60図	D区出土土石器(1)	57
第61図	D区出土土石器(2)	58
第62図	DSR-1下層出土木器	58
第63図	C区出土高熱を受けた跡の残る土器片	60
第64図	B区出土蓋形土製品、匙形土製品	61
第65図	外部の特徴を持つ土器	61
第66図	関西電力東大阪変電所保管の木器(1)	62
第67図	関西電力東大阪変電所保管の木器(2)	63

## 表 目 次

第1表	中垣内遺跡調査区一覧表	3
第2表	A区遺構一覧表	5

第3表 D区第1遺構面遺構一覧表	52
第4表 D区第2遺構面遺構一覧表	53

## 図版目次

- 図版1 A区遺構 調査地全景、第1遺構面（西より）、第1遺構面（東より）
- 図版2 A区遺構 第2遺構面A S R - 1、A S R - 1断面、第3遺構面A S D - 2、調査区西壁断面
- 図版3 B区遺構 B S D - 1（北より）、B S D - 1（南より）
- 図版4 B区遺構 B S D - 1 遺物出土状況（南端付近）、B S D - 1 遺物出土状況（中央付近）
- 図版5 C区遺構 1区第2遺構面上層（西より）、C S D - 5 遺物出土状況
- 図版6 C区遺構 1区第2遺構面上層（北より）、C S D - 5 遺物出土状況
- 図版7 C区遺構 3区第2遺構面上層（南より）、3区C S D - 6 遺物出土状況
- 図版8 C区遺構 4区第2遺構面上層（南より）、4区C S D - 6 遺物出土状況
- 図版9 C区遺構 5区第2遺構面上層（南より）、C S K - 10上層・下層遺物出土状況C S K - 11上層・下層遺物出土状況
- 図版10 D区遺構 第4遺構面（南より）、D S R - 1 下層木器出土状況、D S R - 1 下層断面、調査区西壁断面（D S R - 1）、D S P - 5
- 図版11 B S D - 1 出土土器
- 図版12 B S D - 1 出土土器
- 図版13 B S D - 1 出土土器、B区包含層出土土器、蓋形土製品、匙形土製品
- 図版14 B S D - 1 出土土器
- 図版15 B S D - 1 出土土器
- 図版16 B S D - 1 出土土器
- 図版17 B S D - 1 出土土器、B区包含層出土土器
- 図版18 B区包含層出土土器及び外部の特徴を持つ土器
- 図版19 B区出土木器
- 図版20 B区包含層出土石器
- 図版21 B S D - 1 出土土器、B区包含層出土石器

- 図版22 C S K - 4、5、6、10、11、C S D - 5 出土土器
- 図版23 C 区土器群、C S D - 5 出土土器及び高熱を受けた跡の残る土器片
- 図版24 C 区出土石器
- 図版25 C 区出土石器
- 図版26 C 区出土石器及び木器
- 図版27 D 区包含層出土土器
- 図版28 D S R - 1 下層出土木器及び出土石器
- 図版29 関西電力東大阪変電所保管の木器
- 図版30 関西電力東大阪変電所保管の木器
- 図版31 関西電力東大阪変電所保管の木器

# 第1章 序 説

## 1. 位置と環境

中垣内遺跡は大東市中垣内一東大阪市善根寺町にかけて所在する、推定で東西1km南北800mの範囲で広がっている遺跡である。遺跡は河内平野の北東部に位置しており、一昔前までは田園地帯であった。しかし、現在は関西電力株式会社東大阪変電所の広大な敷地以外は、宅地化などの開発が急速に進みつつある地域である。遺跡は東方の生駒飯盛山系より流れ出す大谷川、鍋田川などによって形成された扇状地の扇端部にあたる、標高3.5m~6.0mの地点に位置している。

河内平野には、縄文時代に始まる海進の現象により、河内湾が形成されていた。河内湾は現在の生駒山麓際まで及んでいたため、縄文時代の遺跡もおのずから、河内湾の縁辺部である生駒西麓地域や、或いは、高地であった上町台地に立地している。それよりも前の旧石器時代の遺跡は、生駒山地の北方に広がる枚方台地に数多く知られているが、本市域でも宮谷古墳群、北条遺跡で有舌尖頭器が出土している。縄文時代の遺跡としては本遺跡の南方に東大阪市日下遺跡、馬場川遺跡があるが、残念ながら本市域では今のところ、北新町遺跡で縄文中後期、城ヶ谷遺跡で晩期の土器が出土しているのみで、それに伴う遺構は検出されていない。弥生時代になると遺跡の量、質はともに飛躍的に増大するが、弥生時代前期の遺跡としては本遺跡以外に、四条畷市雁屋遺跡、東大阪市鬼虎川遺跡がある。いずれも河内湖縁辺部に立地している遺跡で拠点的集落として知られているが中期まで存続するようである。中期以降になると遺跡の立地場所は拡大し、丘陵状にもみられるようになる。中期の土器片が出土した国見高地性遺跡の他、丘陵の各遺跡では後期の土器が出土している。古墳時代になると鍋田川遺跡、中垣内遺跡、北新町遺跡で前期の集落、水田跡が検出されているが、前期に属する古墳は今のところ本市域では見つかっていない。近くに存在する前期古墳は、四条畷市忍ケ岡古墳である。中期になると本市域でも堂山1号墳が築造されて以後、東方の丘陵地に古墳が造営されるようになる。

奈良時代から平安時代にかけての遺構は、寺川遺跡で奈良時代の柱穴が、北新町遺跡で奈良時代水田跡が検出されている。鎌倉時代では北新町遺跡で集落跡が検出されているが、今のところこの時代の様相は明らかにされていない。

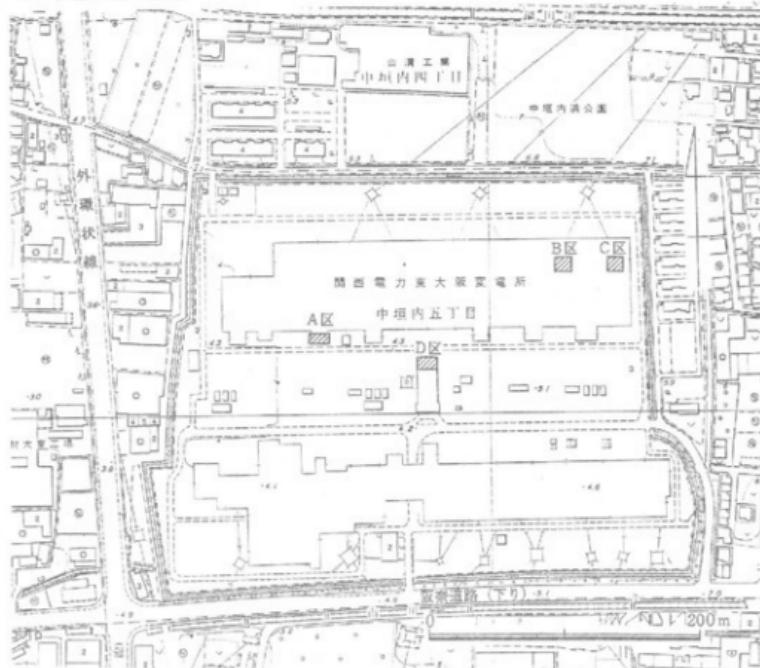
戦国時代では、一時、畿内支配に成功した三好長慶の居城であった飯盛山城や、キリシタンで有名な三箇サンチョの居城である三箇城がある。



第1図 周辺の遺跡分布図

江戸時代になると、古代河内湖は深野池としてその姿をとどめていたが、1704年の大和川付け替えを契機として、新田の開発が行われ、市内には今も新田の名が残っている。

## 2. 調査に至る経過



第2図 調査区位置図

第1表 中垣内遺跡調査区一覧表

調査区名	所在地	面積	用途	調査期間	備考
A区(NGT-II)	大東市中垣内	51m <sup>2</sup>	遮断器取替	87.10.14～87.10.30	関西電力敷地内
B区(NGT-III, 88-1)	大東市中垣内5丁目3番1号	100m <sup>2</sup>	遮断器取替	88.5.1～88.5.8	関西電力敷地内
C区(NGT-IV, 88-3)	大東市中垣内3丁目	100m <sup>2</sup>	遮断器取替	88.10.11～88.11.30	関西電力敷地内
D区(NGT-89-1)	大東市中垣内5丁目	127.5m <sup>2</sup>	建物	89.7.25～89.8.18	関西電力敷地内
NGT-I	大東市	714m <sup>2</sup>	校舎	87.7.1～87.10.14	大阪産業大学構内
NGT-88-2	大東市中垣内2丁目793	53.13m <sup>2</sup>	個人住宅	88.9.14	古墳時代前期墓葬跡
NGT-88-4	大東市平野屋2丁目397-1地	238.92m <sup>2</sup>	工場	88.10.26～88.12.3	土師器、弥生土器片出土
NGT-88-5	大東市中垣内2丁目547-2,4	60m <sup>2</sup>	共同住宅	88.11.1	建物、遺構なし
NGT-88-6	大東市平野屋2丁目346-1	1,694.3m <sup>2</sup>	倉庫	88.11.8	旧水路、土師器、須恵器片 遺物、遺構なし

中垣内遺跡は、昭和34年関西電力株式会社東大阪変電所建設の際に発見された遺跡である。現在、変電所の敷地面積は約12,000m<sup>2</sup>と広大であるが、当時において発掘調査を実施

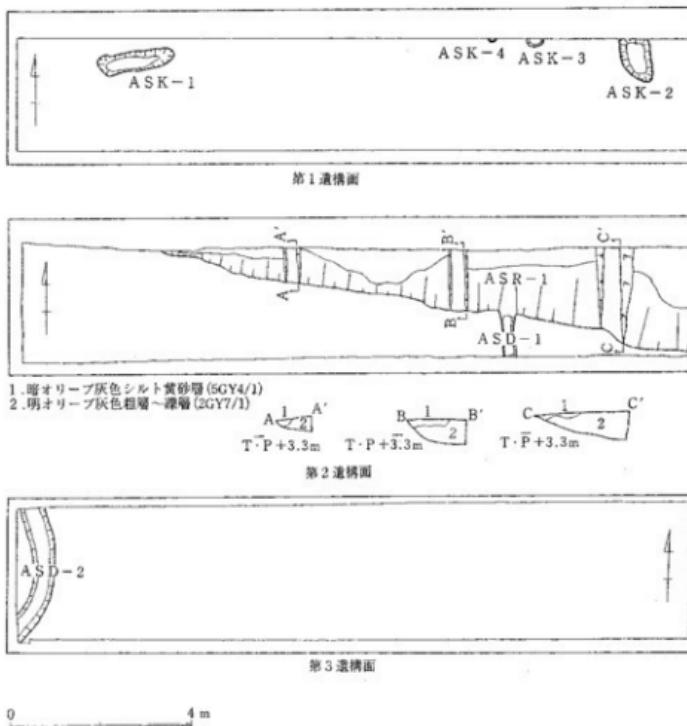
したのは、変電所敷地の北東隅（南地区）と敷地の北側（北地区）との2ヶ所のみで、しかも15日間という短い調査期間であった。それにもかかわらず大量の遺物が出土し、南地区では一辺約2mの方形の竪穴住居跡が検出され、弥生時代前期土器や磨製石斧、石包丁、打製石鎌、獸骨、淡水産貝殻、炭化米などが出土し、北地区では東北から南西に走る杭列が検出され、弥生時代前期から後期の土器、小量の土師器、須恵器の他、磨製石斧、打製石鎌、木製鋤、網代が出土した。このように調査範囲は狭小であったが多くの成果が得られ、ここに弥生時代前期の集落が存在したことが判明した。出土した弥生土器は、小林行雄氏の「弥生土器集成」に掲載されており、<sup>註</sup>集落の規模は未だ不明であるが、今日では寝屋川市高宮遺跡、四条畷市雁屋遺跡等と同様に、弥生時代前期の拠点的集落として位置付けられている重要な遺跡である。

その後長らく発掘調査の機会がなかったが、昭和62年7月に変電所敷地の北西にある大阪産業大学校内において調査を実施し、古墳時代前期の堀立柱建物跡や竪穴住居跡が検出され、古墳時代に入っても、集落が営まれていたことが裏付けられた。

変電所敷地内でも機器の老朽化のため順次建替え工事が行われるようになり、それに伴う発掘調査を実施した。調査位置と調査期間は図と表に示すとおりであるが、本報告では便宜上、敷地内で調査を実施した地区を順番にA、B、C、D区とし、また参考までに敷地以外の調査地点も表に示した。

## 第2章 調査成果

### 1. A区(NGT-II)の調査



第3図 A区造構面平面図

#### (1) 基本層序

A区では、60以上の土層と3時期の造構面を確認している。それらを仔細にみていくとかなり煩雑になるため、ここでは大まかな説明を加えることにとどめておくことにする。  
なお詳細は、土層断面図(第4図)を参照されたい。

1層(盛土) 層厚60~80cm。変電所建設時のものである。

2層(黒褐色粘質土) 旧耕作土である。変電所建設前の地表で、変電所建設時の削平の

第2表 A 区 遺構一覧表

第 1 遺構面					
遺構名	形 状	平面規模(横×横)cm	深さcm	埋 土	備 考
SK-1	隅丸長方形	44×164	9~11	黒色粘質土	植物遺体を多量に含む
SK-2	隅丸長方形	96× 62	12	+	
SK-3	不整な円形	38× 38	7	+	
SK-4	不整な円形	6× 18	6	+	
第 2 遺構面					
SR-1		236×1160	6~60	暗オリーブ灰色シルト質砂層 明オリーブ灰色粗砂—隙間	
第 3 遺構面					
SD-2	弓 状	302× 56	3~5	黒色粘質土	

影響を受けているものの、層厚を異にしながら調査区全体で認められる。

3層(暗青灰色砂混じり粘質土) 水田の床土であろう、鉄分とマンガンの沈着がみられ、調査区全体で認められる。

4~13層 粘質土、シルトなどが交互に堆積する。

14層(黄褐色粘質土)、15層(暗灰黄色砂混じり粘質土)、16層(灰色砂混じり粘質土) 断面で杭を検出している。目立った出土遺物はないが、伊万里染付け小片を含んでおり、調査では検出しえなかつたが近世の遺構面であった可能性が強い。なお杭は水路などの遺構に伴うものであろう。この遺構面のベースとなっている層は14層及び21層である。以下47層(灰色細砂)までは砂、粘土、シルトが交互に堆積しているが、遺構面は存在しなかつた。

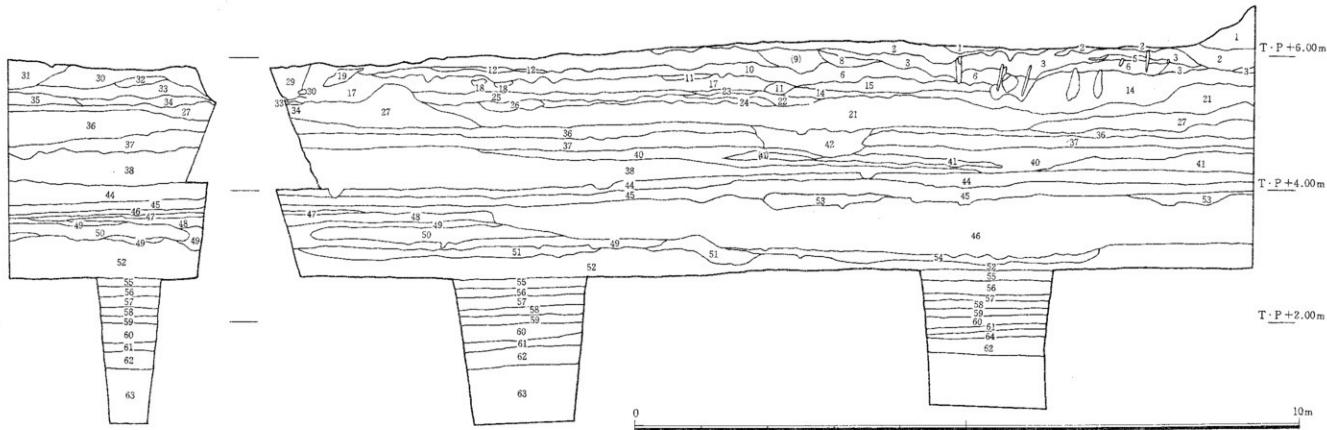
47層(灰色細砂) 第1遺構面のベースとなる層であり、また、第2遺構面で検出した自然流路A SR-1の埋土である。砂層中には植物遺体が含まれていた。

## (2) 遺構(第3図・第2表)

A区では、3面の遺構面を検出しているが、14層及び21層をベースとする近世の遺構面を含めると計4面の遺構面が存在したことになる。

第1遺構面では4個の土坑を検出している。土坑内の埋土はいずれも黒色粘質土で、そのうちASK-1・2から弥生土器片が出土しているが、他の土坑からは遺物は出土しなかつた。

第2遺構面では調査区の北側で自然流路A SR-1を検出している。肩の1部を検出しさうだけで全体の規模は明らかではないが、東から西へ流れていた自然河川流路であろう。



1. 灰土	17. 灰色砂混り粘質土	(7.5Y 5/1)	33. 暗灰黄色砂混り粘質土	(2.5Y 4/1)	48. 灰色シルト	(7.5Y 4/1)	62. 灰色中粒砂と細粒砂との互層	(7.5Y 6/1)
2. 黒褐色粘土	(2.5Y 3/1)	18. 天然灰土質土	(10Y R 5/1)	34. にじいろ褐色砂質土	(10Y R 5/3)	49. 黑色シルト質粘土	植物遺体を含む	(10Y 2/1)
3. 開育灰色砂混じり粘質土	(10B G 4/1)	19. 天然砂礫混り粘質土	(5Y 5/1)	35. 喀灰色砂混り粘質土	(2.5Y 5/1)	50. 黑色細砂	植物遺体を含む	(5Y R 1.7/1)
4. 灰オリーブ色粘質土	(5Y 5/3)	20. 鮎穴砂	(N 3/ )	36. 喀緑灰色砂混じり粘質土	(5G 3/1)	51. 灰オリーブ灰色シルト	一部細粒砂との混層	(5G Y 4/1)
5. 灰オリーブ色砂混じり粘質土	(5Y 6/2)	21. 鮎青灰色砂混じり粘質土	(10B G 3/1)	37. 黑色粘土	(N 2/ )	52. 灰色粘土	喀灰(7.5Y 5/1)隔壁では暗灰色シルト(N 3/ )が	(7.5Y 6/1)
6. にじいろ褐色砂混じり粘質土	(10Y R 6/4)	22. 鮎粉紅色粘土	(10G 4/1)	38. 灰オリーブ灰色砂層一隙(5G Y 4/1) ラミナート状の粘質土	(2.5G Y 5/ )	53. ラミナート状に入る	北側の東天板付近で黑褐色粘土(5Y 2/1)	
7. 灰色粘質土	(N 6/ )	23. 天然青砂	(N 8/ )	39. 灰オリーブ灰色砂層(2G Y 4/1) との互層	(5G Y 2/1)	54. 赤褐色砂質粘土	植物遺体を含む	(2.5Y R 1.7/1)
8. 磨オリーブ灰色粘質土	(2.5G Y 4/1)	24. 青灰色粘質シルト	(5B 5/1)	40. オリーブ灰色粘質土	(2.5G Y 5/ )	55. 黑色粘土	植物遺体を含む	(5Y 2/1)
9. 灰色粘質土	(5Y 4/4)	25. 天然灰色砂混じりシルト	(5B 6/1)	41. 暗紅灰色粘質土(10G Y 4/1) と中粒砂との互層	(5G Y 2/1)	56. 落葉	植物遺体をわざかに含む	(10Y R 1.7/1)
10. オリーブ灰色砂混じり粘質シルト(2.5G Y 6/1)	26. 青灰色粘質土	(5B 4/1)	42. オリーブ灰色粘質土	(2.5G Y 6/1)	57. 黑色粘土	植物遺体を含む	(10Y R 1.7/1)	
11. 緑灰色砂混じりシルト(7.5G Y 5/1)	27. 暗紅灰色砂層	(10G Y 4/1)	43. 明褐色砂層	(7.5Y R 5/6)	58. 喀灰地	(N 3/ )	(7.5Y R 1.7/1)	
12. オリーブ灰色シルト(2.5G Y 5/1)	28. 青灰色砂層	(5B 5/1)	44. 黑色粘土	(7.5Y 2/1)	59. 黑色粘土	(N 3/ )		
13. 灰オリーブ砂混じり粘質土	(7.5Y 6/2)	29. 灰	(5B 4/1)	45. 黑色粘土	一部細砂との互層、植物遺体含む	60. 黑色粘土	植物遺体を含む	(7.5Y R 2/1)
14. 黄褐色粘質土	(2.5Y 5/4)	30. 灰色砂混じり粘質土	(5Y 5/1)	46. 灰色砂層	(5Y 5/1)	61. 灰色砂質粘土	(5Y R 1.7/1)	
15. 喀灰質砂混じり粘質土	(2.5Y 5/2)	31. 喀灰質砂混じり粘質土	(5B G 4/1)	47. 黑色シルト	や、粘性あり		(5Y 4/1)	
16. 灰色砂混じり粘質土	(5Y 5/1)	32. 灰色砂混じり粘質土	(7.5Y 5/1)		(N 1.5/ )			

第4図 A区北壁土層断面図

埋土は、上層が暗オリーブ灰色シルト質砂層で、下層が暗オリーブ灰色粗砂が堆積しており、遺物は数点の自然木が出土しているだけで、土器は出土していない。

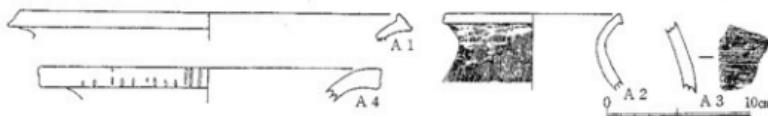
第3遺構面では調査区の西側で溝ASD-2を検出しただけである。溝内の埋土は黒色粘質土で、遺物は出土していない。

調査の結果、A区では遺構・遺物共その密度は希薄であった。

### (3) 出土遺物

#### 土器（第5図）

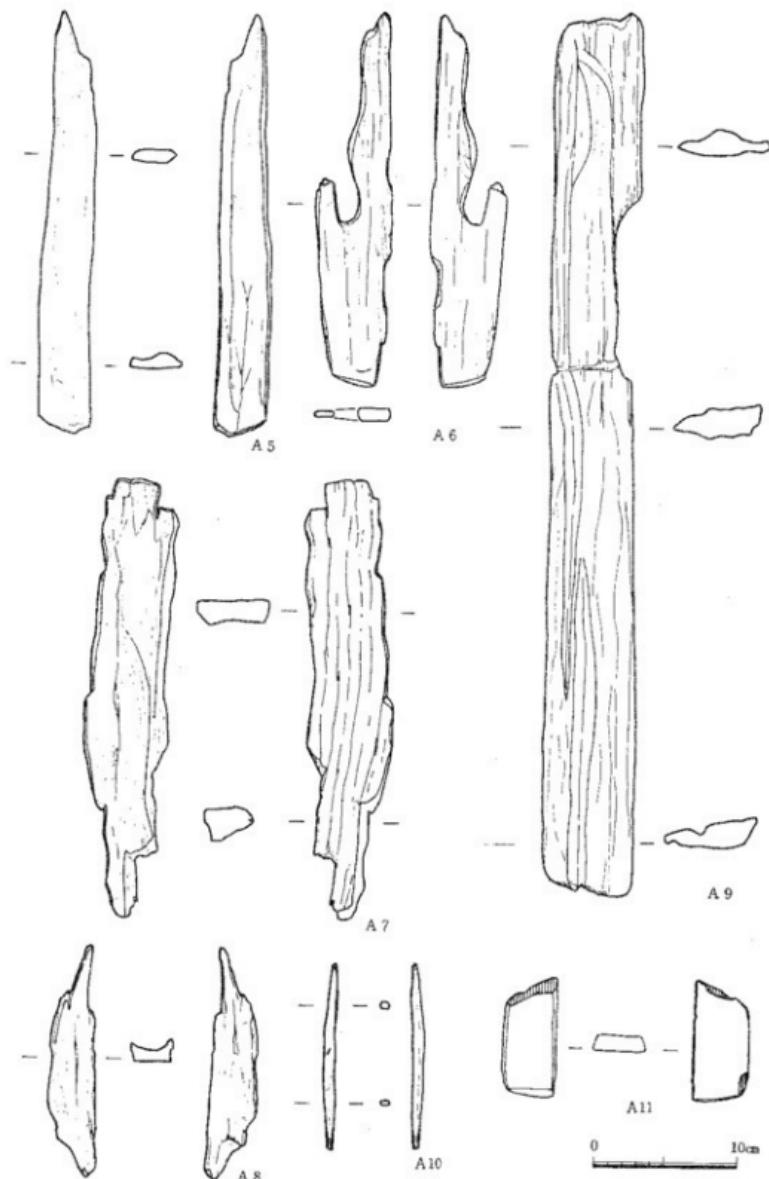
土器はいずれも摩滅が激しいため時期や機種の判別し難いものがほとんどであり、辛うじて数点を図化し得たにとどまった。A1～3までが包含層出土で、A4がASK-2出土である。いずれも弥生土器で中期に属するものであろう。



第5図 A区出土土器

#### 木器（第6図）

出土した木器は、自然木か人工のものの判断は困難であり、何らかの目的、用途によって板状に加工したと推定されるものもあるが、残念ながら製品名を特定することはできなかった。A5～9・11は板状、A10が棒状を呈する。A10は棒状に加工されており、両端は尖っている。刺突具の1種か。



第6図 A区出土木器

## 2. B区(NGT-III)の調査

### (1) 基本層序(第7図)

B区は、変電所敷地内の東側に位置し、昭和36年の調査で弥生前期の遺構を検出した北東地区からは、南へ約150mの距離にある。

ここでは、調査区の北壁断面(A-A')を参考にして説明することにする。

#### 1層(盛土)

2層(黒褐色粘質土～暗赤褐色粘質土) 旧耕作土で、次の3層とともに変電所建設時の削平の影響をかなり受けている。

3層(にぶい黄褐色粘質土) 水田の床土と考えられる。遺物は近世の染付や瓦器の他、土師器、須恵器等が含まれている。

4層(暗赤褐色砂混じり粘質土) 調査区全体で認められる弥生時代～古墳時代の遺物が混在する遺物包含層である。

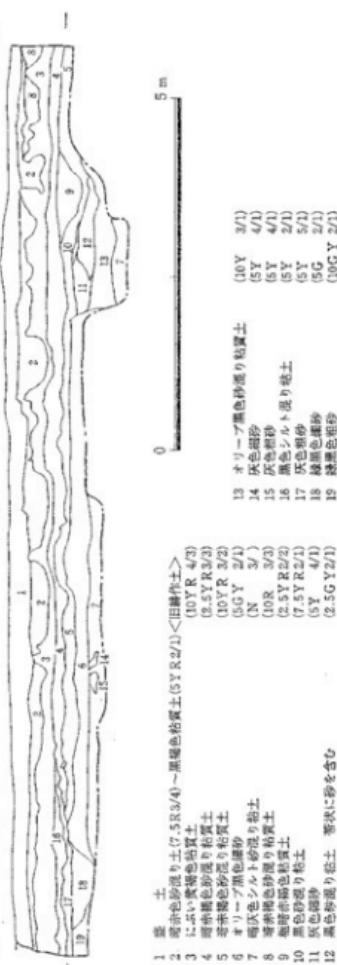
5層(暗赤褐色砂混じり粘質土) 主に弥生時代の遺物を含むが、前期の遺物がほとんどであり、若干中期～後期の遺物が含まれる。

6層(オリーブ黒色細砂) 若干、シルトと粘質土が混ざっているため固くしまっている。遺物は、前期のものが多少含まれる程度である。この層の上面で弥生前期の遺構面を検出している。

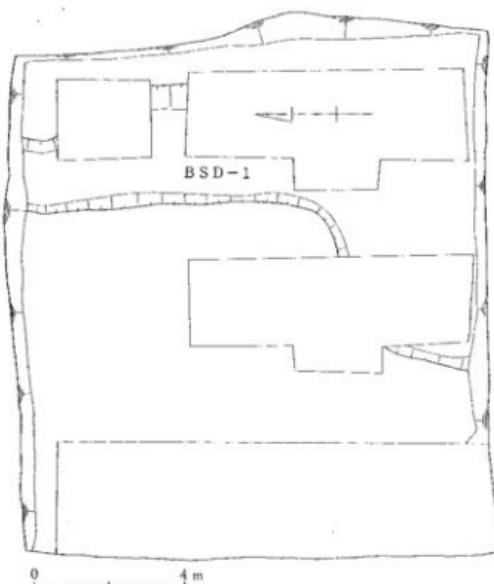
7層(暗灰色シルト混じり粘土) 今回の調査で検出した最下層の層で、遺物は全く含まれておらず、今回の調査では地山と考えた。

### (2) 遺構(第8・9図)

遺構面は、後世の削平による影響が大きく、6層上面で、弥生時代前期の遺構面を検出



第7図 B区北壁土層断面図



第8図 B区BSD-1全体図

しただけである。検出した遺構は溝BSD-1が一条のみで、他の遺構は検出されなかった。

BSD-1は、調査区の東側で検出しており、調査区内をほぼ南北方向に走る溝であり、南北両端は調査区外へ続いている。幅2.4~5mで、深さは0.4~0.8mを測る。埋土は砂質土若しくは砂混じりの粘質土で、遺物は、完形品を含む大量の前期の土器と数点の木製品、石器が出土している。

### (3) 出土遺物

#### 土器

出土土器は上層の遺物包含層から小量の須恵器、土師器、瓦器が出土している他は、ほとんどが弥生時代の土器である。弥生時代は前期から中期のものが出土しており、第I様式~第III様式の土器が認められる。出土量は第I様式の土器が圧倒的に多く、主としてBSD-1からの出土である。尚、土器の詳細については、本文末の観察表に記した。

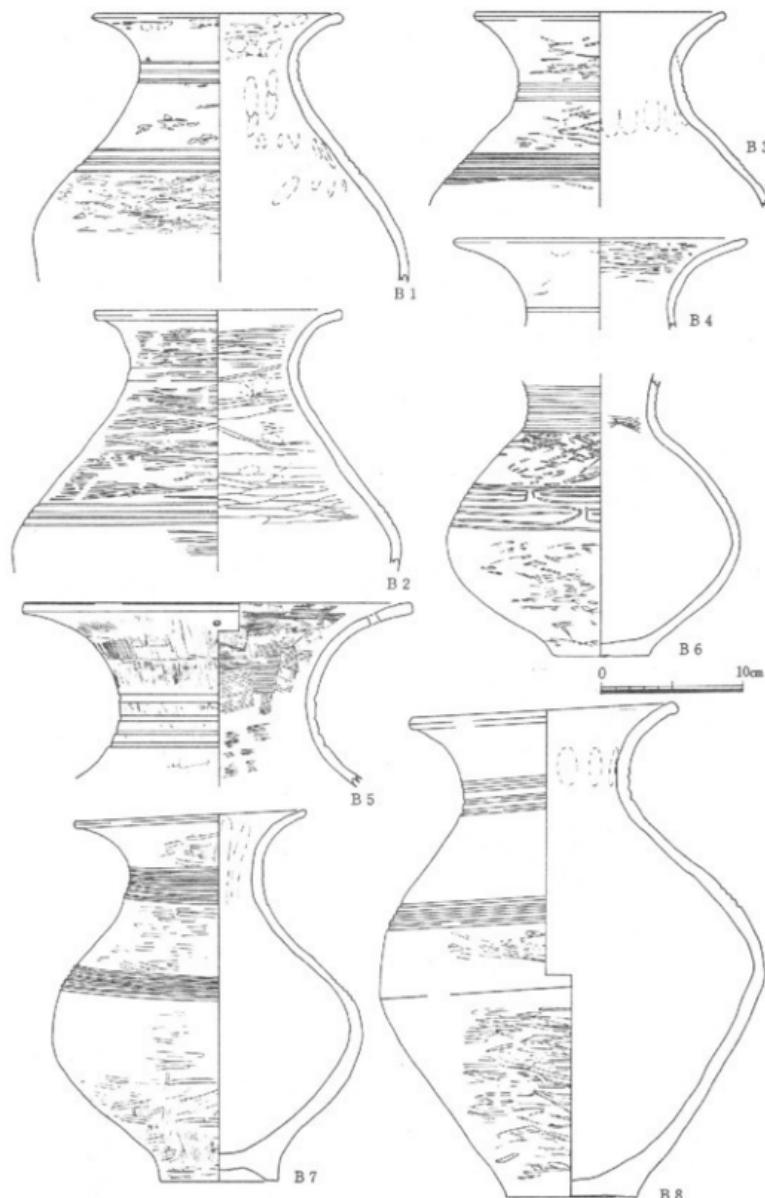
#### BSD-1出土土器（第10~15図）

BSD-1からは完形品を含む大量の前期土器が出土しているが、ここに掲載しているのはごく一部に過ぎない。器種別にみると壺、無頸壺、甕、鉢の他、壺蓋（B56・57）があり、また、ミニチュアの壺（B25）、甕（B28）、鉢（B26・27）もある。

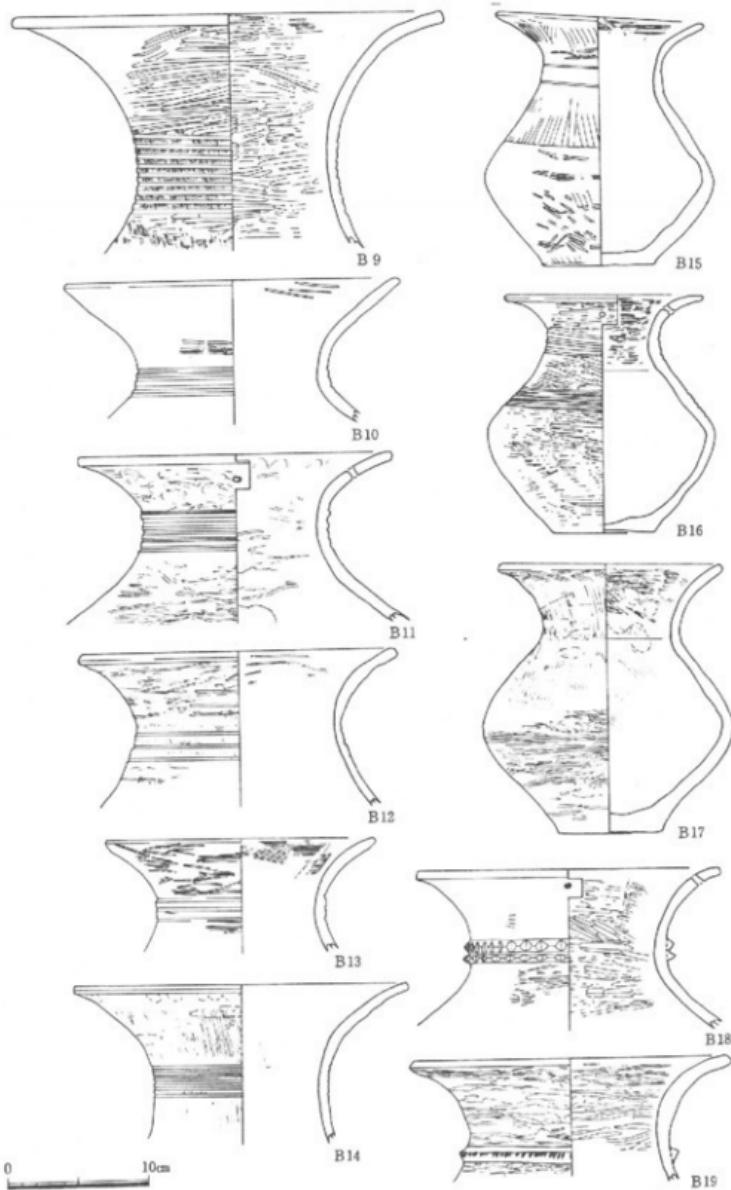
壺は肩の張った胴部に外反する口頸部をもつものが大半を占める。短い口頸部に口縁部がラッパ状に大きく開くものや、比較的長い口頸部をもつものがある。文様は頭部と胴部に、一条から数条のヘラ描き沈線文が施されるものがほとんどであるが、胴部に疑似流水



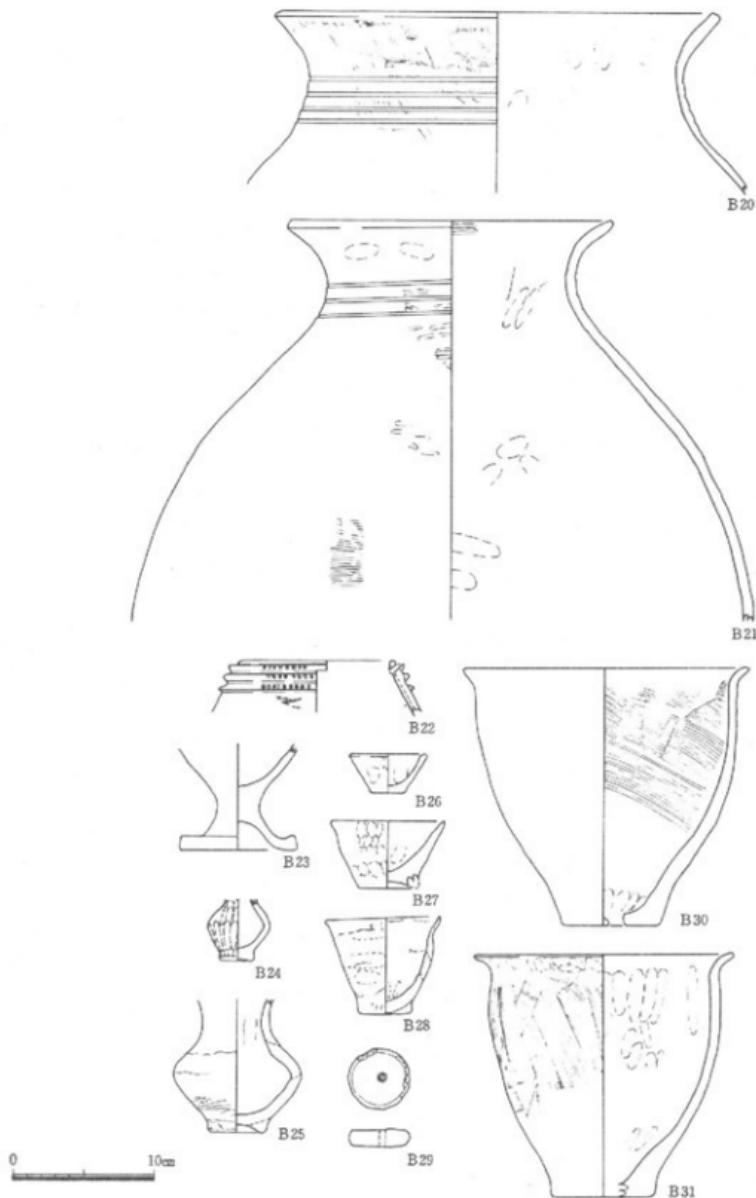
第9図 BSD-1 遺物出土状況



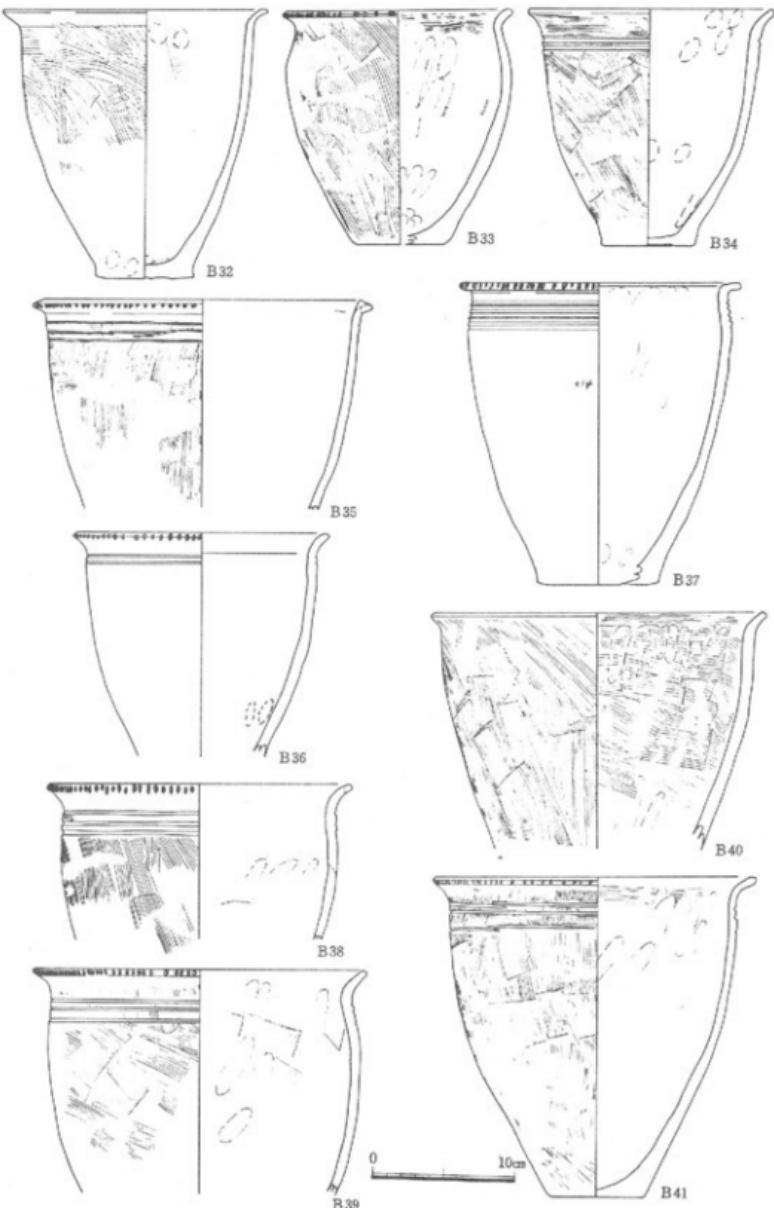
第10図 BSD-1 出出土器(1)



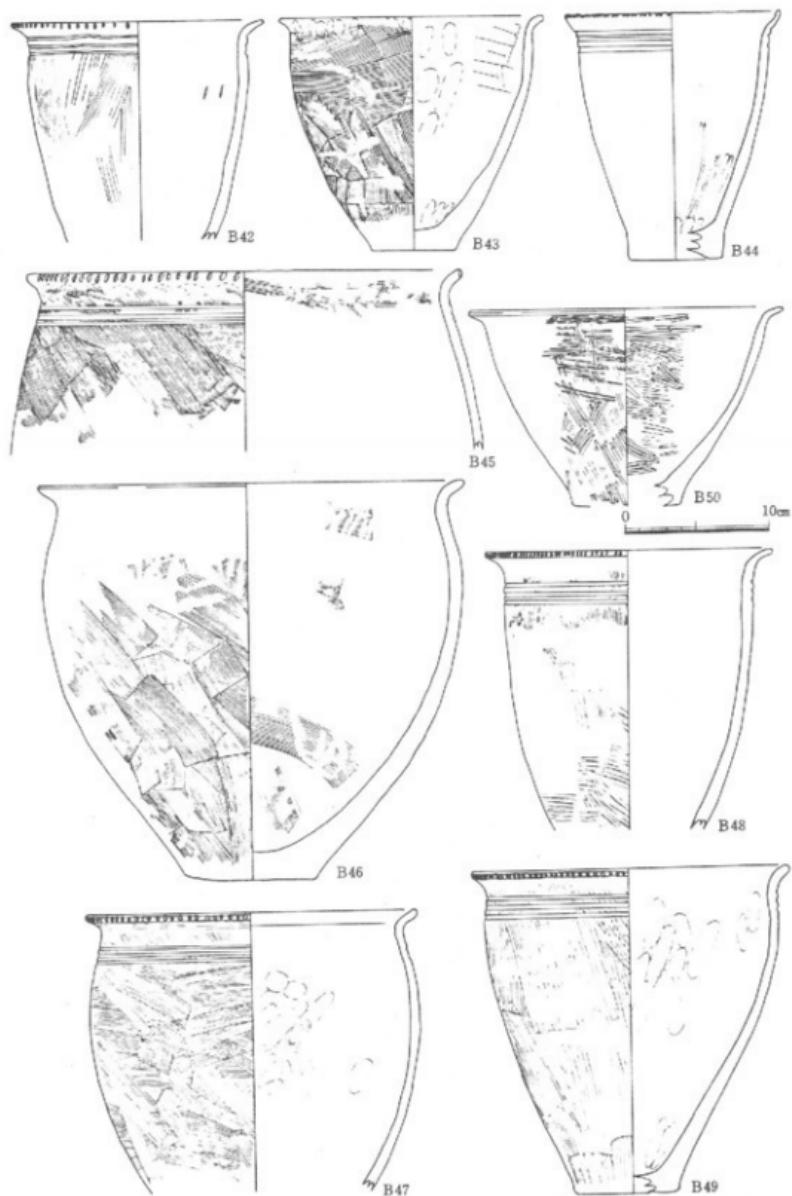
第11図 B S D - 1 出土土器(2)



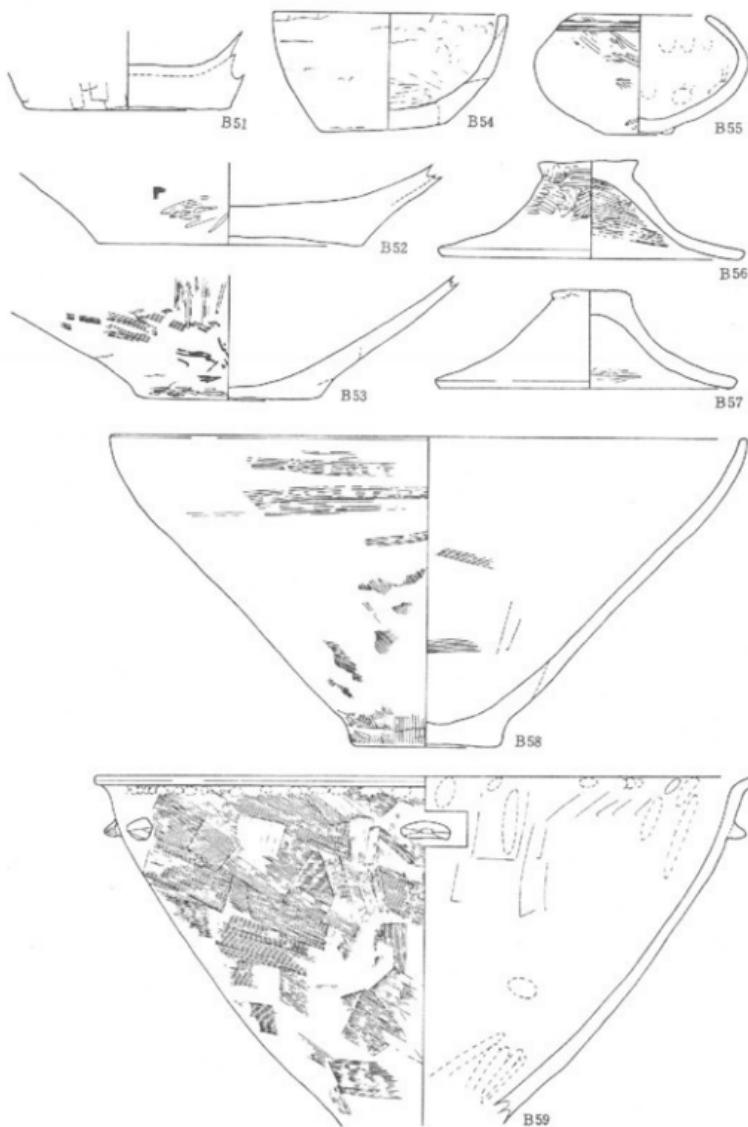
第12図 B S D - 1 出土土器(3)



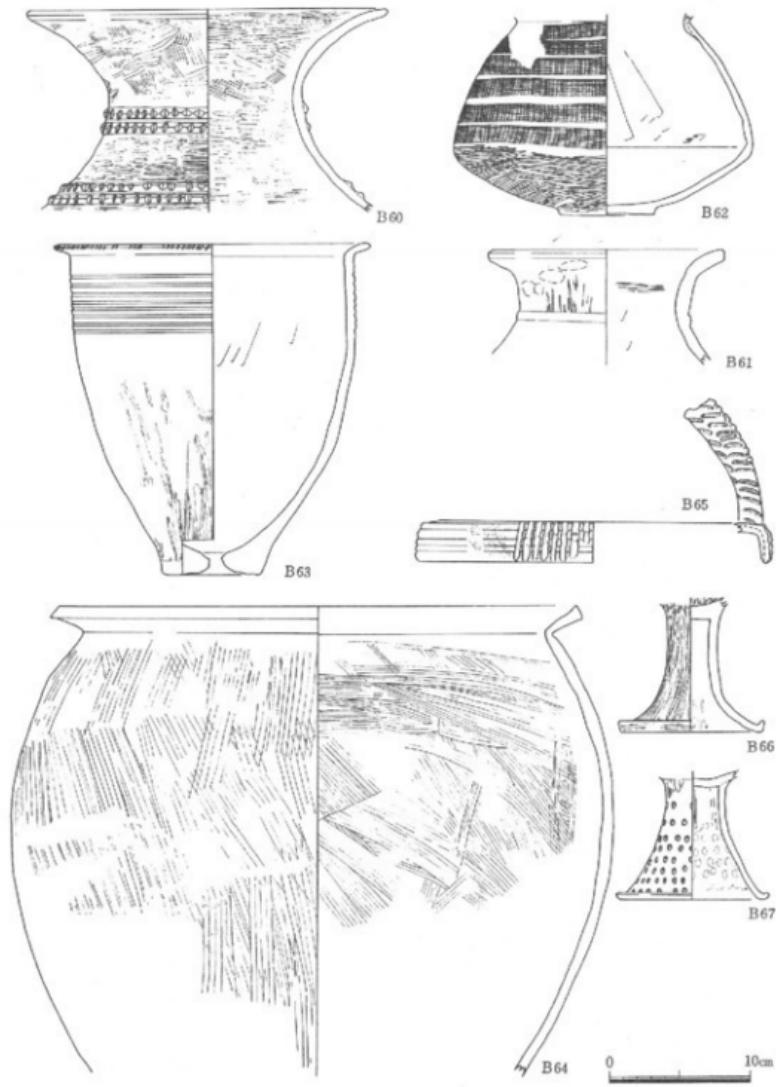
第13図 B S D - 1 出土土器(4)



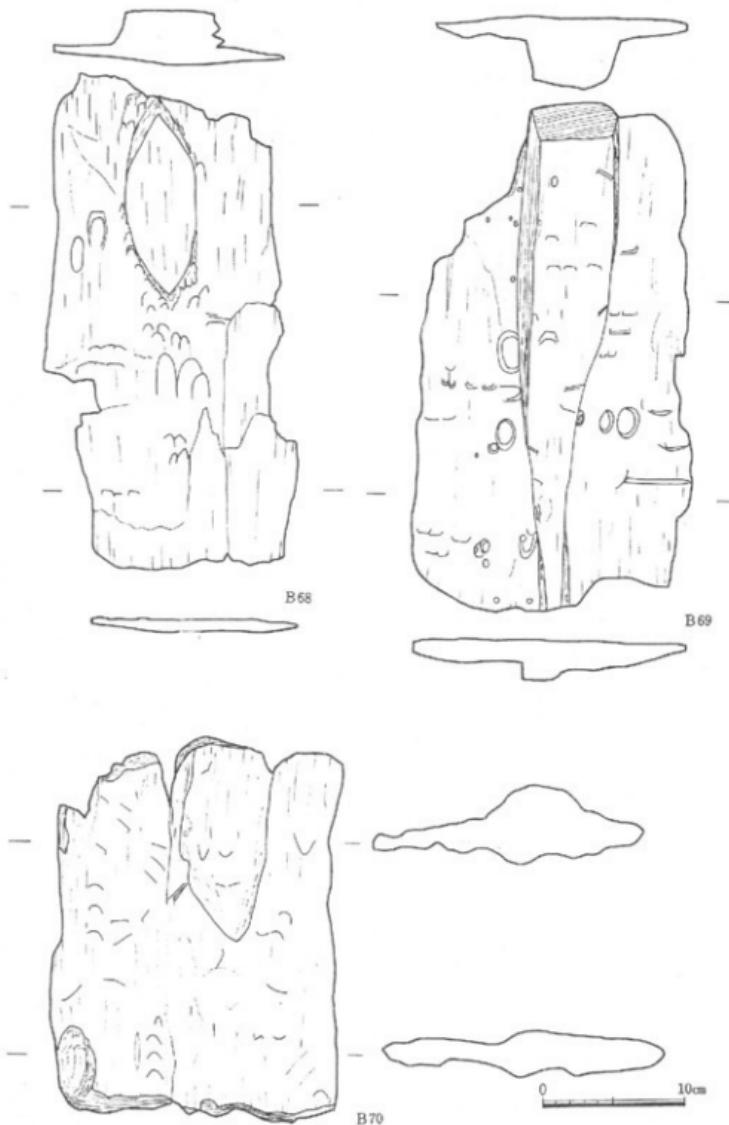
第14図 B S D - 1 出土土器(5)



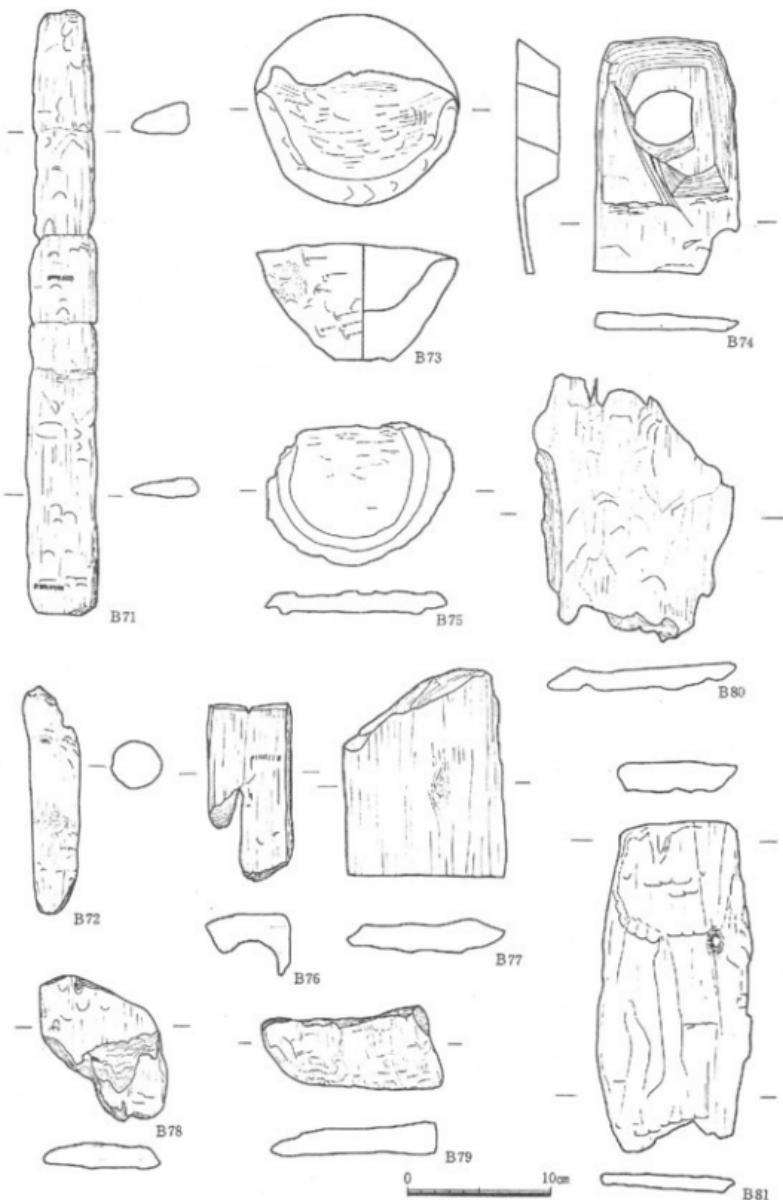
第15図 BSD-1 出土土器



第16図 B区包含層出土土器



第17図 B区出土木器(1)

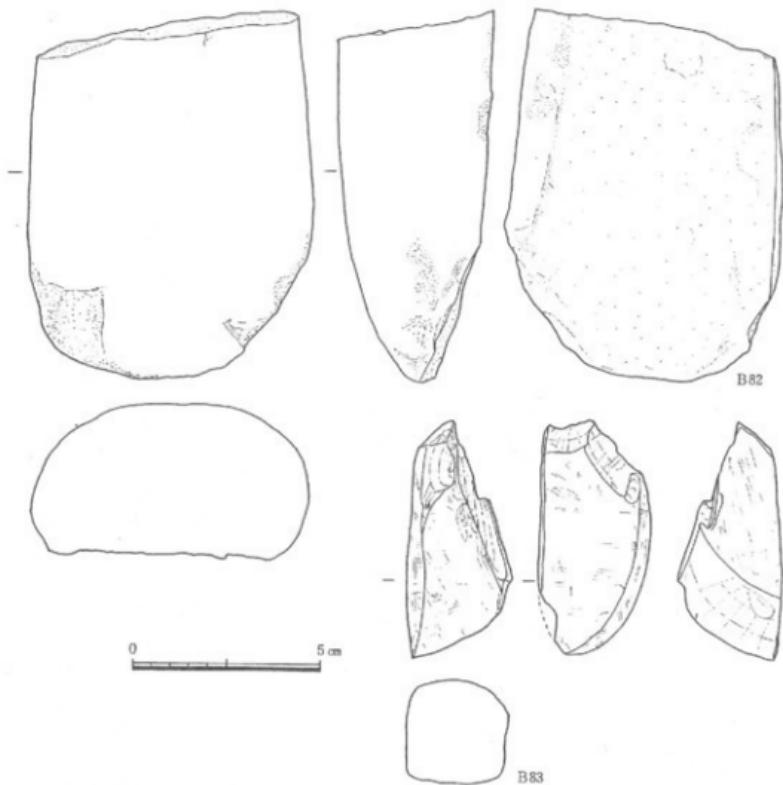


第18図 B区出土木器(2)

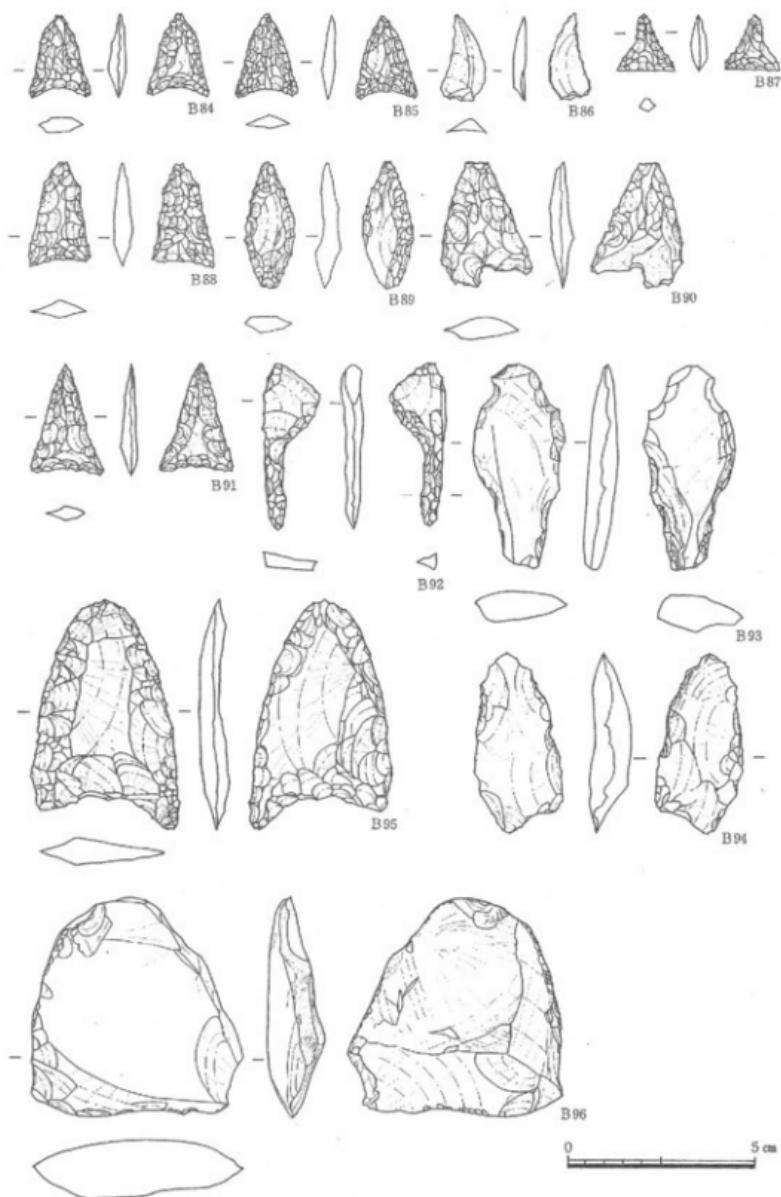
文を施すもの（B 6）や、文様がまったく無いもの（B17）がある。また、頸部に削り出し突帯をもつもの（B 2・13・15）、貼り付け突帯をもつもの（B18・19）がある。この他大型の壺（B20・21・52・53）がある。

無頸壺は口縁部に貼り付け突帯をもつもの（B22）、内湾した口縁部にヘラ描き沈線を施すもの（B55）がある。B55は壺からの転用であろう。

壺は口縁部が短く外反するいわゆる如意形口縁のものや、「くの字」状に外反するものがあるが、口縁部に貼り付け突帯をめぐらすもの（B35）がある。また、外部の調整をハケメやヘラミガキだけで、ヘラ描き沈線、口縁部に刻目を施さない無文のものが比較的多く出土している。



第19回 BSD-1 出土土器



第20図 B区包含層出土土器(1)

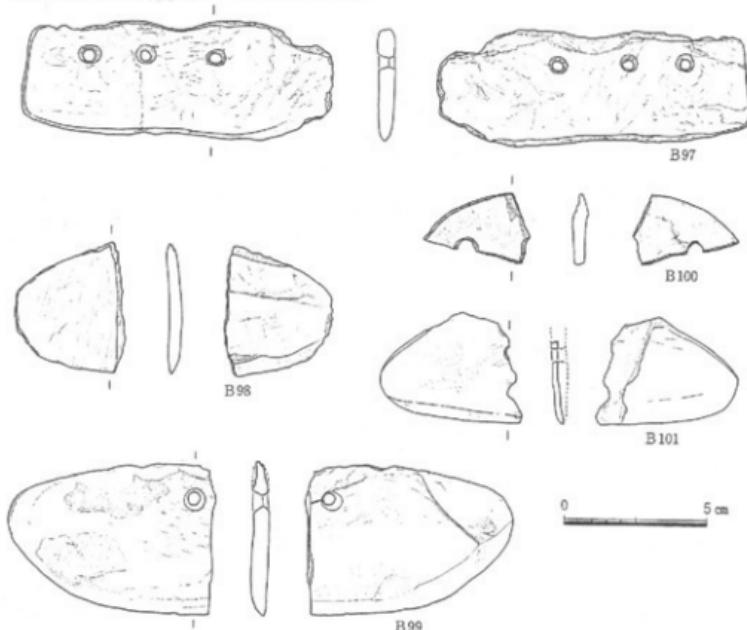
鉢は比較的小型で口縁が直立して終わるもの（B54）、外反するもの（B50）がある。大型の鉢には口縁が直立気味に終わるもの（B58）、口縁部が外反し瘤状突起をもつもの（B59）がある。いずれも外面はハケメを施す。

蓋（B56・57）は壺蓋で、内外面ともヘラミガキ、ハケメを施している。

B S D - I 出土の土器は第 I 様式中段階の特徴をもつものがあるが主に新段階に属しているものと考えられる。

#### 包含層出土土器（第16図）

包含層からは弥生時代前期から中期の土器が出土しているが、やはり量的には前期のものが多い。前期のものでは壺で削り出し突帯（B61）や、貼り付け突帯（B60）をもつもの、壺で如意形口縁を呈し、数条の沈線をめぐらすもの（B63）がみられる。中期のものとしては簾状文を施すもの（B62）、大型の壺（B64）、高杯、鉢の脚部（B66・67）がある。B65は口縁部のみの出土であるが、端面に凹線をめぐらし棒状浮文を縦に付ける。上面には櫛描き烈点文を1～2列施している。



第21図 B区包含層出土土器(2)

### 木器（第17～18図）

木製品はすべてB S D - 1からの出土である。平鉗（B68～70、B74）は、B74以外は柄を装着する部分の舟形隆起を削り出しているのみで、加工段階途中の未製品のものである。また、楕状のもの（B73）や、高台状の突起を削り出したもの（B75）がある。この他に、棒状、板状のものがあるが、器種は不明である。

### 石器（第19、23図）

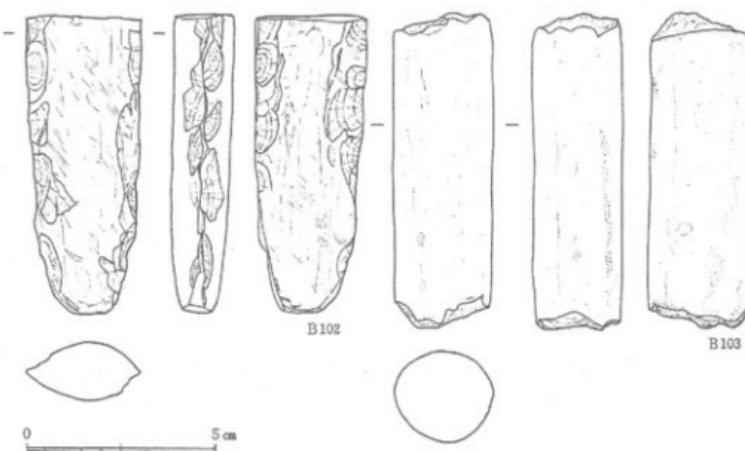
石器はB S D - 1及び包含層から出土している。石器には打製石器（石鎚、石錐、不定石器）、磨製石器（大型蛤刃石斧、柱状片刃石斧、石剣、棒状石製品、石包丁）がある。尚、石器の法量、重量については本文末の遺物観察表に示す。

#### 石鎚

石鎚は凹基式（B84・85・88・90・95）、平基式（B87・91）、尖基式（B89）のものがある。凹基式にはB95のように大型のものがある。石材はすべてサヌカイト製である。

#### 石錐

包含層中から2点出土している。B92は小さい頭部に断面三角形の錐部がつく。B93は錐部の大半を欠損している。いずれもサヌカイト製である。



第22図 B区包含層出土石器



第23図 B区包含層出土土器(4)

#### 柱状片刃石斧 (B83)

B S D - 1 より出土。刃部側のみ残存し、断面は不整方形を呈する。表面は丁寧な研磨により仕上げられている。

#### 石劍 (B 102)

刃部は欠損しているが磨製石劍の柄の部分であろう。サスカイト製で断面はレンズ状を呈する。両面から剥離を加えたのち、表面を研磨している。研磨は両側面と底部にまで及んでいる。

#### 棒状石製品 (B 103)

両端は欠損しているが石棒の一部であろう。緑泥片岩製で断面はほぼ円形を呈し、表面は丁寧に研磨して仕上げる。

#### 石包丁

包含層より出土しているがいずれも破片である。外彎刃、直線刃のものがあり、石材は緑泥片岩 (B 97・99・101)、粘板岩 (B 98)、流紋岩 (B 100) のものがある。

#### 大型蛤刃石斧

B S D - 1 出土 (B 82)、包含層出土 (B 104・105) のものがある。B 82は刃部の一部と体部の片面側を欠損。断面は楕円形を呈する。B 104は体部、刃部とも大きく欠損する。B 105は刃部のみ残存する。体部断面は楕円形を呈し、刃部は使用により擦り減っている。

### 3. C区 (NGT-IV) の調査

#### (1) 基本層序 (第24図)

C区の調査は断面調査も含めて、現地表面 (TP約7.8m) より深さ2mまで実施し、遺構面を3面検出することができた。層序は基本的には10層に大別することができる。

1層 (盛土) 変電所建設時の盛土である。C区全域に0.3~0.5mの厚さで堆積している。

2層 (黒色土) 旧耕作土である。変電所建設時の削平と整地の影響をかなり受けしており層厚は一定しない。削平と整地の影響は次の3層にも影響を及ぼしている。

3層 (暗オリーブ灰色砂混じり土) やはり削平の影響を強く受けているために、層厚は一定していない。場所によっては、完全に削平されてしまっているところがある。

4層 (暗緑灰色砂混じり土) この層も削平の影響を受けているために調査区全域にわたり起伏が認められ、開墾により幾度となく耕されてきたことが窺われる。したがって3層及び4層には染付、瓦器、須恵器の他、弥生土器、サヌカイト石器までも含まれている。

5層 (黒色砂混じり土) 厚さ約0.15~0.2mで堆積しているが、場所によっては途切れているところもある。この層の上面で中近世の遺構面である第1遺構面を検出

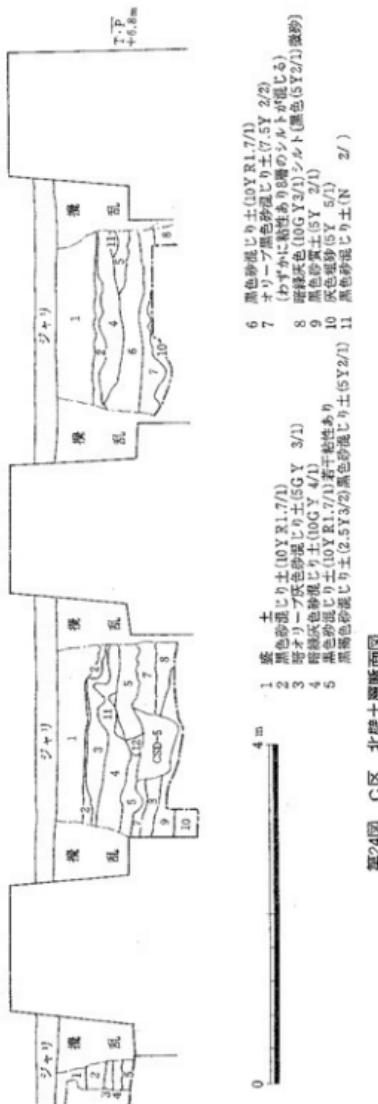


図24図 C区 北壁土層断面図

している。含まれる遺物は弥生時代前期の土器が大多数を占めるが、中期、後期のものも若干含まれている。

6層（黒色砂混じり土） 5層とともに第1遺構面のベースとなっている土である。

7層（オリーブ黒色砂混じり土） 若干粘質土で、場所によってはシルトが混じるところもある。調査区全域にわたり、約0.15~0.25mの厚さで堆積している。この層の上面で弥生時代前期の遺構面である第2遺構面及び第2遺構面下層を検出している。遺物は弥生時代前期の土器が大量に含まれている。

8層（暗緑灰色シルト） 今回の調査では地山と考えた。上面で第3遺構面である自然流路を検出している。

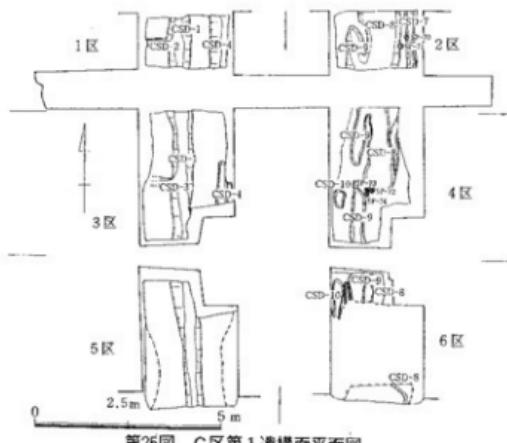
9層（黒色砂質土） 自然流路の埋土と考えられる。

10層（灰色粗砂） 自然流路の埋土である。

## (2) 遺構

### 第1遺構面（第25図）

際立った遺構は検出されておらず、南北方向に走る数条の溝を検出しているだけである。5層の黒色砂混じり土をベースとしているが、遺構が実際に掘り込まれたのはもっと上面からであったと考えられ、遺構上部は後世の削平のため消失していた。溝は幅0.2~1mで、深さ4~17cmと検出した時点では非常に浅く、削平の影響で途中溝が途切れている場所もあった。溝は7層の弥生時代包含層まで掘り込まれているために、遺物は染付、瓦器、



第25図 C区第1遺構面平面図

須恵器の他に弥生土器、石器等が含まれている。

各々の溝は平行に走ることから、畑等に伴う畾状遺構であろう。時期は近世のものと考えられる。

### 第2遺構面（第27・28図）

調査区全体で弥生時代前期の土坑、ピット、溝、土器群等が検出された。

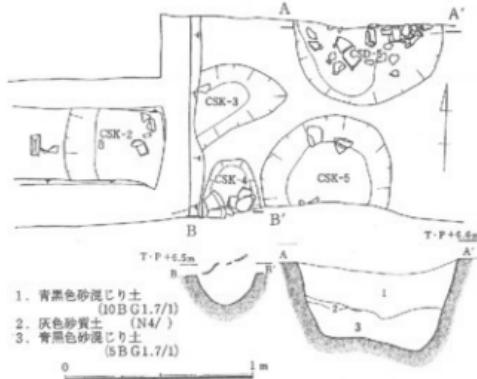
各遺構からは土器、木器、石器、獸骨、等が出土し

ているが、土器は破片ばかりである。遺構はその切り合ひ関係により、3若しくは4時期に分かれると考えられるが、調査の段階では、上層、下層の、2面の遺構面として検出している。これらはあまり時間差はないものと思われるため、ここでは第2遺構面として一括に取り扱い、説明することにする。

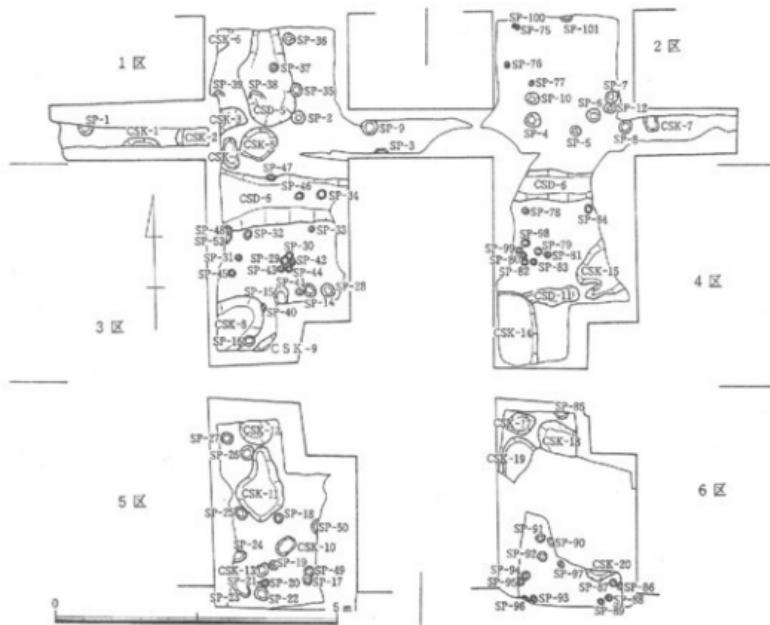
#### 土坑

##### C S K - 1

1区の西側で検出した。北側は排水溝によって切られており、推定で平面円形の土坑である。検出規模は $0.58 \times$



第26図 CSK-2, 3, 4, 5 遺物出土状況



第27図 C区第2遺構面上層平面図

0.14mで、深さ0.18mを測る。埋土は黒色砂混じり土である。

#### C SK-2 (第26図)

1区の西側C SK-1の東隣で検出した。西側を除く三方を排水溝で切られており、推定で平面円形の土坑である。検出規模は $0.3 \times 0.54$ m、深さ0.1mを測る。埋土は黒色砂混じり土である。

#### C SK-3 (第26図)

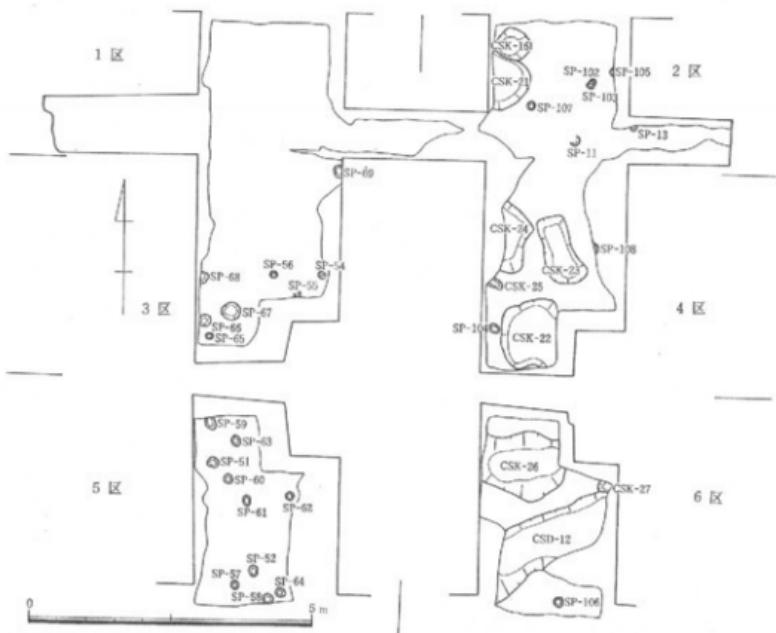
1区の西側C SK-2の東隣で検出した不定形の土坑である。西側を排水溝で切られており、検出規模 $0.5 \times 0.4$ m、深さ0.07mを測る。埋土は黒色砂混じり粘質土である。

#### C SK-4 (第26図)

1、2区にまたがって検出した長軸0.5m、短軸0.3mの平面梢円形の土坑である。深さ0.16mを測る。埋土は炭化物が若干混入する黒色砂混じり土である。

#### C SK-5 (第26図)

C SK-4の東隣で検出した長軸0.7m、短軸0.45mの不整円形の土坑である。深さは



第26図 C区第2遺構面下層平面図

0.23mを測る。埋土はCSK-4と同様、炭化物を若干含む黒色砂混じり土である。

#### CSK-6

1区の北側で検出している。北側と西側を排水溝によって切られているため平面形は明らかではない。検出規模  $0.4 \times 0.25\text{m}$ 、深さ0.19mを測る。埋土は黒色砂混じり粘質土である。土器片と伴に獸骨が出土している。

#### CSK-7

2区の東側で検出している。北側は排水溝で切られているが、推定で平面長円形の土坑である。検出規模は  $0.5 \times 0.2\text{m}$  で、深さは0.32mを測る。埋土は黒色砂混じり粘質土である。

#### CSK-8

3区の南西隅で検出した。西側と南側を排水溝によって切られているため形状は不明であるが、検出規模は  $0.9 \times 0.12\text{m}$  で、深さは0.17mと浅い。埋土は、上層が青黒色砂混じり土、下層が暗灰色粘質土の二層に分層できた。

#### CSK-9

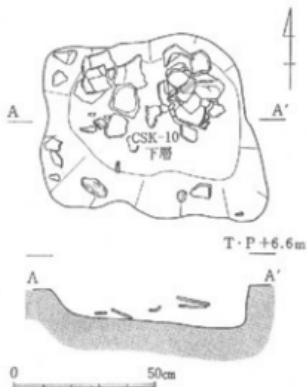
3区の南側で検出しているが、大半を東側と南側の排水溝によって切られているため形状は不明である。検出規模は  $0.6 \times 0.14\text{m}$  で、深さは0.11mを測り、埋土は黒色砂混じり土である。

#### CSK-10

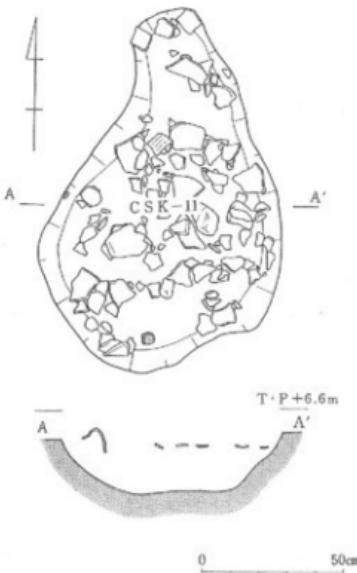
5区の中央部で検出している。当初は  $0.29 \times 0.37\text{m}$  の平面橢円形の土坑と思われたが、掘り下げていくうちに下層では  $0.78 \times 0.62\text{m}$  の不定形の土坑となった。埋土は上層が青黒色砂混じり土、下層が暗青灰色砂混じり土で、土器片と伴に太形蛤刃石斧が2点(C 111・112)出土している。

#### CSK-11(第30図)

5区の中央部やや北寄りで検出した、平面不定形の土坑である。長軸は  $1.3\text{m}$ 、短軸は最大で  $0.81\text{m}$ 、最小で  $0.3\text{m}$  を測る。深さは0.21mで、埋土は、上層が暗灰色砂混じり土、下層が黒色砂混じり粘質土である。土器片と伴に獸骨が出土し



第29図 CSK-10遺物出土状況



第30図 CSK-11 遺物出土状況  
質土である。

#### CSK-15

4区で検出している不定形の土坑である。南側と東側を排水溝によって切られており、検出規模  $1.0 \times 0.6\text{m}$  で、深さ  $0.03\text{m}$  を測る。埋土は暗灰色砂混じり粘質土である。

#### CSK-16

2区で検出している橢円形の土坑で、CSK-21によって切られている。規模は  $0.6 \times 0.6\text{m}$  で、深さは  $0.22\text{m}$  を測る。埋土は上層が暗灰色粘質土、下層が炭化物を少量含む黒色粘質土である。

#### CSK-17

6区で検出している橢円形の土坑である。規模は  $0.65 \times 0.44\text{m}$  で、深さは  $0.17\text{m}$  を測る。埋土は黒色粘質土である。

#### CSK-18

6区で検出している不定形の土坑である。南側を搅乱によって切られているが、検出規

ている。

#### CSK-12

5区の北側で検出しており、北側は排水溝によって切られているため平面形は明らかではない。検出規模は  $0.55 \times 0.4\text{m}$  、深さ  $0.16\text{m}$  を測る。埋土は暗灰色砂混じり土である。

#### CSK-13

5区の  $0.28 \times 0.2\text{m}$  の平面橢円形の土坑である。深さは  $0.23\text{m}$  を測り、埋土は暗灰色砂混じり粘質土である。

#### CSK-14

4区の南西隅で検出している。南側と西側を排水溝によって切られているために、平面形は明らかではない。検出規模は  $0.7 \times 0.13\text{m}$  とやや大型の土坑であるが、深さは  $0.05\text{m}$  と浅い。埋土は暗灰色砂混じり粘

模は $0.7 \times 0.72$ m、深さ0.12mを測る。埋土はオリーブ黒色粘質土で土器片と併に獸骨が出土している。

#### C SK-19

6区で検出している不定形の土坑である。南側を攪乱によって切られているが、検出規模は $0.77 \times 0.51$ m、深さは0.06mを測る。埋土はオリーブ黒色粘土である。土器の他木製の杓の未製品（C78）が出土している。

#### C SK-20

6区の南側で検出している。大半を北側の攪乱によって切られているため、形状は不明である。検出規模は $0.55 \times 0.2$ m、深さは0.14mを測り、埋土は黒色粘質土である。

#### C SK-21

2区の西側で検出しており、北側にあるC SK-16を切っている。西側は排水溝によって切られており、検出規模は $0.55 \times 0.2$ m、深さは0.14mを測る。埋土は上層が暗灰色粘質土、下層が炭化物を少量含む黒色粘質土である。

#### C SK-22（第31図）

4区の南側で検出しており、東側と南側の一部を排水溝によって切られている。検出規模は $0.88 \times 0.6$ m、深さは0.16mを測り、埋土は上層が暗灰色粘質土、下層が炭化物を少量含む黒色粘質土で、土器片の他不明石製品（C 116）と獸骨が出土している。

#### C SK-23

4区の中央部で検出した長軸1.2m、短軸0.54mの不定形の土坑である。深さは0.08mを測り、埋土は暗灰色粘質土である。土器片と獸骨が出土している。

#### C SK-24

4区の西側で検出している。西側を排水溝によって切られているが、検出規模 $1.2 \times 0.5$ mを測る比較的大型の土坑である。深さは0.08mで、埋土は黒色砂混じり粘質土で、土器片と獸骨が出土している。

#### C SK-25

4区の西側C SK-24のすぐ西側で検出しており、西側を排水溝によって切られているが、検出



第31図 CSK-22 遺物出土状況

規模  $0.3 \times 0.16$ mで推定で平面楕円形の土坑である。深さは0.05mを測り、埋土は黒色砂混じり粘質土である。

#### C SK-26

6区の北側で検出している不定形の土坑である。東側と西側を排水溝によって切られているが、検出規模は、 $1.35 \times 1.3$ m、深さ0.16mを測る。埋土は黒色粘質砂層である。

#### C SK-27

6区の東側C SD-12のすぐ北側で検出している。C SD-12と接しているが、切り合の関係はないと考えられる。北側と西側を排水溝によって切られているが、検出規模 $0.28 \times 0.2$ m、深さ0.09mを測り、推定で平面楕円形の土坑である。埋土は黒色砂混じり粘質土である。

溝

#### C SD-5 (第32・33図)

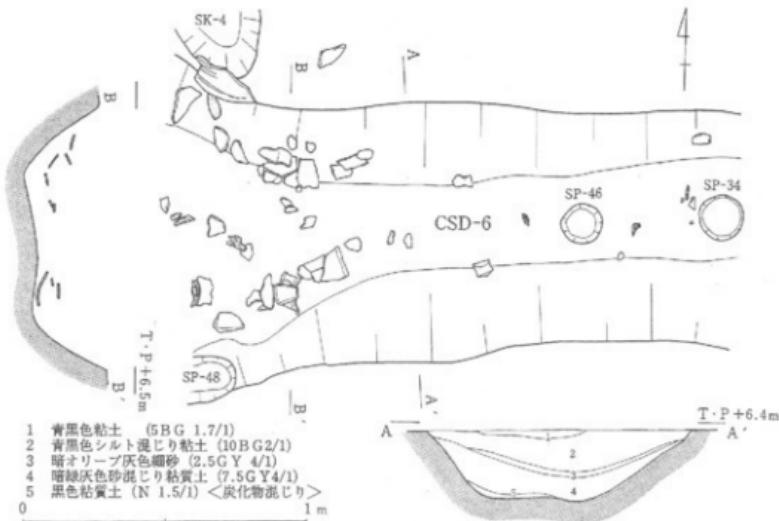
1区で検出している南北方向に走る溝である。北端は排水溝によって切られているが、南端は袋状に終わる。幅 $0.45 \sim 0.9$ m、深さは $0.2 \sim 0.5$ mで、南端部分で深く落ち込んでいる。埋土は落ち込んでいるところで、4層に分けることができ、上層から青黒色砂混じり土、A  
青黒色砂混じり土、炭化物を含む暗灰色砂混じり土、灰色砂質土の順で堆積している。出土遺物は土器の他に石槍(C 82)、獸骨が出土している。

#### C SD-6 (第34図)

3、4区で検出しており、調査区を東西方向に走る溝である。両端を検出しておらず、さらに調査区外へ



第32図 CSD-5 上層遺物出土状況 第33図 CSD-5 下層遺物出土状況



第34図 C S D - 6 遺物出土状況

続いているものと思われる。幅は0.48~1.2mで、4区で幅は狭くなっている。深さは0.16~0.23mを測り、埋土は3区では5層、4区では2層に分層することができる。遺物は土器の他に柱状片刃石斧（C 115）、獸骨が出土している。

#### C S D - 11

4区で検出している東西方向の溝で、西側はC S K - 14に切られており、東端は袋状に終わる。幅0.18~0.3m、深さ0.05mを測る。埋土は黒色砂混じり粘質土である。

#### C S D - 12

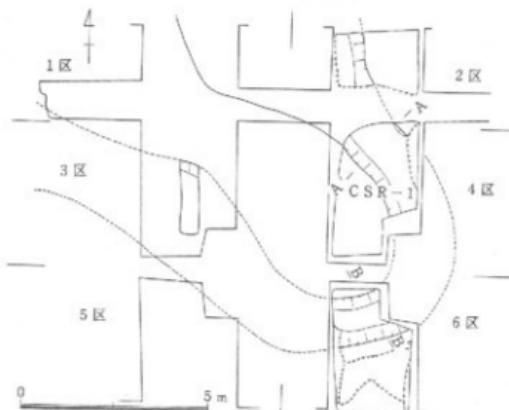
6区で検出している北東から南西方向に走る溝である。搅乱によって肩の一部を切られているが、幅0.78m、深さ0.32mを測る。埋土は上層から黒色砂混じり粘質土、細砂と炭化物が混じる黒色粘質土、暗灰色シルトの3層に分層される。

#### 土器群

第2遺構面上層を検出する過程の6層下層、7層上面の間で検出しておらず、1区で土器群A、5区で土器群B・C、6区で土器群Dをそれぞれ検出している。第2遺構面とのレベル差を考えると、第2遺構面に伴うものではないようである。土器は弥生時代前期のが大半を占めるが、6層からの混入と考えられる中期の土器が若干認められる。

## ピット

第2造構面上層及び下層では総数 108個ものピットを検出しているが、調査面積が狭小なため建物が建つかどうかは不明である。しかし、5区で1棟の建物プランになるであろうピットを検出している。推定で1間×2間の掘立柱建物であるが、調査面積が狭小なため、実際の規模はさらに大きいかも知れない。その他のピットはどのような施設に伴うものか不明である。ピットで柱根が残存していたのは、C S P - 108のみである。



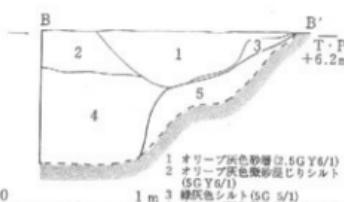
第35図 C区第3造構面平面図

## 第3造構面 (第35図)

C S R - 1 (第36図)  
第8層をベースとして自然流路を検出している。明確に流路の肩を検出し得たのは2、4、6区であったが、1、3区でも側溝と深掘りトレーニングの断面から砂の堆積層が認められ、流路の肩を検出している。同一の流路であると認識している。



- 1 オリーブ灰色粗砂 (5G Y6/1)
- 2 オリーブ灰色中砂 (5G Y5/1)
- 3 緑灰色シルト (5G5/1)
- 4 灰色細砂 (7.5Y 5/1)



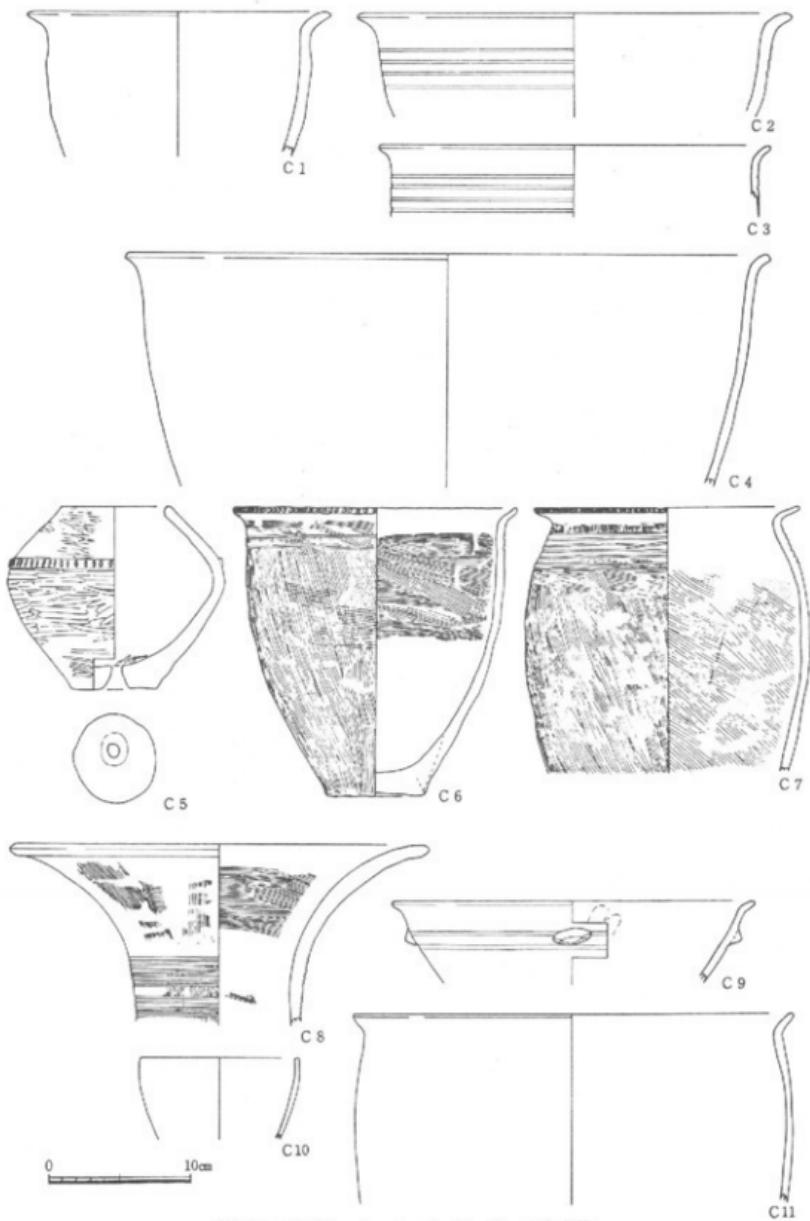
第36図 CSR-1 土層断面図

1、3、5区での河道を復元すると図のようになり、かなりの蛇行をしながら流れている。幅 1.5~ 1.7m、深さは 0.25~ 0.9m で、特に 1、3区と 6区で深くなっている。埋土はオリーブ灰色の砂層で、流路内からの出土遺物はなかった。6区での土層断面から自然流路は 2ないし 3時期で、幅、深さを変えながら、流れていたものと思われる。

### (3) 出土遺物

#### 土器

前述したように出土土器は上層の遺物包含層に少量の須恵器、土師器、瓦器が認められ



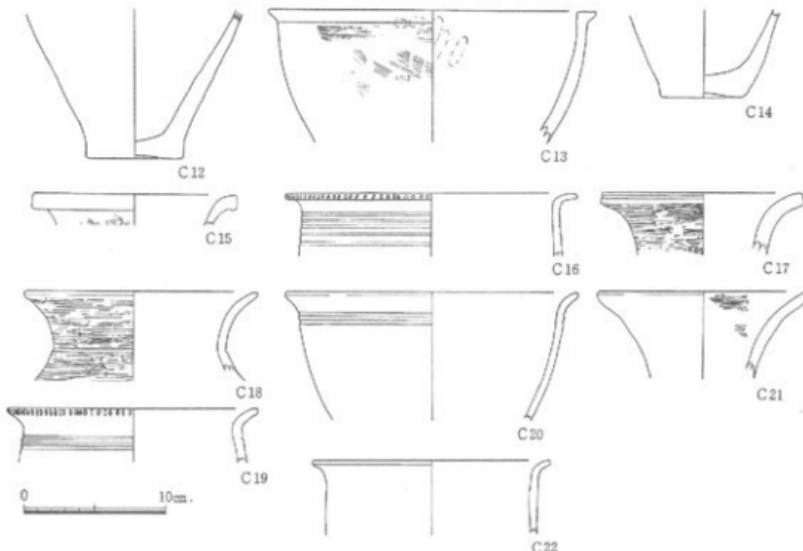
第37図 CSK-4, 5, 6, 10, 11 出土土器

るが、弥生土器が大半を占める。弥生土器は前期から中期のものが主で、また第2遺構面の各遺構からは弥生時代前期の土器が出土しているが、いずれも破片のものが多く完形品はほとんど無い。したがって図化し得たのはごく一部に過ぎず、ここではすべての遺構についての出土土器の説明はしないことを最初に断っておく。尚、土器の詳細については本文末の遺物観察表に記した。

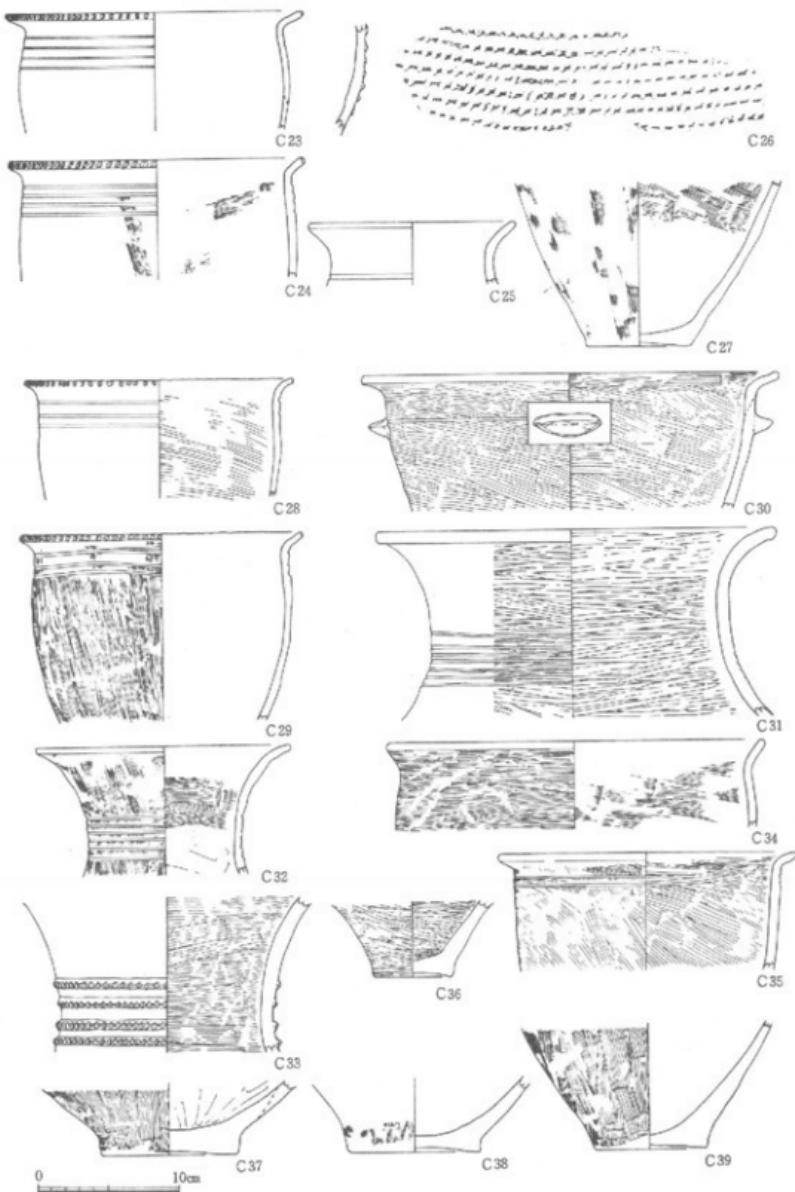
#### 遺構出土土器（第37～41図）

第2遺構面の遺構出土土器は、主に第I様式新段階の特徴をもつものである。器種別にみると壺、無頸壺、甕、鉢、蓋がある。出土量では甕が最も多い。

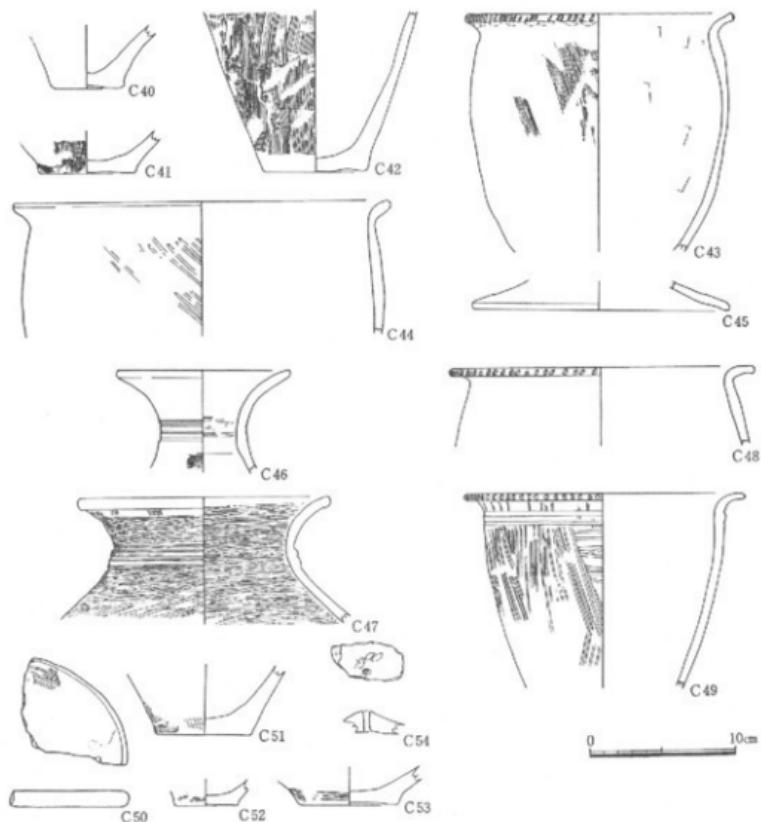
壺ではやや長めの頸部に口縁部がラッパ状に開き、頸部にヘラ描き沈線文が数条施されるもの（C8・CSK-5出土、C32・CSD-5出土、C46・CSD-6出土）、短めの頸部にヘラ描き沈線文が1条のみ施されるもの（C18・CSK-22出土、C25・CSD-5出土）、削り出し突帯をもつもの（C47・CSD-6出土）貼り付け突帯をめぐらすものの（C33・CSD-5出土）などがみられる。また、口縁部内面に突帯をもつもの（C55・CSP-15出土）もある。



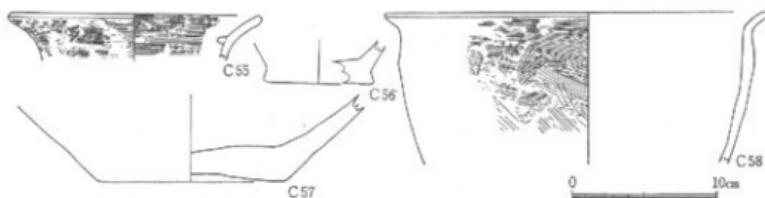
第38図 CSK-14, 17, 18, 21, 22, 24 出土土器



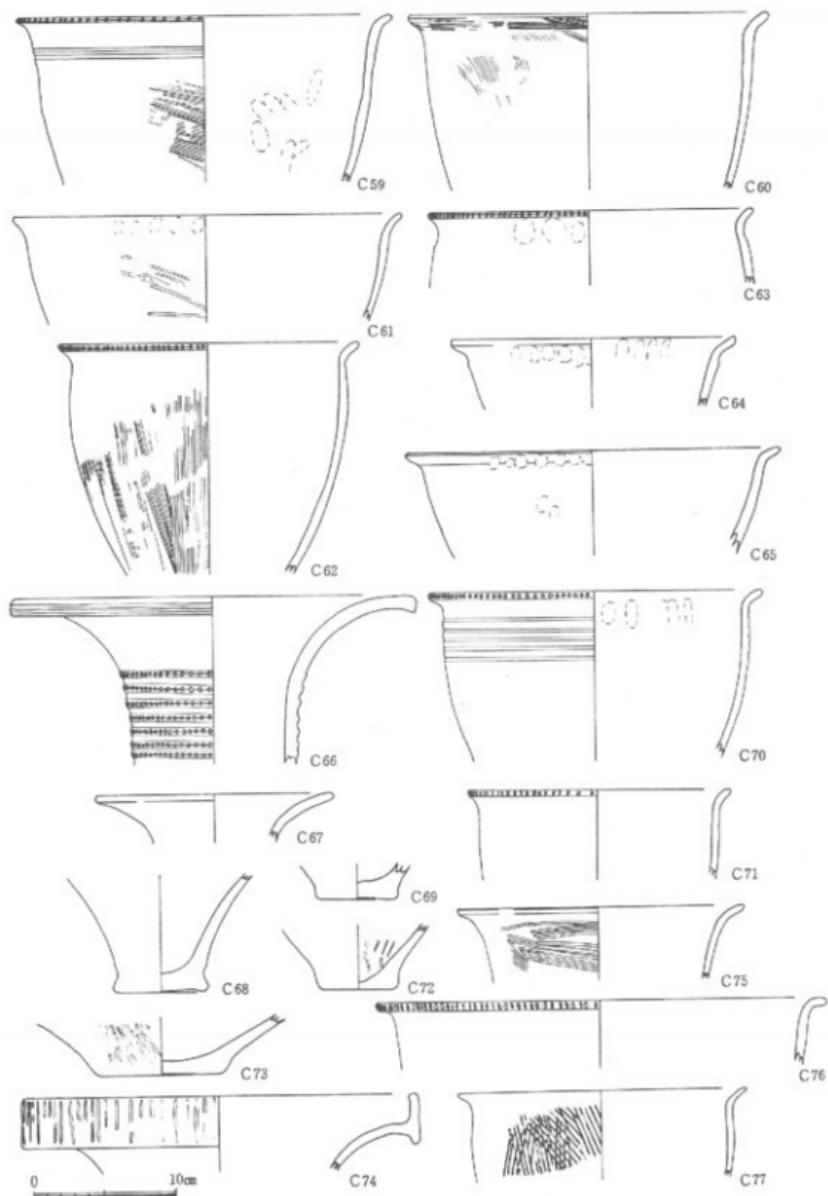
第39図 CSD-5 出土土器



第40図 CSD-6, 8 出土土器



第41図 CSP-15, 80 出土土器

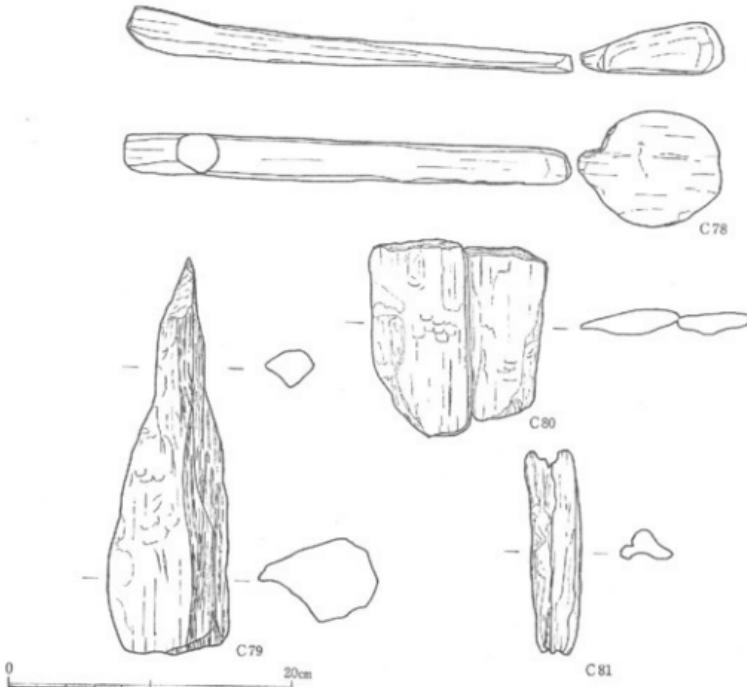


第42図 C区土器群 A・B・C・D出土土器

無頭柵は口縁部が内傾し、算盤玉状の体部に貼り付け突帯をもつもの（C-5・C SK-10、口縁が直に立ちあがるもの（C-10・C SK-11出土）がある。

柵は短く外反したいわゆる如意形口縁で、全体が倒鐘形を呈する。胸部はあまり膨らまず、胸部最大径が口径を下回るものがほとんどであるが、なかには上回るもの（C 7・C SK-10出土）もある。文様は口縁端部に刻目を入れ、頭部に1~数条のヘラ描き沈線文をめぐらすものや口縁端部の刻目ののみのものが多いが、文様を施さない無文のもの（C 1・C SK-4出土、C 4・C SK-6出土、C 11・C SK-11出土、C 22・C SK-24出土、C 44・C SD-出土）もある。

鉢には口縁端部に面をもち無文のもの（C 13・C SK-14出土）、口縁が短く外反し頭部に数条のヘラ描き沈線文を施すもの（C 2・C SK-5出土、C 20・C SK-22出土）、瘤状隆起をもつもの（C 9・C SK-11出土）がある。



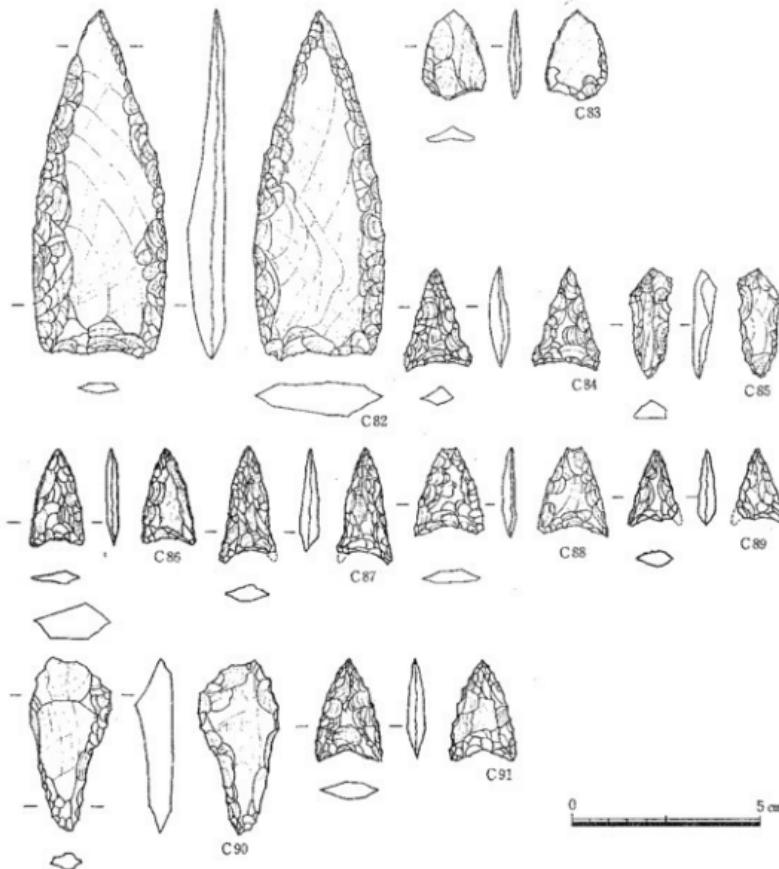
第43図 C区出土木器

土器群及び包含層出土器（第42図）

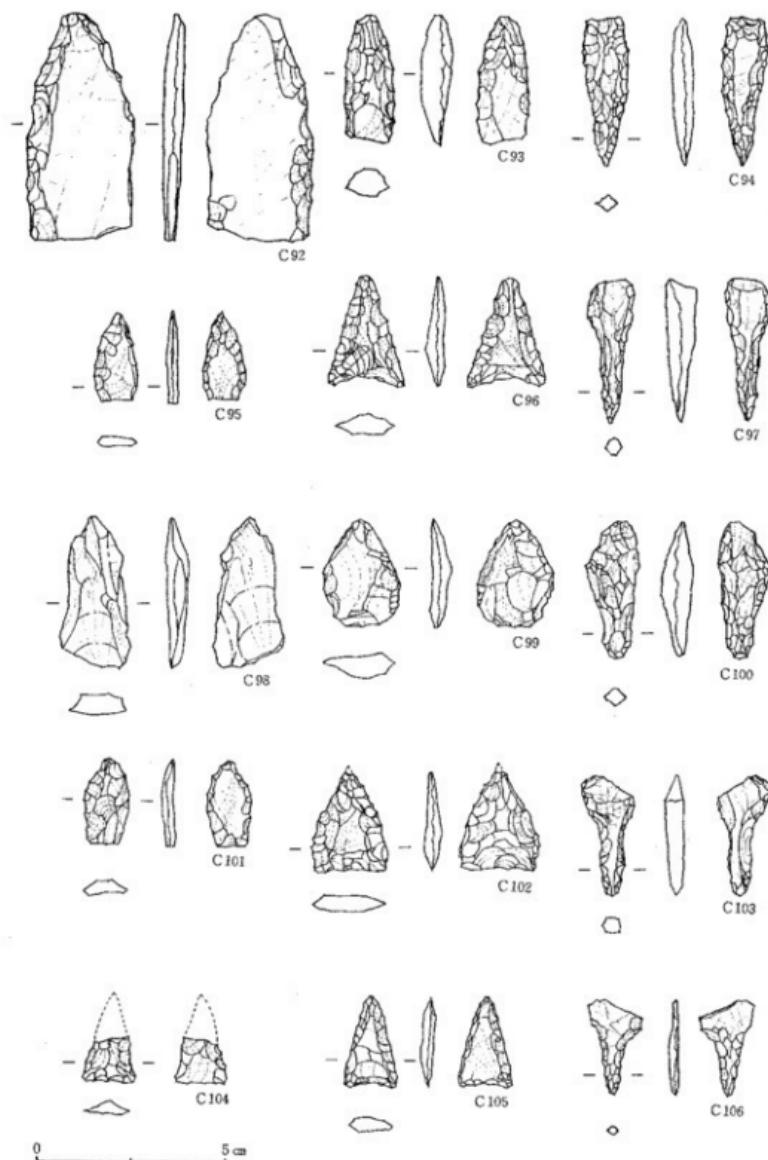
中期の土器が若干含まれるが、前期の土器が大半を占めている。器種別にみるとやはり甕の出土量が多い。また、口頭部に瘤状隆起のある鉢の出土が目立っている。

木器（第43図）

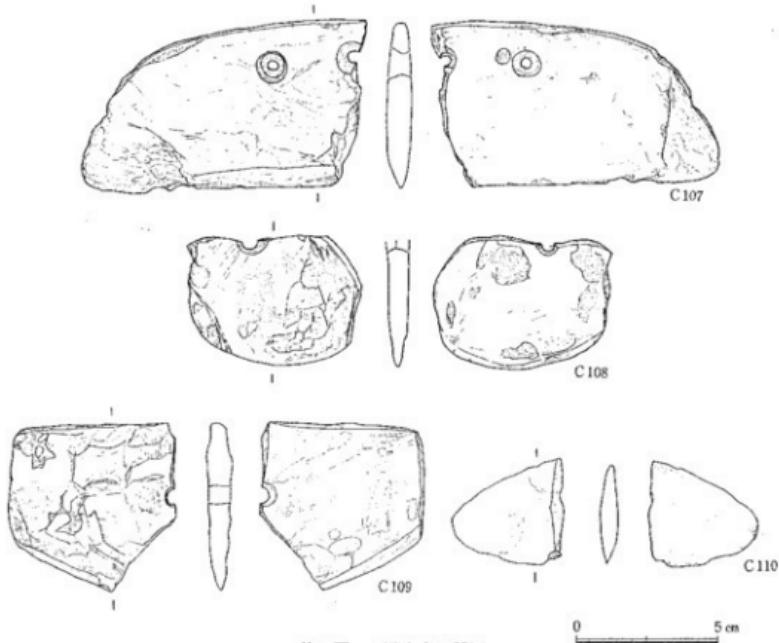
C SK-19より杓（C78）が出土している。頭部はまだ抉り抜かれておらず未製品であろう。その他 C SD-8より板状製品（C80）、C SK-19より棒状製品が出土している



第44図 C区出土石器(1)



第45図 C区出土石器(2)



第46図 C区出土石器(3)

が器種は不明である。C S P - 108には柱根が残っていた。

#### 石器

石器には打製石器（石歛、石錐、不定形石器）、磨製石器（石包丁、大型始刀石斧、柱状片刃石斧）があり、この他砥石、不明石製品がある。

#### 石歛（第44~49図）

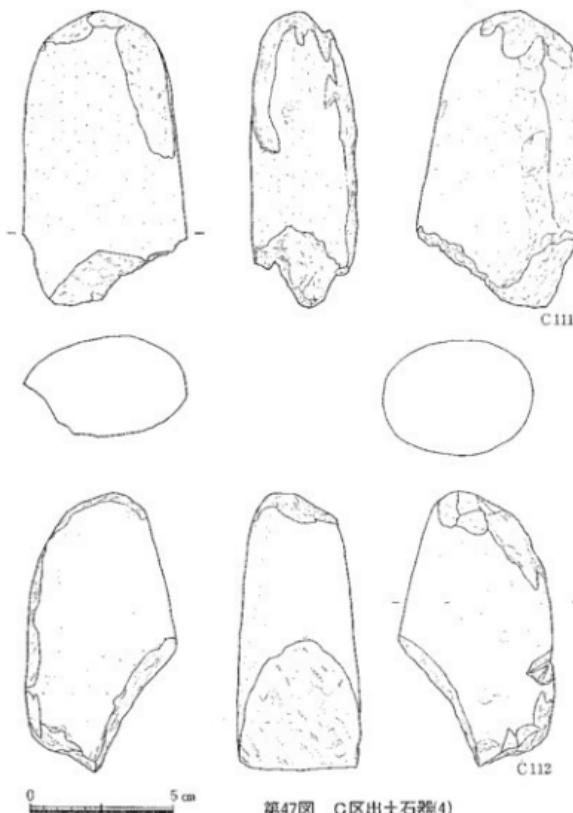
凹基式、平基式のものがみられる他、石歛未製品（C83・99）がある。凹基式（C84・86・87・88・89・91・96・105）のものは、細身のもの小型もの各タイプのものがある。平基式は二等辺三角形を呈するもの（C 102・104）と先端部から基部にかけて丸見を帶びた小型で厚みの薄いもの（C95・101）がある。

#### 石錐

錐部が比較的太いもの（C85・90・94・100）と細いもの（C97・103・106）がある。

#### 石槍（C82・92）

C82はC S D - 5より出土している。基部と側縁に細部調整を施している。C92は左側



第47図 C区出土石器(4)

縁にのみ細部調整  
がみられるだけで、  
未製品であろう。

不定形石器 (C  
93・98)

C93は両面に細  
部調整がみられ、  
石鏃或いは尖頭器  
の未製品であろ  
う。C98には細部  
の調整はみられな  
い。

#### 石包丁

いずれも包含層  
からの出土で、直  
線刃 (C107・109)  
のものと外骨刃  
(C108・110) の  
ものがある。C  
107・108は綠泥片  
岩製である。

#### 大型蛤刃石斧

C SK-10出土 (C111・112) と包含層出土 (C 113) のものがある。C 111・C 112  
は刃部を欠損、断面は長円形を呈する。C 113は刃部を欠損するが、表面は熱を受けたた  
めかガラス状に溶けている。

#### 柱状片刃石斧 (C 115)

C SD-6より出土している小型の柱状片刃石斧である。断面は隅丸方形を呈し表面は  
丁寧に研磨して仕上げる。

#### 砥石 (C 118)

包含層で出土している。形状は直方形を呈し、表裏両方とも使用の痕が認められるが両

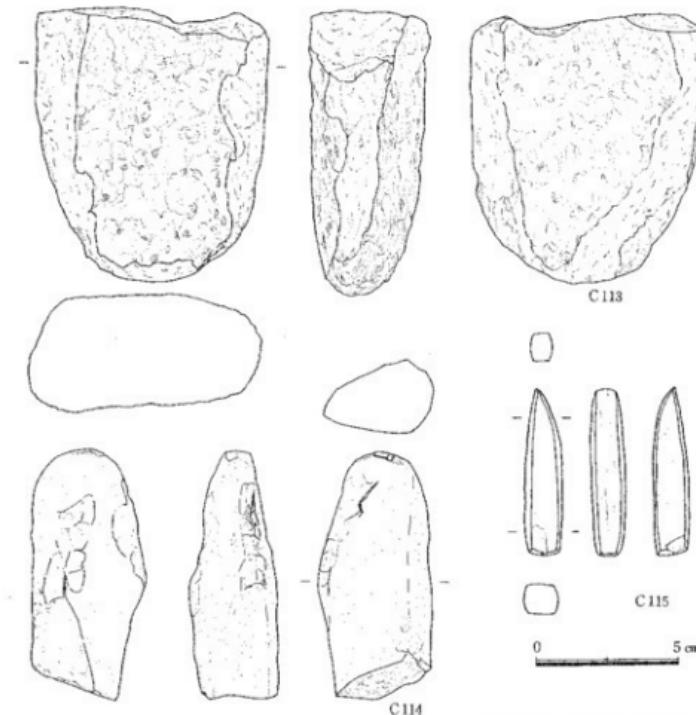
側面は使用されていない。砂岩製。

#### 不明石製品

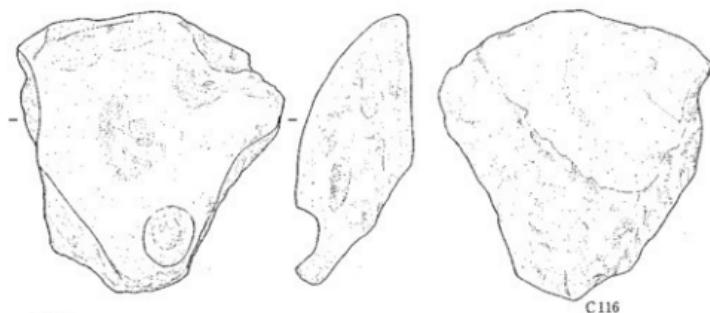
C SK-22出土 (C 116)、C SK-13出土 (C 117)、包含層出土 (C 114・119) がある。C 116は欠損のため全體の形状は不明であるが表面は丸味を帶びており、裏面は欠損しているが面をもっていたようである。表面に径 1.7× 2.0cm、深さ 5mm の穴があけてある。石材は砂岩製。C 117は板状で綠泥片岩製。加工痕、使用痕は認められない。C 114は柱状で自然石であるが先端部に使用痕がみられる。C 119は円板状で表面及び周縁部を研磨している。粘板岩製。

#### 獸骨

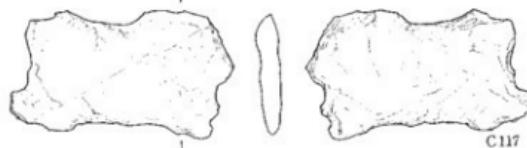
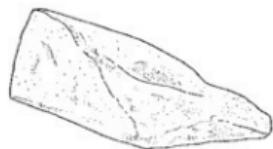
C SK-6・11・18・22・23・24、C SD-5・6、C SP-53から出土している。いずれも小片であるが、特に出土が目立つのはC SD-6で、イノシシの下顎、肩甲骨、頸骨の一部が出土している。



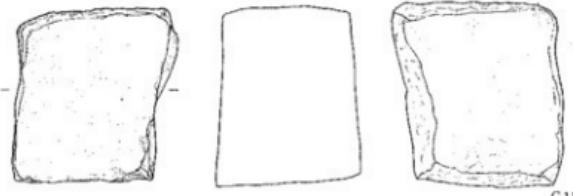
第48図 C区出土石器(5)



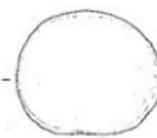
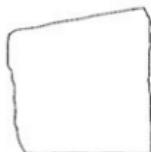
C116



C117



C118



C119

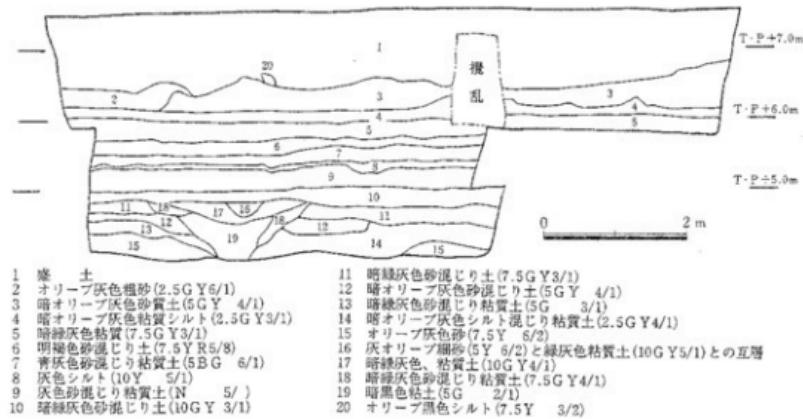
0 5 cm

第49図 C区出土石器(6)

#### 4. D区 (NGT-89-1) の調査

##### (1) 基本層序 (第50図)

D区は変電所敷地の中央部、やや南側に位置している。ここでは調査区の西壁断面を参考にして説明を加えることにする。



第50図 D区西壁土層断面図

1層 (盛土) 層厚 1.0~ 1.2m、変電所建設時の盛土である。

2層 (オリーブ黄色細砂) 旧耕作土

3層 (暗オリーブ灰色砂質土) 旧耕作土

4層 (暗オリーブ灰色粘質シルト) 2・3層に比べ粘性が強いが、色調は同じである。

5層 (暗緑灰色粘質シルト) 旧耕作土直下の層で、染付や摩耗した瓦器片が出土する。この層の上面で、南北方向に走る水路を検出している。

6層 (明褐色砂混じり土) 層厚約15~20cmで、調査区全体に水平に堆積する。遺物の包含状況は5層と同じ状況である。

7層 (青灰色砂混じり粘質土) 層厚約15~20cmで、摩耗した瓦器片の他土師皿片や須恵器片が含まれる。

8層 (灰色シルト) 調査区全体で、薄く堆積している。

9層 (灰色砂混じり粘質土) 層厚約30cmと、調査区全体でやや厚く堆積している。この層からは土師皿片、須恵器の他に弥生土器、サヌカイト片を出土している。

10層 (暗緑灰色砂混じり土) 層厚約15~30cm、弥生土器、サヌカイト片を含む。上面で南

北方向に平行に走る数条の溝を検出している。

11層（暗緑灰色砂混じり土）純粹の弥生時代遺物包含層である。この層の上面で東西方向に走る自然流路を検出している。

12層（暗オリーブ灰色砂混じり土）同じく弥生時代遺物包含層である。前期の土器が多く含まれる。この層の上面で自然流路とピットを検出している。

13層（暗緑灰色砂混じり土）

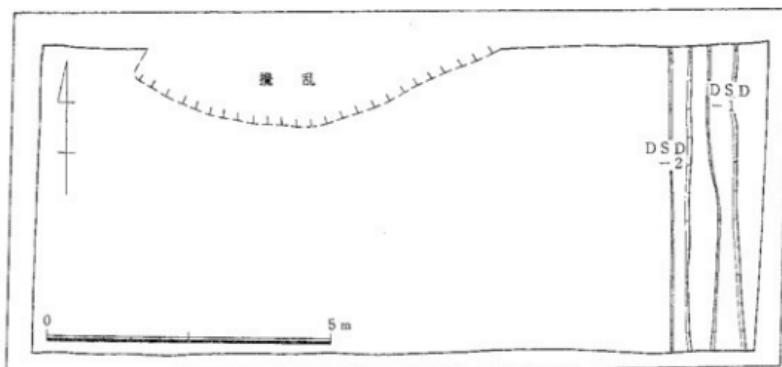
14層（暗オリーブ灰色シルト混じり粘質土）

15層（オリーブ灰色砂）13～15層には遺物は含まれない。今回の調査では地山と考えた。

## (2) 遺構

第1遺構面（第51図、第3表）

5層上面で検出しておらず、調査区の東側で南北方向に走る溝を2条検出している。近世以降の水路であろう。



第51図 D区第1遺構面平面図

NGT D区遺構一覧表

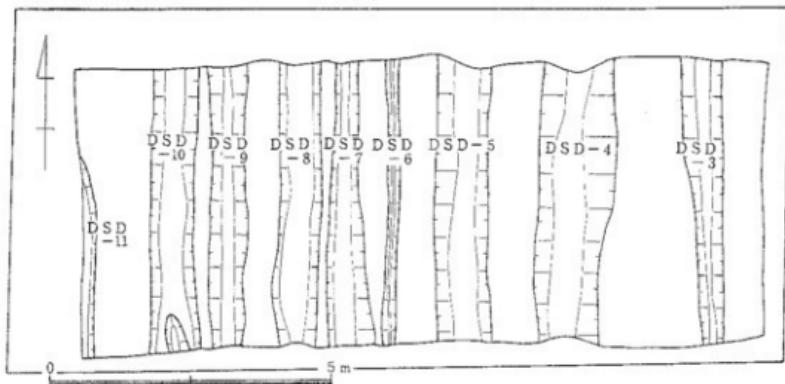
第1遺構面						
遺構番号	形狀	平面規模(長さ×幅)cm	深さcm	埋土	出土遺物	備考
SD-1		60×30	20×30	暗オリーブ灰色 粘質シルト	杭	
SD-2		40×30	20		染付磁器	

第3表 D区第1遺構面遺構一覧表

第2遺構面（第52図、第4表）

10層上面で検出しておらず、調査区全体で9条の南北方向に走る浅い溝を検出している。

鉛滑も観察され、畑等の畠の名残りであろう。



第52図 D区第2遺構面平面図

遺構番号	平面規模(長さ×幅)cm	深さcm	埋土	出土遺物	備考
SD-3	510 × 35 ~ 70	7~12	灰色砂混じり粘質土		
SD-4	510 × 107 ~ 140	15~19			
SD-5	490 × 90 ~ 95	6~11			
SD-6	500 × 17.5~ 30	4			
SD-7	500 × 40 ~ 85	7~ 9			
SD-8	515 × 65 ~ 82.5	9~10			
SD-9	500 × 52.5~ 70	5~11			
SD-10	505 × 70 ~ 82.5	5~ 8			調査区の南で2本に分歧
SD-11	355 × 23.5~ 35	8			

第4表 D区第2遺構面遺構一覧表

### 第3遺構面（第53図）

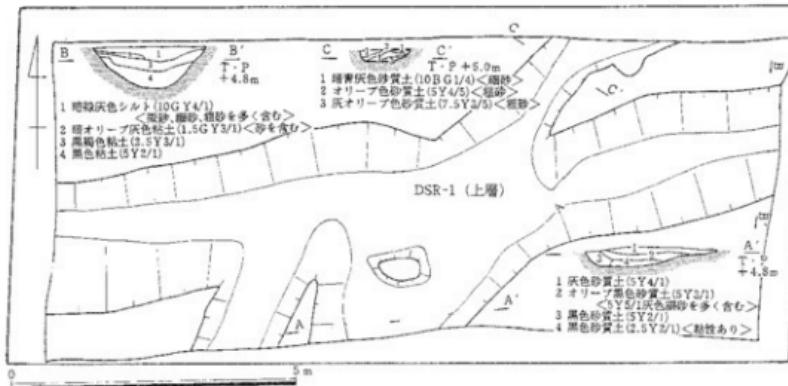
11層上面で検出しており、自然流路を検出しているのみである。

#### DSR-1 (上層)

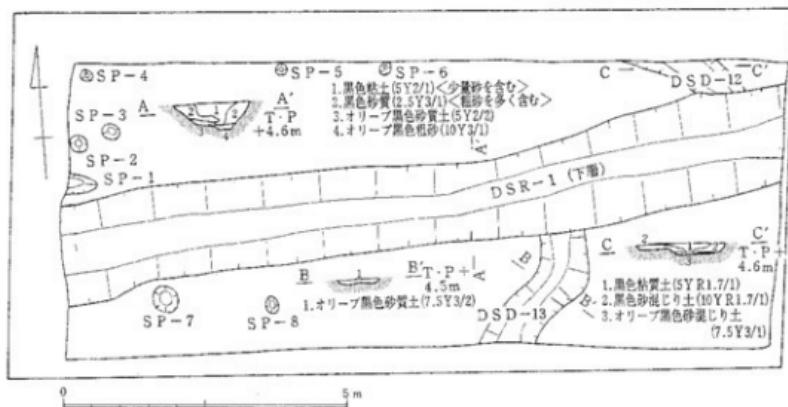
自然流路と考えられ、本流と幾筋かの支流を検出している。本流はほぼ東西方向に走り、幅2.0~2.4m、深さ約0.3mであるが、東側では0.6~0.8mとやや深くなっている。埋土は緑灰色系の粘質土及び砂混じり粘質土である。支流の方の埋土も、ほぼ同じ状況であった。

#### 第4遺構面（第54図）

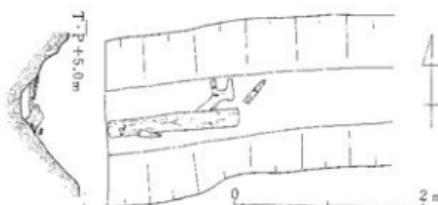
12層及び14層上面で、自然流路とピットを検出している。第3遺構面で検出したDSR-1と流れが一致しており、同一の自然流路と考えられる。DSR-1（下層）とした。



第53図 D区第3遺構面平面図



第54図 D区第4遺構面平面図



第55図 DSR-1下層遺物出土状況

#### DSR-1 (下層) (第55図)

上層と流路は同じであるが、幅が 1.4~1.8m と狭くなっている。また、深さは 0.5m 前後を測る。埋土は上部のシルト層以外は粘土が堆積している。上層で見ら

れた支流は、調査区の東側に2条検出ただけで、深さが0.05mと非常に浅い。調査区の西側の流路内から板材と弥生土器が出土した。

#### ピット

ピットは全部で8個検出しているが、建物等の施設にはなり得なかった。D S P - 5、6には柱根が残存していた。

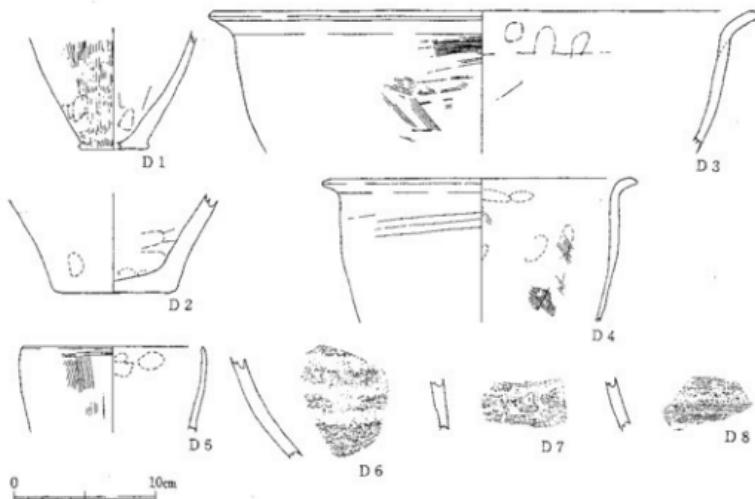
#### (3) 遺物

##### 土器 (第56~59図)

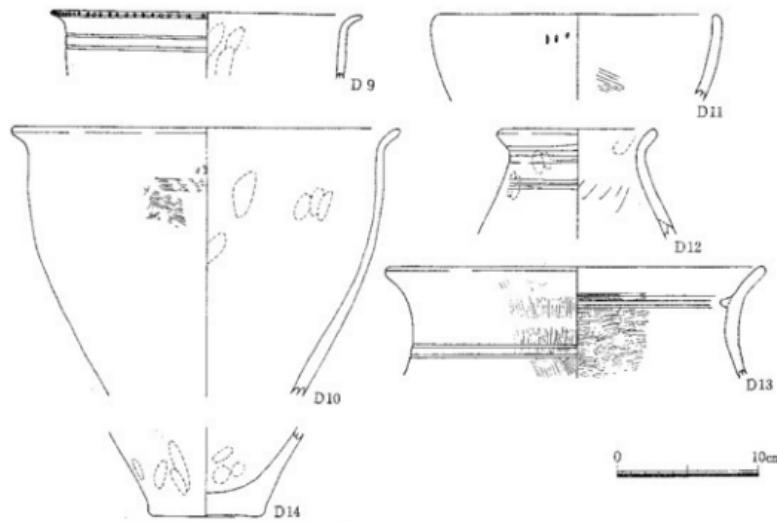
弥生時代前期から中期のものが出土しているが、前期の土器が大半を占めている。いずれも破片ばかりで、B・C区に比較すると土器の出土量は少ない。

##### D S R - 1 出土土器 (D 1 ~ 4)

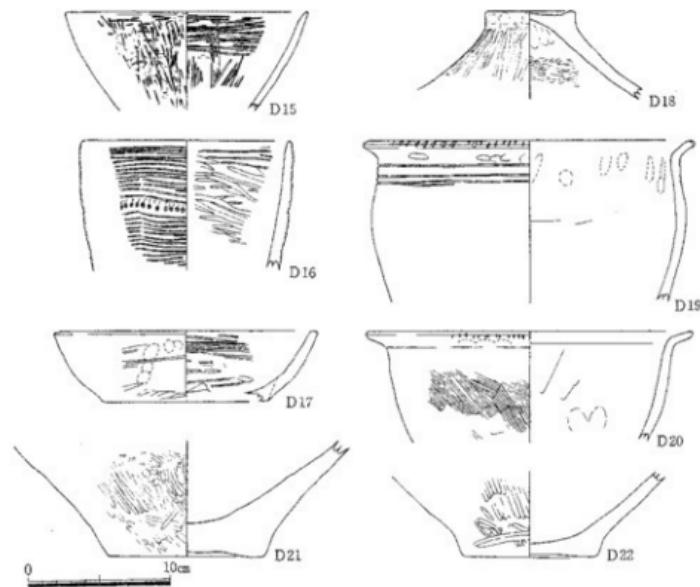
壺 (D 1・2・4) と鉢 (D 3) が出土している。D 1・2は壺の底部である。D 4は短く外反する如意形口縁をもち、口縁部には刻目を施さない無文の壺である。D 3も短く外反する口縁をもつ無文の鉢で、外面にはハケメ調整が施されている。



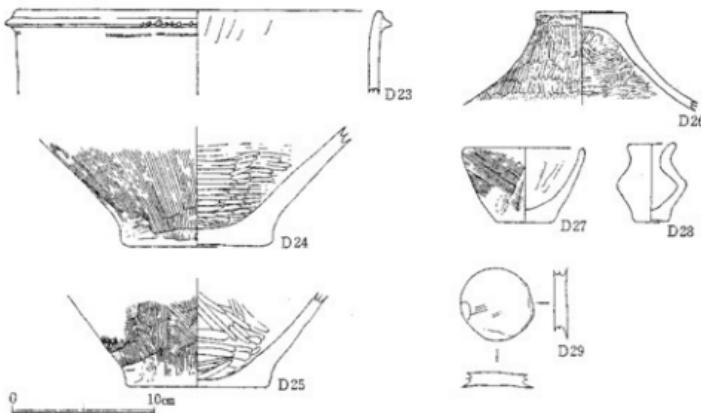
第56図 D区第3、第4遺構面及びD S R - 1 下層出土土器



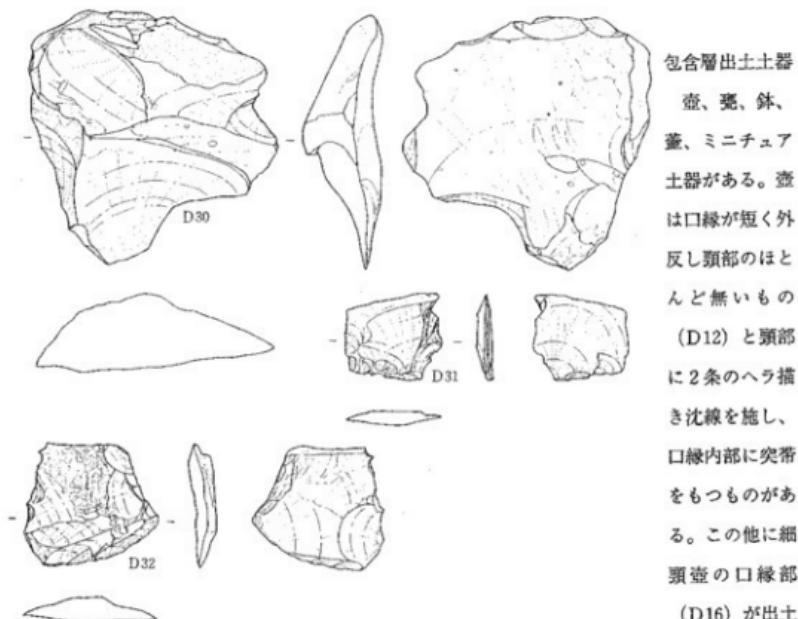
第57図 D区包含層出土土器(1)



第58図 D区包含層出土土器(2)

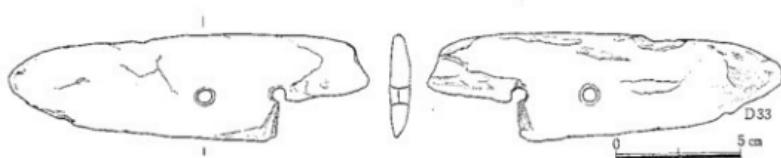


第59図 D区包含層出土土器(3)

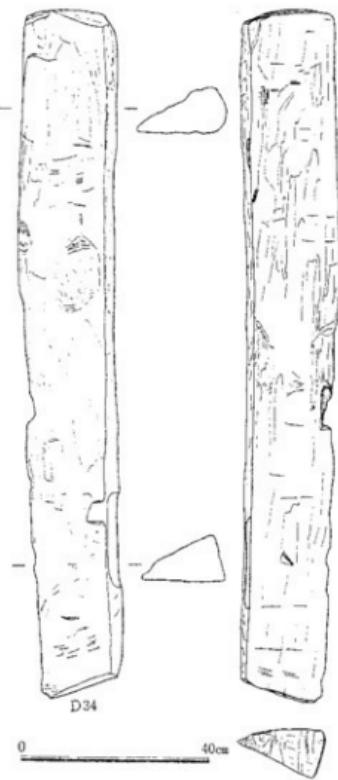


第60図 D区出土土器(1)

包含層出土土器  
壺、甕、鉢、  
盞、ミニチュア  
土器がある。壺  
は口縁が短く外  
反し頸部のほと  
んど無いもの  
(D12) と頸部  
に2条のヘラ描  
き沈線を施し、  
口縁内部に突帯  
をもつものがあ  
る。この他に細  
頸壺の口縁部  
(D16) が出土  
している。甕は



第61図 D区出土石器



第62図 DSR-1 下層出土木器

えられ、材はモミ材のようで、これから色々な木製品を作り出すのであろう。DSR-1の底に置かれていたのは、次の加工作業に移るまでの一時的保存のために水に付けていたと考えられる。

短く外反する如意形口縁をもち倒鐘形を呈するものである。鉢には口縁が直立気味に終わるもの（D11）、外側に開くもの（D15）、短く外反するもの（D20）がある。また、D17のような浅鉢もある。蓋は2点（D18・26）出土しており、いずれも内外面丁寧なヘラミガキを施している。縄文土器が1点出土しているが（D23）、晩期の船様式に属する。

#### 石器（第60・61図）

サヌカイト製の剥片（D30～32）と石包丁（D33）が1点出土している。剥片はいずれも自然面（風化面）を残し、細部の調整は認められない。石包丁は緑泥片岩製で外彫刃、全体の形状は細長い。

#### 木器（第62図）

DSR-1出土の板材（D34）がある。全長1.5m、幅20cm、厚さは最も厚いところで10cmで、断面は楔形を呈する。外側には樹皮が残り、原本を板割りにした状態のままである。幅3～6cm程の工具痕が認められる。

板材から推定すると原本は直径40cm程度と考えられる。

## 第3章 まとめ

### 1. 遺構について

#### A区

A区では地表下約3mまで調査を実施した結果、遺構面を3面確認した（断面で確認した近世の遺構面を含めると計4面になる）時期は出土遺物から推定すると弥生時代前期～中期頃と考えられる。検出した土坑、溝からは遺物が少量出土しているだけで、どのような性格のものであるのかは不明である。遺構、遺物とも希薄であり、当時の集落の中心からははずれているようである。

#### B区

B区で検出した南北方向に走る溝B S D-1は、北側、南側ともさらに調査区外へ続くことが確認できた。B区では、この溝以外に遺構は検出しておらず、弥生時代前期の集落の中心からは外れた場所にあたると考えられる。調査の課程では、この溝は、集落の周囲を巡る環濠の1部かとも考えられたが、掘り進んでいくうちに溝の深さは存外浅く、断面の形状も通常の溝と変わりないため、今のところ集落内を流れる溝の1部を検出したと考えている。B区での調査結果から、集落の範囲はさらに南へ広がる可能性のあることが判明した。

#### C区

C区ではA、B区とは異なり、遺構の密度が濃く、弥生時代前期に属する溝、土坑、ピット等の遺構を検出している。ここに至りてやっと、具体的に集落の存在を示す遺構を検出したことになる。しかし、多数のピットを検出したにもかかわらず、竪穴住居跡は検出されなかった。土坑内からは土器の他石器、獸骨等が出土しているが、土器に関していえば、完形品ではなく、破片ばかりであり、一般的な廃棄土坑であろう。

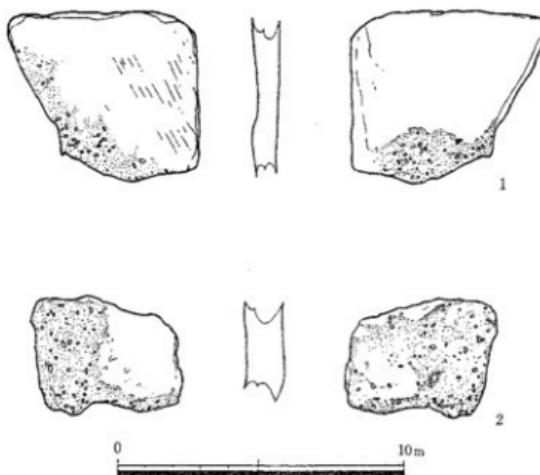
#### D区

D区では若干のピットと自然流路を検出しているのみで、遺構の密度は薄く、集落の中からは外れるようである。

### 2. その他の出土遺物

#### (1) 热変形を受けた土器（第63図）

C区では図のような土器片が2点出土している。1は表面が穴だらけで、手に持つと非常に軽く、一握ると溶岩か軽石のような感を受けるが、詳細に観察すると胎土は土器を



第63図 C区出土、高熱を受けた跡の残る土器片

構成しているものと同じであり、土器片であることが判明した。このような土器片は八尾市美園遺跡での出土例があり、土器が何らかの理由で高熱を受け変化してしまったものである。全出土土器を整理した結果、確認し得たのはこの2点の他に、さらに小片が数点あった。1は全体が軽石状に発泡しており、僅かに発泡していない部分（土器の表面が残っている部分）あるのみである。色調は発泡部分が、紫灰色～赤灰色呈し、熱を受けていることがわかる。壁厚は1.2cmと厚いが、発泡作用のため土器自体が膨張したためであろう。手に持った感じは通常の土器よりも軽い感じがする。

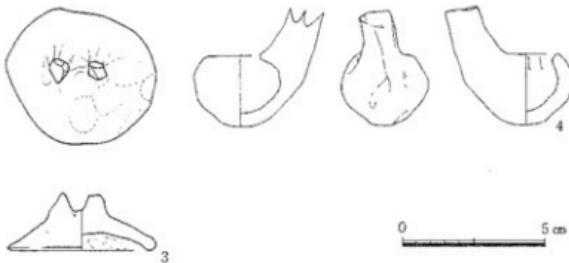
2は部分的に発泡が認められる。色調は外面が灰色～灰白色で、内面が灰白色～明赤灰色を呈する。発泡部分はオリーブ灰色～オリーブ黒色に変色している。外面にハケメの痕跡がかすかに残る。これらの土器は、いずれも3層から出土しているが、明確な時期、器種は不明である。また、第2遺構面のC SK-6からも細片が出土している。

#### (2) 蓋形土製品と匙形土製品（第64図）

B区で出土している。蓋形土製品は径5.2cmを測り、2個の突起を有する。匙形土製品は径3.1cm、高さ2.6cmの球状を呈する匙頭の一端に棒状の柄部を斜めに取り付けている。柄部は先端を欠損するが柄部を含めた全長は4.3cmを測る。

(3) 外部の特徴を  
もつ弥生土器（第  
65図）

B区では包含層  
及びB S D - 1か  
ら在地産の土器で  
はなく中国地方、  
山陰地方から近畿  
北部にみられる文



第64図 B区出土蓋形土製品と匙形土製品

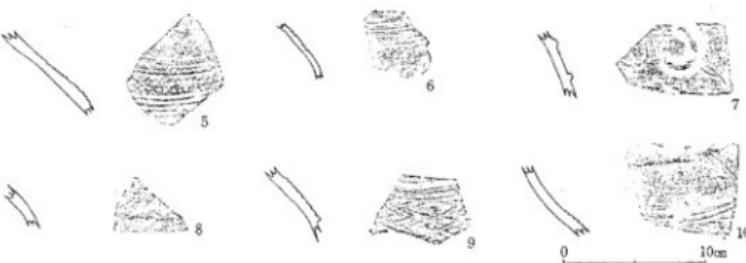
様の特徴をもつ土器が数点出土している。5・6は横書き直線文の間に円形の刺突文をもつ中期の土器である。丹後地方によくみられる。7は敷手の浮状文を貼り付ける。8～10は壺の体部と考えられ、ヘラ書き沈線文と羽状文を施す。施文原体は貝殻によるものかヘラ書きによるものか特定はできない。

(4) 関西電力東大阪変電所保管の木器類（第66・67図）

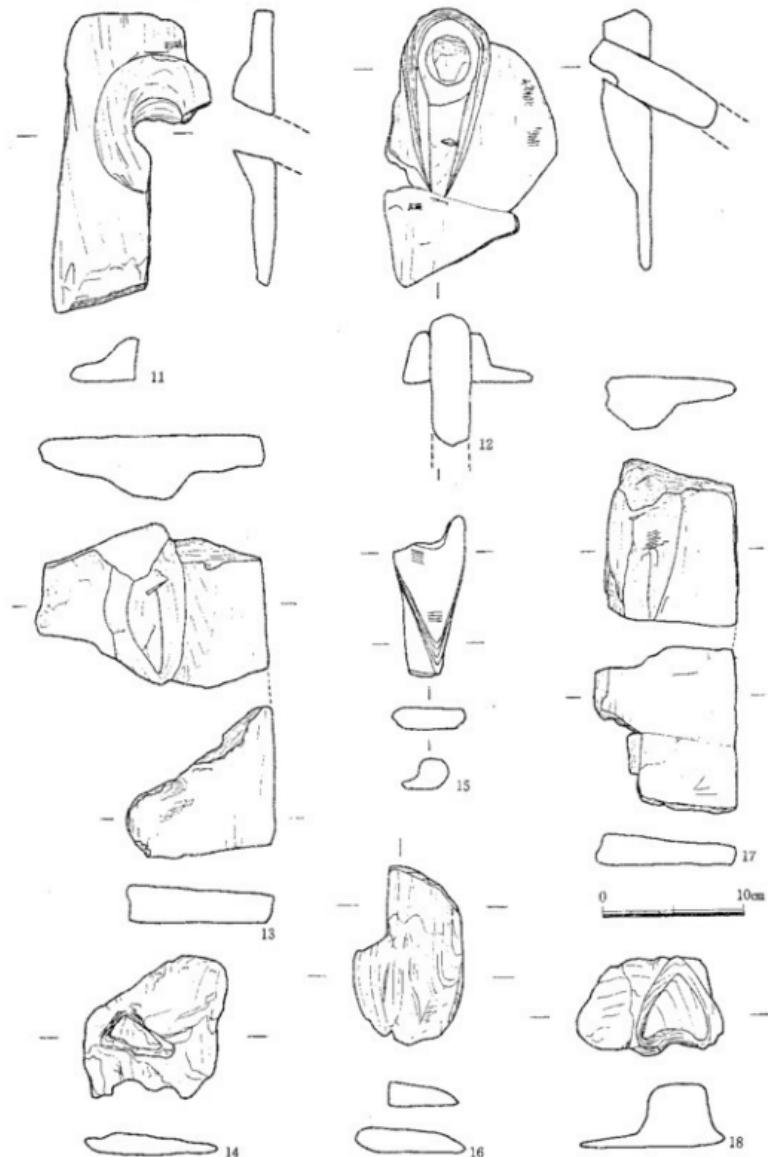
昭和34年の発掘調査時に出土したもので、全部で総数17点ある。器種は未製品のものを含めると鉢と特定できるものは7点（11・12・13・15・17・18・21）である。13、17は柄を装着する部分の舟形突起を削り出す途中の未製品である。11は円形の突起を削り出している。12は柄が装着されたままの状態であった。15、18、21は舟形突起の破片である。これらの他に未製品の高杯状製品（23）、杓（25）がある。

### 3. 中垣内遺跡の集落の範囲について

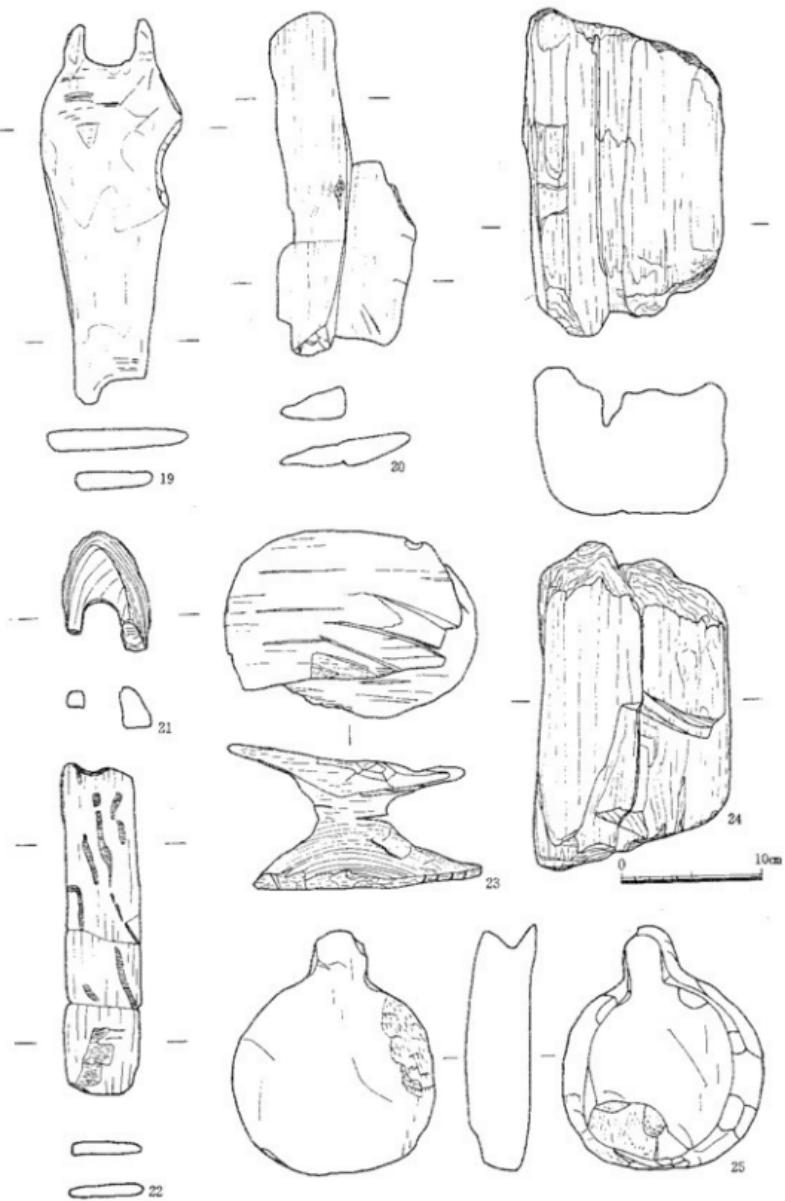
変電所敷地内で4カ所の調査を実施した結果、暫定的ではあるが、集落の範囲が明らかになってきたといえる。敷地内の東側にあるB、C区に対してA、D区は、遺構、遺物と



第65図 外部の特徴を持つ土器



第66図 関西電力東大阪変電所保管の木器(1)



第67図 関西電力東大阪変電所保管の木器(2)

も希薄であり、やはり集落は昭和34年に発見された変電所敷地内の北東隅を中心に存在することは確実であろう。また、集落の営まれ始めるのは、B区で検出したB S D - 1出土土器、C区第2遺構面出土土器にはI様式中段階の特徴をもつものも若干認められるものの、大半がI様式新段階に属するもので、古段階の土器は出土していないことから、弥生時代前期後半と考えられる。中期の遺構は検出されていないが、土器はIII、IV様式のものが出土しており、引き続き中期にも集落は営まれたようである。

註

- (1) 三宅正浩・黒田淳他 「寺川・北条遺跡発掘調査報告書」 大東市教育委員会 (1987)
- (2) 自然流路から出土している。  
『大東市北新町遺跡第1次発掘調査報告書』 大東市北新町遺跡調査会 (1986)
- (3) 船橋式の深鉢が出土している。
- (4) 野島稔 「雁屋遺跡発掘調査概要」・(2) 四条畷市教育委員会 (1984)  
野島稔 「雁屋遺跡」 四条畷市教育委員会 (1987)
- (5) 中垣内遺跡の東方、標高 213m の山上にあり中期の土器片が採集されている。  
東宏 「第1章 原始時代の大東市・弥生時代」『大東市史』 (1973)
- (6) 若宮遺跡、野崎遺跡、宮谷古墳群、城ヶ谷遺跡、墓谷古墳群などで出土している。
- (7) 鍋田川遺跡は昭和33年の砂防堰堤工事の際に発見され、大量の高杯とト骨、刻骨が出土している。  
東宏 「第1章 原始時代の大東市・古墳時代」『大東市史』 (1973)  
外環状線（国道 170号）近くにある大阪産業大学の校舎増築工事に伴う発掘調査において、同じ中垣内遺跡内で、古墳時代前期の集落跡が発見されている。  
北新町遺跡では第2次発掘調査において、古墳時代前期の堀立柱建物跡が発見されている。
- (8) 田代克巳・瀬川健 「堂山古墳群発掘調査概要」 大阪府教育委員会 (1973)
- (9) (1) に同じ。
- (10) (2) に同じ。
- (11) (2) に同じ。
- (12) 小林行雄・杉原莊介編 「弥生式土器集成・本編」 東京堂出版 (1990再版)
- (13) 「美園」 (財)大阪文化財センター (1986)
- (14) 前期の例では唐古遺跡、東奈良遺跡、森之宮遺跡がある。

## お わ り に

中垣内遺跡は昭和34年に発見されて以来、弥生時代前期の集落跡として認識されてきました。当時行われた調査では、たくさんの弥生土器が出土したと伝えられていますが、公表されているのはほんの一部にすぎませんでした。今回、機会があって実に30年ぶりに調査をすることになり、変電所で保管されていた当時の出土遺物と共に、その成果をこうして活字にできるということは、たいへん嬉しいことです。

この本の内容についてですが、筆者浅学のため不十分な点、不備な点が多くあることと思います。特に土器の胎土分析、石器の石材、木器の材質など、まだまだやり残したことはたくさんありますが、いずれ別の機会に改めて発表したいと思っています。

最後になりましたが、この調査に協力していただいたすべてのみなさんに感謝の意を表し、そして、筆者の今後のより一層の精進を御約束しておわりのことばにかえさせていただきます。

# 遺物一覧表

## B区出土土器

団番号	器種	径 口縁 胸 残存高	形 態	文様・技法	備考
10-B 1	壺	17.8 — 19.0	ゆるやかに外反する頸部に短く水平にのびる口縁部をもつ	外面 頸部へラ描直線文は3条 肩部にヘラ描直線文が4~5条 頸部にタテハケが残る(11本/cm) 体部はヘラミガキ(4mm) 内面 口縁部にヘラミガキ	黒褐色 裏母が目立つ
10-B 2	壺	16.7 27.6 18.5	口縁部は肥厚する 頭部に段を有する	外面 体部全面にヘラミガキ(3mm) 肩部にヘラ描直線文が4~5条 内面 口縁から腹部にかけてヘラミガキ 肩部から下半は粗いヘラミガキ	淡赤褐色
10-B 3	壺	18.0 — 13.8	口縁部はゆるやかに外反する 端部は丸く終る 残存部は体部最大径と強調される	外面 体部全体に無いヘラミガキ(2mm) 頸部3条、肩部6~7条のヘラ描直線文 内面 ナゲ調整、指頭圧痕が残る	灰黄褐色 角閃石を含む
10-B 4	壺	21.1 — 6.5	大きく外反する頸部 口縁部は丸く終る	外面 頸部に1条、浅いヘラ描直線文 内面 口縁部に横方向のヘラミガキ(4mm)	淡黄褐色
10-B 5	壺	27.4 — 12.9	頸部は大きく外反する 口縁部はやや肥厚し、外に向かって 面をもつ 口縁近くの位置に縫穴1孔を焼成前 に内外に穿つ	外面 体部全面に横方向のハケ目8~9本/cmが 密に施される 頸部に巾のあるヘラ描直線文が4条 横方向の密なハケ目5~7本/cm 内面	に無い黃褐色
10-B 6	壺	— 20.5 19.6	口縁部形状不明 頭部は直立する 体部は大きく内凹し、底平へ続く	外面 頸部に7条のヘラ描直線文 肩部下半にヘラ描きの綾流文 体部全面にヘラミガキ 内面 頸部にヘラミガキがわずかに残る	淡黄褐色 埴土は密
10-B 7	壺	16.1 22.0 26.5	頸部は外反し、難済は丸く終る 底部は突出して上げ底	外面 頸部にヘラ描き直線文8条 口縁部と体部下半にタテハケ7本/cmを施 しヘラミガキを重ねる 肩部にヘラ描直線文が6条 内面 全面ゆびナメ	に無い黃褐色 金雲母を多量含む
10-B 8	壺	19.0 27.2 35.4	唇高が胸溝を上回る 頸部は外反し難済はやや肥厚する平底 頭部は直立している	外面 頸部にヘラ描直線文3条 肩部にもヘラ描直線文4条 頸部は風化しているが体部下半にヘラミ ガキ(3mm)を施す 内面 ナゲ調整	に無い黄色 角閃石を含む
11-B 9	壺	30.3 — 16.7	口縁は頸部から大きく外反する 肩部は外に面をもち厚い 頭部は直立している	外面 横方向のヘラミガキ(4mm) 頸部に8本/cmのタテハケを施したのも9 条のヘラ描き直線文を重ねる ヘラミガキとタテハケが一部混在 内面 横方向のヘラミガキ(4mm)が全面に残る	明赤褐色を呈す 角閃石を多量含む
11-B 10	壺	22.9 — 30.2	口縁部は外反する 端部は丸みをもって終る	外面 横方向のヘラミガキ(2mm)がわずかに残 る 頸部にヘラ描き直線が4条 内面 風化が激しく明瞭ではない	に無い赤褐色 やや粗
11-B 11	壺	22.0 — 12.1	直立する頭部からは外反する 口縁部に縫孔が1つ内外に穿たれる 体部はゆるやかに内凹して下る	外面 横方向のヘラミガキ(2mm) 肩部に5条のヘラ描直線文 内面 横方向のヘラミガキ、指おさえ	や、粗
11-B 12	壺	22.4 — 11.2	口縁部は外反し難済は肥厚し丸みを もって終る 肩部に張りがない	外面 タテ方向のハケ目(10本/cm)を施したの ちヨコ方向のヘラミガキを重ねる 肩部に浅いヘラ描直線文が3条 内面 口縁部に横方向のヘラミガキが残る	や、粗
11-B 13	壺	18.6 — 8.1	口縁部は肥厚し、外反している 端部は丸く終る	外面 横方向のヘラミガキ(2mm) 肩部にヘラ描直線文が1条 内面 横方向のハケ目(9本/cm)	に無い黃褐色 角閃石を中量含む

11-B14	盃	23.6 — 11.4	筒形の頭部から口縁部は大きく外反する、その端部は丸い	外面 全体に(9本/厘米)のタテハケを施したのち6条のヘラ描直線文を重ねる 内面 風化のため不明、板ナデの痕が残る	角閃石少量含む
11-B15	盃	14.6 16.0 18.4	平底から遡くの字に内湾する体部 頭部は直立気味 口縁部は大きく外反し、端部は丸い	外面 口縁部と肩部、体部下半にヘラミガキ(2mm) 内面 口縁部にヘラミガキが残る	淡褐色
11-B16	盃	13.3 16.0 17.2	体部は遡くの字に屈曲する 口縁部は大きく外反し端部は水平に のびる 粗孔が1つ(内外から体心に穿つ)	外面 脊部。肩部にヘラ描直線文がそれぞれ4 条、6条温る 器皿全面にヘラミガキを施す 内面 口縫から脇部にかけてヘラミガキが残る	橙色を呈す 焼成はやや軟 金鑑母がめだつ
11-B17	盃	15.7 — 19.5	体部は遡くの字に屈曲 頭部からゆるやかに外反する口縁の 端部は丸く前められる 平底	外面 口縫部と体部下半は横方向のヘラミガキ を施す。頭部を中心にタテハケ一部タダ キ目(5本/cm)が認められる 内面 計測不可能だが斜めハケ目が残る	浅黄褐色 一部掘削あり
11-B18	盃	21.1 — 11.6	直立気味の頭部からゆるやかに外反 しては縁部が統く、端部は外に向 かって面をもつ 粗孔が1つ	外面 頭部の貼付帯部にヘラによる割目を施 す。体部は縁部もヘラミガキがわずかに 残る 内面 板ナデのうち、全面にヘラミガキ(4mm)	明赤褐色 角閃石を多量に 含む
11-B19	盃	23.0 — 8.3	大きく外反する口縁部はやや肥厚し、 端部は斜め上方に面を有する 器表面にツヤがある	外面 ヘラミガキ 貼付帯に4mmの小さな割目を巡らす	胎土は密である 角閃石を含む
12-B20		31.6 — 12.8	張りのない肩部から口縁部は外反し て統く、口縁端部は斜め上方に面を もつ	外面 全面に細いタテハケ(8本/cm)を施したの ち縁部に浅いヘラ描直線文を周囲をもっ て4条温らす 内面 ナデ調整	
12-B21	甕	10.8 — 28.6	内湾する体部に直立気味の頭部が統 く、口縁部はやや肥厚し、外反する 端部は丸い	外面 体部にヨコハケがわずかに残る 頭部にヘラミガキを施したのち3条のヘ ラ描直線文を重ねる 内面 口縫部にヘラミガキがわずかに残る 板ナデ、指ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を多量含む
12-B22	無型甕	11.0 — 3.9	内傾する口縁部の端部は丸く終 る 粗孔が1つ外へ内に斜めに穿られる	外面 貼付帯が3段、それぞれ4mmの割目文 を施す。体部にヘラミガキが残る 内面 ナデ調整	にぶい褐色 胎土は密
12-B23	高杯	底部径 8.0 7.5	脚部は内湾し、端部は水平にのび肥 厚する 杯部をゆるやかに外傾して統く	外面 器皿のヨコナダが認められるが、他は 風化が激しく調査不明	金鑑母が多量
12-B24	ミニ盃	— 4.4 4.4	体部は遡くの字に屈曲する 底部は突出し、上げ底	外面 ゆびナデ、ゆびおさえ 内面 調整不明	黒斑あり
12-B25	ミニ盃	— 9.0 9.5	底は上げ底状 体部は遡くの字に屈曲する 頭部は直立気味である	外面 底部附近にヘラミガキ(3mm)が残る 内面 ナデ 粘土結の痕が残る	灰白色 上段はほゞ口縫 端部？黒斑あり
12-B26	ミニ鉢	5.5 — 2.8	平底から体部は斜め上方へ開く 端部は肥厚し上げ底	外面 指ナデのあとタテハケがわずかに残る 内面 指ナデ	灰黄褐色 角閃石を含む
12-B27	ミニ鉢	7.8 — 4.7	底部は突出し上げ底 体部は斜め上方に開く 端部は丸みをもって統く	外面 指おさえ 内面 指おさえのあとヨコナダ	黒斑あり
12-B28	ミニ甕	8.3 — 7.0	平底から体部は内湾してたちあがる 口縫部は外傾し端部はわずかに直立 気味に丸く統く	外面 指おさえ、ヨコナダ 内面 指おさえ 粘土結の痕(外縫)が3ヶ所残る	褐色 角閃石を含む 焼付着
12-B29	筋縫車	縫 4.3 横 4.3 厚さ0.75	中央に孔が1つ上下から穿たれる	全面にナデ調整	
12-B30	甕	19.4 — 18.5	穿孔を1ヶ所有する平底から張りの 少ない体部と外反する口縁部が統く 口縫部は丸みをもって統く	外面 風化のため調査不明 口縫部ヨコナダ 内面 斜めハケ(6本/cm)右下→左上	にぶい黄褐色

12-B31	要	(推)18.0 — 18.0	張りの少ない体部 口縁部は外反し端部は丸みをもって終る。平底?	外面 タテハケ(6本/cm) 体部下半は磨耗している 内面 指おさえ、指ナデ	明赤褐色 角閃石を含む 煤付着
13-B32	要	18.6 — 19.4	張りの少ない体部と外反する口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 斜めハケ目、タテハケ、ヨコハケが混在 7本/原体、口縁部ヨコナデ 内面 外面と同原体のハケ目がわずかに残る	灰オリーブ色 角閃石を含む 粘土はや、密
13-B33	要	(推)15.6 — 16.5	体部中位よりやや上に最大径をもち、丸みのある体部と外反する口縁部をもつ。端部は外傾した面を有する	外面 タテハケ、斜めナケ(5本/cm)右下→左上 口縁部にヘラによる划目を施す 内面 外面と同原体のハケを右へ左のヨコハケ	にぶい黄褐色
13-B34	要	(推)16.7 — 17.0	張りの少ない体部とゆるやかに近く、外反する口縁部をもつ 口縁端部は丸く終る	外面 右下→左上の斜めハケ(9本/cm)と口縁部にヨコハケ、頭部に2条のヘラ描直線文 内面 指ナデ	橙色 角閃石を含む 全面に煤付着
13-B35	要	(推)22.0 — 15.0	張りの少ない体部 矧く外反する口縁に粘土を重ねて上面にモタルをもたせる	外面 タテハケ(7本/cm)風化し擦耗は端部に寸 断するヘラ描直線文が3条 端部に4mmの刻み目文を施す 内面 縫横のナデ	黒褐色 煤付着
13-B36	要	(推)18.0 — 15.9	張りのない体部 口縁部をもつ 口縁端部は丸みをもって終る	外面 風化のため調整不明 口縁部にヘラ描直線文が2条 内面 縫横のナデ	赤褐色
13-B37	要	(推)19.6 — 21.7	張りのない体部と「進J字」の口縁をもつ 口縁端部は丸みをもって終る	外面 わずかにタテハケが残る 口縁部に5条のヘラ描直線文 端部に7mmの刻み目文を施す 内面 風化のため調整不明	黄褐色 丈高である
13-B38	要	(推)21.0 — 11.1	倒錐型の体部と頭部でやしまって外反する口縁部をもつ 口縁端部は丸みをもって終る	外面 タテハケ(7本/cm)を体部に施す 端部にヘラ描直線文が3条ある 内面 ナデ、粘土絆の板(引張)が2ヶ所残る	黒褐色
13-B39	要	(推)23.4 — 15.8	体部中位より上に最大径をもつ 口縁はゆるやかに外反し端部は丸く終る	外面 タテハケ、斜めハケ(6本/cm)を施す 頭部に3条のヘラ描直線文 口縁端部に4mmの刻み目文 内面 外面と同原体の斜めハケ	にぶい黄褐色 煤付着
13-B40	要	(推)23.2 — 16.7	張りの少ない体とゆるやかに外反する口縁部をもつ 端部はやや角ばって終る	外面 下→上のタテハケ(6本/cm)は頭部、上→下のタテハケが最大径より下に施される 内面 橫ハケ(6本/cm)	にぶい黄褐色 外画全体に煤付着
13-B41	要	(推)22.3 — 22.6	倒錐型の体部とやや厚出し外反する口縁部をもつ 底部は平底	外面 タテハケ(6本/cm)、底部にヘラミガキ、端部に4mmの刻み目文、3条のヘラ描直線文 内面 口縫付近にヨコハケ	褐色 全面に煤付着
14-B42	要	(推)17.6 — 15.6	張りのない体部と「くの字」に屈曲する縫をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 タテハケ(4本/cm)、端部に4mmの刻み目文、板ナデ 内面 板ナデ	灰青褐色 煤付着
14-B43	要	(推)18.0 — 16.7	倒錐型の体部と外反する口縁部をもつ、端部はやや角ばって終る 底部は平底	外面 橫ハケ(上半部) タテハケ(下半部) 口縫部に指おさえの板が残る 内面 板なで、指おさえ	にぶい橙色 粘土はや、粗
14-B44	要	(推)14.8 — 17.7	底部は突出し上げ底 張りのない体部と外反し端部でわざかに直立する口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 風化のため調整不明 頭部に3条のヘラ描直線文 口縫端部に刻み目文 内面 指なで	褐色 粘土は粗 煤付着
14-B45	要	(推)31.2 — 12.8	ゆるやかに内傾する体部を「くの字」に屈曲する口縁部をもつ、端部は丸みをもって終る 端部は丸く終る	外面 右下→左上のハケ目(9本/cm)を施したのち3条のヘラ描直線文を重ねる 端部に5mmの刻み目文 内面 橫方向のハケ目(外面と同原体)なでが縫に見られる	褐色 底底はや、秋 黒斑あり
14-B46	要	(推)30.0 — 28.0	球形の体部と「くの字」に屈曲する口縫部をもつ、端部は丸みをもって終る 平底	外面 斜めハケ目(8本/cm)右下→左上、口縫部は風化している 内面 同原体で横ハケ	にぶい黄褐色 全面に煤付着
14-B47	要	(推)23.3 — 19.7	球形の体部と「くの字」に屈曲する口縫部をもつ、端部は丸みをもって終る 内面	外面、斜め方向のハケ目(9本/cm)の上に3 条のヘラ描直線文、端部に刻み目文 内面 指なで、指おさえ、ハケ目が一部残る	黄褐色 全面に煤付着

14-B48	裏	(推)20.0 — 20.0	張りのない体部を強く外反する口縁部をもつ 端部はや、角ぼって終る。	外面 口頭部にタテハケ(8本/cm) 3条のヘラ描き直線文 ヘラミガキ(4mm)が段級に描される 内面 調整不明、單体痕が数ヶ所残る	黒褐色 角閃石を含む
14-B49	裏	(推)21.9 — 23.2	平底に倒錐型の体部とゆるやかに外反する口縁部をもつ 端部は丸味く終る	外面 タテハケ(3~4本/cm)の上に3条のヘラ描 直線文が描かれる。口縁部に4mmの割み 目文が整然と並ぶ 内面 ナデ	明赤褐色 黒斑あり
14-B50	鉢	(推)21.7 — 14.2	底部形状不明 ゆるやかに外傾する体部と水平にのびる口縁部をもつ 端部は丸く終る	外面 横方向のヘラミガキ(3mm)に横方向のヘラミガキが重なる。口縁部はヨコナデ 内面 横方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む
14-B51	底底部	底底部14.0 — 4.6	中央部がや、凹む平底	外面 板ナデの原体痕が残る底部不調整 内面 風化のため調整不明 粘土を補した痕が残る	にぶい黄褐色
14-B52	底底部	底底部19.2 — 5.8	上げ底気味の平底	外面 横方向のヘラミガキ(6mm)とタテハケが残る 内面 板ナデ、原体痕が残る	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む、葉付着
14-B53	底底部	底底部13.4 — 8.8	うすい平底から外傾して体部が続く	外面 底部不調整 ヘラミガキ(4mm)をタテハケ、ヨコハケ(5本/cm)原体 内面 風化剥離のため調整不明	灰褐色
15-B54	洗鉢	16.4 — 8.5	平底から内湾する体部と直立し端部に面をもつ口縁部をもつ	外面 板ナデ(原体痕が残る)底部不調整 内面 指ナデ 粘土堆の痕(内面)が3ヶ所残る	黄灰色 角閃石を含む
15-B55	無頸壺	9.4 15.0 8.6	底部は突出し上げ底気味 大きく内湾する体部と内傾する面をもつ口縁部を有する	外面 斜め方向のヘラミガキ(3mm)、肩部にヘラ描直線文が3条、一部ナデでつぶれる 内面 ナデ	黄褐色
15-B56	葉蓋	(推)21.1 — 7.0	笠形 口縁端部は水平にのびて口縁部をもつ	外面 つまみ上部はナデのあとケズリ 体部1/3にヘラミガキ 内面 指おさえのあと、ヘラミガキ	にぶい黄褐色 黒斑あり
15-B57	葉蓋	(推)21.4 — 7.0	笠形 ゆるやかに外傾し縫部は水平にのびて面をもつ	外面 風化のため調整不明 内面 ヘラミガキがわずかに残る	
15-B58	鉢	(推)45.6 — 21.8	平底 外反してのびる体部から口縁部は直立気味に続き端部は丸く終る	外面 体部はタテハケ(5本/cm)とヨコハケ(15本/cm)が残在する。底部は木調整 内面 風化している。ヨコハケ(6本/cm)が残る	角閃石を多量に含む
15-B59	鉢	(推)45.8 — 24.9	底底部形状不明 外傾する体部「く」字に強く外反する口縁部をもつ。端部は丸みをもって終る 把手が4ヶ所残る(5ヶ所にあった)	外面 鉛めいケ目(10本/cm)、口縁部ヨコナデ 内面 板ナデ(原体幅3.5cm)	灰白色 角閃石含む 黒斑あり
16-B60	壺	(推)25.1 — 14.5	肩部、頸部に突帯を有し口縁部は大きく外反する 端部は丸く終る	外面 口頭部タテハケ(5本/cm)の上にヘラミガキ(4mm)肩部は横方向のヘラミガキが密に施される。貼付突帯+ヘラ基剥み目が頸部肩部に各々2枚 内面 横方向のヘラミガキ(2~3mm)	にぶい黄褐色
16-B61	壺	(推)16.8 — 8.3	頸部で段をなしや、直立したのち口縁部で外反する 端部は丸く終る	外面 頸部は横方向のヘラミガキ(2mm)削出突 帶は少しがあり延 内面 板ナデのちヘラミガキ	淡黄色を呈す
16-B62	鉢	— 21.5 14.5	低い高台から体部下部に最大径をもち内湾する。彫韶でしまったのち外傾する口縁部欠損のため形状不規	外面 体部1/3に(分断)のヘラミガキ(2mm)体部2/3は描墨状文が6条(逆時計回り) 内面 彫刻のナデ	胎土 密暗褐色
16-B63	壺	(推)22.2 — 23.7	底部に穿孔が1つ 張りの少ない体部と強く外反し、や、肥厚する口縁部をもつ 端部は丸く終る	外面 風化しているが縱方向のヘラミガキ(2mm)が残る、8条のヘラ描直線文 縫部に刻み目文(2mm) 内面 板ナデ	黄褐色 角閃石を多量に含む 仕上げが丁寧

16-B-64	甕	36.4 — 33.7	球形の体部から「くの字」に屈曲する口縁は端部で肥厚し平坦面を有する	外面 タテハケ(4本/cm)上→下 内面 タヂハケ(6本/cm)体上部は横方向のハケ 目を重ねる	に赤い黄褐色
16-B-65	甕	(推)25.2 — 2.9	口縁部端面が下方に突出している上方に平坦面をもつ	外面 口縁上面に捲邊列点文を2列(逆時計回り)、一列はナデによる凹線の上にヘラ 指矢羽状文は貼付	に赤い黄褐色 角閃石を含む
16-B-66	高杯	底部径 9.8 — 9.5	脚部は内傾し杯部に向かって直立する 脚部は外に面をもち上方に拡張する	外面 縦方向のハラミガキ下→上 内面 脚部は横方向のハラミガキ ヘラミガキのあとナデ、杯部内面ヘラミ ガキ	明赤褐色 角閃石を少量含む
16-B-67	高杯	底部径 10.8 — 9.1	脚部は水平に伸びる 脚部は丸く終る 脚部は内傾したあと直立し、杯部に接く	外面 ナデのあと8段に竹管文が巡る 脚部上部にヘラミガキが残る 内面 ナデ、波状あとがある	明褐色 焼付着

### NGT C 区 出 土 器

国番号	器種	口縁 法度 所存高	形 態 想	文様 ・ 技 法	考
37-C-1	甕	(推)20.0 — —	張りのない体部と強く外反する口縁 をもつ 端部はやや尖り気味	外面 風化し不明 内面 ナデ?	に赤い黄褐色
37-C-2	甕	(推)30.2 — 7.4	張りの体部と斜面型に外反する口縁 をもつ 端部は丸く終る	外面 ナデのあとハラ描直線文が4条 口縫部ニコタデ 内面 ナデ	に赤い黄褐色 角閃石を多量に含む
37-C-3	甕	(推)27.7 — 5.1	張りの少ない体部とゆるやかに外反する 口縁部をもつ 端部は丸く終る	外面 ナデのあと浅いハラ描直線文を4条描す 内面 風化削除	暗赤褐色 焼付着
37-C-4	甕	(推)45.3 — 16.5	張りのない体部 口縁部はゆるやかに外反する	外面 風化し調査不明 内面 風化し調査不明	に赤い黄褐色
37-C-5	無調査	7.6 15.6 12.9	平底に穿孔が1つ 斜め上方に開き、底部で磨削して内 溝する。端部は内傾する	外面 体部全面横方向のヘラミガキ(4mm)低い 貼付突起に6mmの刻み目文 内面 下→上へ放射状にヘラミガキ	明赤褐色 黒斑あり
37-C-6	甕	(推)19.9 — 30.7	張りのない容器と外反しむすびに直 立気味の口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 頭部のタテハケ、頭部の斜めハケ、2 条のハラ描直線文(逆時計回り) 内面 右→左の縞がいハケ	に赤い黄褐色 体部中位黒斑
27-C-7	甕	(推)18.6 — 18.0	丸味のある体部と「く」の字形に外 反する口縁部をもつ 端部はやや角ぼら	外面 斜めヨコハケ(11本/cm)頭部はタテハケ、 タシ彫直線文を7帯(逆時計回り)に施す 内面 右下→左上の斜めハケ(6本/cm)	暗褐色 角閃石を多量含む
37-C-8	甕	(推)27.8 — 12.3	直立する頭部から大きく外反し水平 に伸びる頭部をもつ 端部はやや角ぼら	外面 タテハケ(9本/cm) 頭部に7条、5条のハラ描直線文が2段	褐色
37-C-9	鉢	(推)25.5 — 5.8	斜め上方に開く体部と屈曲し外反す る口縁部をもつ 把手は四方向にあつたと思われる	外面 ナデのあと2条のハラ描直線文を施し把 手は貼りつける 内面 ナデ	灰褐色
37-C-10	鉢	(推)10.1 — 5.9	ゆるやかに外傾する体部と直立気味 の口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 風化削離のため不明 内面 風化削離のため不明	灰褐色 内面に焦げ付着
37-C-11	甕	(推)31.3 — 13.4	張りのない体部と頭部で少ししま り、外反する口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 ナデ 内面 細、斜め方向のハケ目	に赤い黄褐色 角閃石を多量に含む
38-C-12	甕	底部径6.5 — 16.6	底部から斜め上方に開く体部をもつ 底部中央はやや凹む	外面 風化の為不明 内面 ナデ	に赤い黄褐色 内面に漆付着
38-C-13	甕	(推)21.0 — —	丸みのある体部と上方に面をもち外 に肥厚する口縁部をもつ	外面 頭部ヨコハケ、体部は斜めハケ(11本 /cm) 内面 ナデ	に赤い黄褐色 角閃石 内面上部に黒斑

38-C14	亮	底部径5.1 — 6.3	平底 斜め上方にゆるやかに開く	外側 風化 内側 指おきえ、ナデ	にぶい赤褐色 角閃石を多量に含む
38-C15	豊	(推)14.2 — 2.2	口縁部は強く外反し、端部は下方に肥厚する段状口縁を有する 外に向かって唇をもつ	内外面共 ヨコナデ	灰青褐色 角閃石を含む
38-C16	亮	(推)20.6 — 4.5	張りのない体部と水平に屈曲する口 縁部をもつ 端部は丸みをもって終わる	外面 ヨコナデ、口縁部に3mmの刻み目文、5条 のヘラ括直線文 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を含む
38-C17	豊	(推)13.8 — 4.5	強く外反する口縁に段をなす	外側 橫方向のヘラミガキ(2mm) 口縁端部にヘラ括直線文が1条 内面 ナデ	灰色 内面に黒藻あり
38-C18	豊	(推)15.2 — 6.5	底部に段をなし外反する 端部は丸く終る	外側 橫方向のヘラミガキ(3mm) 窓前にヘラ括直線文が1条 内面 ナデ	銀色
38-C19	亮	(推)17.6 — 3.9	頭部はやゝしまして外反する 端部は丸く終る	外側 ヨコナデ、ヘラ括直線文が3条 口縁端部に4mmの刻み目文 内面 ヨコナデ	暗灰黄色
38-C20	亮	(推)20.7 — 9.1	球形の体部からゆるやかに外反する 口縁部をもつ 端部は丸みをもって終わる	外側 ナデ(方向は一定ではない) 内面 ナデ	黄灰色 擦付着
38-C21	豊	(推)15.1 — 5.4	口縁部は達「ハ」の字に開く 端部は内角が	外側 ナデ、口縁部はヨコナデ 内面 ナデのあとヘラミガキ(2mm)	灰褐色
38-C22	豊	(推)16.8 — 5.4	張りのない体部と外反する口縁部を もつ 端部は丸く終る	外側 ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 ナデ	銀色
39-C23	亮	(推)20.0 — 8.5	やゝ張りのある体部と強く外反する 口縁部をもつ 端部は丸みをもって終わる	外側 斜めハケがわざかに残る ヘラ括直線文が4条ある 端部にヘラによる刻み目文(5mm)が巡る 内面 細かいヨコハケ	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む
39-C24	亮	(推)20.8 — 8.5	張りのない体部から強く外反する口 縁部をもつ 端部は丸みをもって終わる	外側 タテハケ、ヘラ括直線文が4条ある 端部にヘラによる刻み目文(5mm)が巡る 内面 細かいヨコハケ	淡黄色 外側口縁に擦付着
39-C25	豊	(推)14.4 — 4.5	やゝ直立する頭部からゆるやかに外 反し端部は丸みをもって終わる 頭部で段をなす	外側 頭部にヘラ括直線文が1条ある 口縁部はヨコナデ	淡黄褐色
39-C26	断面	器壁		外側 擦付突溶7帯に刻み目文を施す 突起部はヨコナデ 内面 右→左のハケ目	にぶい黄褐色
39-C27	亮	底縁部7.0 — 11.6	平底 体部は斜め上方に開く	外側 タテハケ 内面 上半に横方向のハケ目が残る	銀色 内面に擦付着
39-C28	亮	(推)18.6 — 8.5	張りの少ない体部とゆるやかに外反 する口縁部をもつ 端部は丸く終る	外側 ヘラ括直線文が3条ある 口縁端部には刻み目文が施される 内面 ヨコハケ	暗褐色 閃緑岩、角閃石を含む
39-C29	亮	(推)19.6 — 13.5	やゝ丸みのある体部と強く外反する 口縁部をもつ 端部は丸く終る	外側 超タテハケ、3条のヘラ括直線文(透時 計回り)口縁部は刻み目文が等間隔に巡る 内面 風化の為不明	にぶい黄褐色 閃緑岩、角閃石を含む
39-C30	艸	(推)20.0 — 9.6	斜め上方に伸びる体部に強く外反す る口縁部をもつ、体部上位に瘤状 把手あり、口縁端部は唇をもつ	外側 口縁部はタテハケ、体部はヨコハケ(6本 /cm)、把手と口縁部はヨコナデ 内面 ヨコハケ(右→左)	にぶい黄褐色 角閃石、閃緑岩を含む
39-C31	豊	(推)27.8 — 13.3	頭部と斜め上方に開く口縁部をもつ 端部はわずかに肥厚し丸みをもって 終わる	外側 タテハケ(5本/cm)透時計回りのヘラ括直 線文が6条推し、横方向のミガキ(2.6mm) 内面 橫方向のミガキ	にぶい黄褐色を 呈す、角閃石、閃緑岩を含む
39-C32	豊	(推)13.3 — 9.1	直立する頭部と外反する口縁部をも つ 端部はやゝ角ばる	外側 タテ、斜めハケ(5本/cm)の後6条のクシ 括直線文、口縁部ヨコナデ 内面 右→左 ハケ目(5本/cm)	灰黄色 角閃石、閃緑岩を含む

39-C33	壁	— — 11.0	直立する頭部からゆるやかに口縁部 が続く	外面 貼付突審に刷み目文を施す。突審間はヨコナダ。口縁部は板ナダ? 内面 右→左 ハケ目(6本/cm)	ぶい黄褐色、角閃石、閃綠岩を含む、外縁うすく埋ける
39-C34	窓	(推)26.5 — 6.2	やや丸味をおびた体部とゆるやかに 外反する頭部をもつ 頭部はわずかに角ばる	外面 痕いヨコハケ(粘土が柔かい状態の成形 時に用いる) 内面 右→左の細かいハケ	角閃石、閃綠岩を含む
39-C35	窓	(推)20.8 — 8.4	張りのない体部と強く外反する口縁 部をもつ 頭部は丸く終る	外面 口頭部タヨコハケのあとヘラ彫直線文 体部は斜めハケ目(6本/cm) 内面 右→左、右下→左上ハケ目(6本/cm)	灰黃褐色 角閃石を多量に含む
39-C36	窓	底部僅5.3 — 5.4	やや突出した上げ底と斜め上方に開く 体部を有する	外面 全面ヨコ方向のミガキ(2mm) 底部ミガキ 内面 ヨコ方向のミガキ(2mm)	黄褐色、角閃石、 閃綠岩を含む、 内縁全面に端付着
39-C37	窓・鉢	底部僅9.4 — 5.2	突出した上げ底 斜め上方に開く体部をもつ 粘土緑の直が残る(劣化)	外面 下→上タテハケ(7本/ca) (成形時のハケ調整) 内面 右→左の板ナダ	灰オーリーピ色 角閃石、閃綠岩を含む
29-C38	壁・鉢	底部僅9.2 — 4.8	やや突出した上げ底 内溝しながら体部が続く	外面 タテハケ、黒化している 内面 風化のため不明	にぶい黄褐色
39-C39	窓	底部僅7.6 — 8.7	突出気味の上げ底 底部の脇腹はうすい 内溝して体部が続く	外面 タナハケ(10本/原体) 内面 ナダ	明褐色 黒斑あり
40-C40	窓	底部僅4.5 — 3.9	突出した上げ底 斜め上方に開く体部が続く	外面 風化のため不明 内面 風化のため不明	橙色 黒斑あり
40-C41	窓・鉢	底部僅6.8 — 2.3	突出気味の底部と斜め上方に開く体 部を有する	外面 タテハケ(7本/原体) 内面 黒のため不明	にぶい黄褐色 角閃石を含む 黒斑あり
40-C42	窓	底部僅7.2 — 11.3	平底 斜め上方に伸る体部をもつ	外面 下→上タテハケ(8本/ca) 底部はケズリを施す 内面 ナダ?	明赤褐色 黒斑あり
40-C43	窓	(推)18.7 — 16.8	蝶形の体部と強く外反する口縁部を もつ 頭部は拡張しや、角ばる	外面 タテの細かいハケ目 口縁部にヘラによるV字状剥み目 内面 右→左の板ナダ?	浅黄褐色 焼が付着
40-C44	窓	(推)26.6 — 9.5	張りの少ない体部と頭部でや、しま り外反し肥厚する口縁部をもつ 頭部は丸く終る	外面 ナダのあと左上→右下のミガキ 口縁部ヨコナダ 内面 ナダ	にぶい黄褐色 角閃石を多量に 含む
40-C45	窓・盤	18.0 — 2.0	盤部は外汚し、頭部は直立気味 頭部は丸みをもって終る	内外縁共調整不明	にぶい黄褐色 角閃石を含む 内縁に端付着
40-C46	壁	(推)12.3 — 7.3	細い頭部と大きく外反する口縁部を もつ 頭部はや、角ばる	外面 橫方向のヘラミガキ 4条のヘラ彫直線文が巡る 内面 ヘラミガキ	にぶい黄褐色
40-C47	窓	(推)17.7 — 9.0	大きく内溝する体部と短く外反する 口縁部をもつ 頭部は拡張する	外面 タテの細いハケを施したのちヨコ、斜め 方向のヘラミガキ(1.8mm) 低い貼付突審にヘラ彫直線文が1角巡る 内面 細かいヨコハケのあと横方向のミガキ	にぶい黄褐色 黒斑あり
40-C48	窓	(推)20.8 — 5.5	張りの少ない体部と逆「L」の字に 屈曲する口縁部をもつ 頭部は丸みをもって終る	外面 体部は板方向のナダ 口縁部にヘラによる剥み目 内面 黒化のため不明	にぶい褐色
40-C49	窓	(推)19.1 — 15.8	や、丸みをもつ体部と頭部でしま り強く外反する口縁部をもつ 口縁部は水平に伸び丸く終る	外面 タテヨコのヘラミガキ(1.5mm) 2条のヘラ彫直線文を施す 頭部にヘラによる剥み目	にぶい黄褐色 角閃石を含む 端付着
40-C50	窓	(推注) 14.8 厚さ1.2	円板状 頭部は丸く終る	外面 ヘラミガキ	にぶい黄色 角閃石を多量に 含む

40-C51	裏	底部径6.5 — 5.0	平底 ゆるやかに内湾し立ち上がる体部をもつ	外面 タテハケ 内面 風化のため不明	褐褐色 角閃石を多量に含む
40-C52	裏	底部径4.3 — 1.9	突出気孔の底部 ゆるやかに斜め上方に聞く体部をもつ	外面 細かいタテハケ(風化している) 内面 ナデ	浅黄色 無斑あり
40-C53	底?鉢	底部径6.7 — 2.7	平底 ゆるやかに斜め上方に聞く体部をもつ	外面 橫方向のヘラミガキ 内面 調整不明	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む、黒斑あり
40-C54	裏	— — 1.5	蓋の中央部分 「ハ」の字に聞く体部 穿孔が1つ上下から抜きされる	外面 ヘラミガキ(風化している) 内面 ナデ	褐色
41-C55	裏	(推)17.5 — 3.3	口縁内側に貼付突起をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 ナデのあとヘラミガキ 内面 橫方向のヘラミガキ	灰白色
41-C56	裏	底部径7.0 — 3.2	突出した底部と斜め外上方へ伸びる体部をもつ	内外面とも風化剥離のため調整不明	黄灰色
41-C57	底・鉢	底部径13.1 — 5.2	上げ底気泡の平底と斜め上方に聞く体部をもつ 器壁は厚い	内外面とも風化のため調整不明	にぶい黄褐色 角閃石を含む
41-C58	裏	(推)28.6 — 10.8	少ししまる頬部と外反する口縁部をもつ 端部は丸く終る	外面 ヨコ、斜めのハケ目(7本/cm) 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を含む 全面に焼付着
42-C59	裏	(推)25.2 — 11.8	張りのない体部と外反する口縁をもつ 端部は丸く終る	外面 細かいヨコハケ、2条のヘラ模直線文 端部に3mmのヘラによる割み目 内面 指おさえとナデ	灰黄褐色 角閃石を含む 黒斑有り
42-C60	裏	(推)25.1 — 12.5	張りの少ない体部と外反する口縁をもつ 端部は丸く、器壁は厚い	外面 タテハケ(風化が激しい) 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を含む 焼付着
42-C61	裏	(推)27.2 — 7.6	張りのない体部とゆるやかに外反する口縁をもつ 端部は丸く終る	外面 斜め方向のヘラミガキ 口縁部に指おさえ 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む
42-C62	裏	(推)20.8 — 16.6	少し丸みのある体部と外反する口縁をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 タテハケを施す(7本/cm) 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む
42-C63	裏	(推)22.6 — 5.4	頭部で少ししまって、口縁部は外反する 端部は丸く終る	外面 風化している 端部にヘラによる割み目 内面 ナデ	灰色
42-C64	鉢	(推)30.0 — 4.9	斜め上方に聞く体部と頸部で少ししまり、外反する口縁部をもつ 端部は直立気味でやや角ばる	外面 ナデ、頸部にナデによる凹線 内面 指おさえ	にぶい黄褐色 角閃石を含む
42-C65	鉢	(推)26.3 — 7.5	斜め上方に聞く体部と強く屈曲し外反する口縁部をもつ 端部は丸く終る	外面 ナデ、指おさえ 内面 ナデ調整	淡黄色 焼成不良
42-C66	底	(推)27.0 — 11.9	直立した頸部と強く外反し、水平に伸びる口縁部をもつ 端部は段をなす	外面 頸部に割み目を施した貼付突起が7帯巡る、口縁端部に2条ヘラ模の直線文が巡る 内面 ナデ	明赤褐色 角閃石を多量に含む、黒斑あり
42-C67	裏	(推)16.5 — 3.5	口縁部は外反する 端部は丸く終る	内外面共ヨコナデ	にぶい黄褐色 焼成不良
42-C68	裏	底部径6.2 — 8.4	突出する底部と斜め上方に向かって聞く体部を有する	内外面共、風化のため調整不明	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む、黒斑あり
42-C69	裏	底部径4.9 — 2.6	平底 体部は斜め上方に聞く	外面 底部はケズリ ナデ 内面 ナデ	淡黄色

42-C70	妻	(推)23.2 — 12.0	少し丸みをもつ体部と外反する口縁部をもつ 縦部は丸く終る	外面 ナデ、ヘラによる直線文が5条 縦部に刻み目がほど等間隔に並る 内面 ゆびナデ	橙色
42-C71	妻	(推)18.5 — 6.4	張りのない体部と外反する口縁部をもつ 縦部は丸く終る	内外面共風化のため不明	灰黄色
42-C72	妻	底部径4.8 — 4.6	平底 斜め上方に開く体部をもつ	外面 ナデ調整 内面 ヘラミガキ(1mm)が碳方向	にぶい黄褐色 黒斑あり
42-C73	妻	底部径8.3 — 4.2	平底 ゆるやかに斜め外方に開く体部が続く	外面 縦方向のヘラミガキ(1.8mm) 内面 風化剥離のため不明	にぶい黄色 角閃石を含む 黒斑あり
42-C74	妻	(推)26.6 — 5.4	外反し縦部が上下に延張する口縁部をもつ。 上端部は内湾気味 外に向かって面をもつ	外面 口縁部は調整不明 内面 面面にヘラによる横の模状が残る 風化のため不明	灰色
42-C75	妻	(推)20.1 — 5.2	張りのない体部から口縁部はゆるやかに外反して続く 縦部は丸い	外面 縦方向のヘラミガキ(2mm) 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を含む 煤が付着。金質母多量
42-C76	妻	(推)31.7 — 4.8	張りのない体部と逆「し」の字状に 屈曲する口縁部をもつ 縦部は丸い	外面 ナデ? 縦部にヘラによるV字の刻み目文(6mm) 内面 ナデ?	浅黄色
42-C77	妻	(推)20.3 — 6.3	張りの少ない体部と外反する口縁部をもつ 縦部は丸みをもつが豊満はうすい	外面 ナデのあと 口縁部はヨコナデ 内面 ナデ	にぶい黄褐色 角閃石を含む

#### D区出土土器

図番号	器種	口 径 法量 径 高	形 素	文 様 · 技 法	備 考
56-D 1	妻	底部径5.0 — 8.8	突出した平底 内湾気味に開く体部	外面 タテハケ(6本/cm)風化している 内面 ナデ(原体痕が残る)	にぶい黄褐色
56-D 2	妻	底部径9.0 — 5.1	平底 斜め上方に開く体部	外面 風化のため調整不明 内面 ナデ	にぶい黄色 ※底部にモミ痕あり
56-D 3	鉢	(推)39.0 — 10.1	『くの字』に外反する口縁部 縦部はわずかに角ばる	外面 不定方向のハケ(原体巾不明) 粘土筋のあとが残る(内側) 内面 風化のため調整不明	灰オリーブ色 角閃石がめだつ
56-D 4	妻	(推)22.6 — 10.2	少し丸みをもった体部に水平近く屈曲する口縁部が続く 縦部は丸く終る	外面 磨がれで調整不明 内面 斜めハケ目(11本/cm)	暗灰黄色 角閃石含む 金雲母がめだつ
56-D 5	盤	(推)12.6 — 6.2	直立気味の縦部から内湾しそのまま 施行する口縁部をもつ 縦部は丸く終る。脛膜はうすい	外面 タテハケ(6本/cm) 口縁部はヨコナデ 内面 ナデ	暗灰黄色
56-D 6	器壁	0.9		外面 クシ括直線文(5帶)(9条) 最下段は直線文の間に波状文を施す	
56-D 7	器壁	0.8		外面 クシ括直線文(7条)の間に同原体による 上→下の削痕文	
56-D 8	器壁	0.8		外面 左→右のクシ括直線文(8条)	赤褐色物質塗布
57-D 9	妻	(推)21.6 — 4.7	張りのない体部と外反する口縁部をもつ 縦部は丸く終る	外面 ヘラ括き直線文が2条 縦部にヘラによる刻み目(3mm)	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む
57-D 10	妻	(推)27.3 — 19.1	すこし張りのある体部とあまりしまらずゆるやかに外反する口縁部をもつ。 縦部は丸く終る	外面 斜めハケ(原体巾不明)が残る 内面 指おさえ+ナデ	にぶい黄褐色
57-D 11	鉢	(推)19.7 — 6.1	内湾する体部に直行する口縁部が続く	外面 ナデのあとヘラによる刻突文を施す 内面 ヘラミガキが残る(3mm)	にぶい褐色

57-D12	壺	(推)11.5 — 7.8	内側する体部から「くの字」に屈曲し端部は丸みをもって終る	外面 風化しているがヘラ描直線文が数条 内面 塗ナデ	灰褐色 角閃石を多量に含む
57-D13	壺	(推)26.7 — 7.9	口縁部はゆるやかに外反する 口縁部内側に段をなす 端部は丸く終る	外面 タテハケ(5本/cm)のあとヘラ描直線文 (巾1.5mm)を施す 内面 ヨコハケ(7本/cm)横方向のヘラミガキ	浅黄色
57-D14	甕	底部径7.4 — 6.4	上げ底気味の平底 斜め外上方に聞く体部をもつ	内外面共風化のため調整不明	にぶい黄褐色 角閃石を多量に含む、風斑あり
58-D15	高杯	(推)17.2 — 7.2	「逆ハの字」に聞く体部と直行する 口縁部をもつ	外面 指おさえのあと横方向のヘラミガキ(0.5mm)さらに縱方向のヘラミガキを重ねる 内面 体部は縱方向のヘラミガキ、口縁部は横方向のヘラミガキ	灰黃褐色 角閃石を含む 胎土は赤
58-D16	甕	(推)15.2 — 9.3	わざかに外傾する口縁部と直行する 口縁部をもつ 端部は丸く終る	時計回りのヘラ描直線文(1mm)を施した間に竹管による刺突文(径3mm)とヘラ状の原体による刺突文が残る 内面 橫方向のヘラミガキ(4mm)	にぶい赤褐色 角閃石を含む 口縫部に風斑あり
58-D17	鉢	(推)19.0 — 5.0	平底、内湾気味に聞く体部に外傾する る涙をなす口縁部をもつ 粘土縫の範目(外縫)	外面 指おさえのあとヘラミガキ(2mm) 内面 ナデ+横方向のヘラミガキ(2mm)	にぶい黄褐色 黒斑あり
58-D18	甕・瓶	器高 6.3	笠形 つまみ部上面はややくぼむ 体部は外傾して下る	外面 下→上のヘラミガキ(5mm) つまみ部はヨコナデ+指おさえ 内面 指おさえ、横方向のヘラミガキ	明赤褐色 角閃石を多量に含む
58-D19	甕	(推)24.0 — 11.6	重りのある体部と頭部でやゝしまり 強く外反する口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 調整不規、ヘラ描直線文が3条(時計回り)、端部はV字のへらによる刻み目 内面 ナデ	風褐色 焼が密に付着
58-D20	甕	(推)22.9 — 8.0	重りの少ない体部と「逆L字」に屈曲する口縁部をもつ 端部は丸みをもって終る	外面 右下→左上のハケ目(5本/原体) 端部にU字形の小さい刻み目 内面 調整不規(原体焼が残る)	角閃石を含む
58-D21	鉢・ 甕?	底部径10.9 — 8.3	上げ底気味の平底 斜め外上方に聞く体部	外面 下→上のタテハケのあとヘラミガキ(3mm) 内面 調整不明	明褐色
58-D22	鉢・ 壺?	底部径9.1 — 6.1	上げ底気味の平底 や・内溝して聞く体部	外面 下→上のヘラミガキ(4mm) 内面 風化のため調整不明(原体焼が残る)	にぶい褐色 黒斑あり
59-D23	圓鉢 (縄文)	(推)25.8 — 6.0	張りのない体部と水平に直ぐのびる 突審をもつ 口縫部は丸く終る	外面 突審下に右→左の直線文が断続的に施される。突審にV字の刻み目	灰黃褐色 角閃石を含む 船型式
59-D24	鉢?壺	底部径11.0 — 8.5	突出気味の平底 斜め外上方に聞く体部	外面 下→上のタテハケ(6本/cm)がある 内面 橫、斜め方向のヘラミガキ(4mm)	にぶい褐色 大づぶの角閃石がめだつ、風斑あり
59-D25	鉢?壺	底部径10.2 — 7.8	突出気味の平底 体部は斜め外上方に聞く	外面 下→上のタテハケ(11本/原体) 内面 橫、斜め方向のヘラミガキ(4mm)	にぶい黄褐色 風斑あり
59-D26	甕・壺	器高 7.2	笠形 体部は外傾して下る	外面 磁方向のヘラミガキ(3mm) 内面 斜め、横方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 黒斑あり 葉付着
59-D27	ミニチ ュア甕	(推) 8.2 — 5.4	平底 斜め外上方に聞く体部と直行しや 肥厚した端部をもつ	外面 指おさえのあと右下→左上のハケ目(7本/cm)、底座はナデ 内面 台→左のハケ目	黄灰色
59-D28	ミニチ ュア甕	(推) 2.9 — 5.8	突出した上げ底 体部は「逆くの字」に屈曲し口縫は ゆるやかに外反し、端部は丸く終る	内外面共に指おさえナデ	にぶい黄褐色 角閃石を含む
59-D29	徑	5.2	円形	内外面 ナデ、片面にのみわずかにハケ目が残る	にぶい褐色 角閃石を含む
		器型0.95			

## A区 出土木器

(単位 cm)

図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
6-A5	不明	30.0	3.7	1.2	板状
6-A6	不明	26.4	5.2	0.9	有孔板状
6-A7	不明	31.0	6.0	2.3	
6-A8	不明	16.4	3.4	1.8	中央に挟り
6-A9	不明	62.4	3.2	1.0	細長い板状
6-A10	刺突具	13.2	0.8	0.6	両端尖る
6-A11	不明	8.4	3.8	1.0	

## B区 出土木器

(単位 cm)

図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
17-B68	平鍬	35.0	17.0	4.0	未成品、舟形隆起が残る
17-B69	平鍬	35.4	19.4	5.0	未成品
17-B70	不明	27.0	20.0	5.4	
18-B71	不明	42.8	5.0	2.2	細長い板状
18-B72	不明	16.0	3.6	3.4	丸い棒状
18-B73	楕	口径14.2		器高 8.2	
18-B74	平鍬	16.6	10.0	3.0	
18-B75	不明	径 13.0	6.0	1.4	
18-B76	不明	12.2	11.2	4.4	片面に抉り
18-B77	不明	14.8	9.0	2.2	
18-B78	不明	10.4	15.2	1.8	
18-B79	不明	5.8	14.0	2.3	
18-B80	不明	18.0	10.8	1.6	
18-B81	不明	23.4		1.0	

## C区 出土木器

(単位 cm)

図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
43-C78	杓子	42.0	8.0	柄 2.8 3.8	柄のつけ根で折れている
43-C79	柱根	28.0	8.2	6.0	一端は尖る
43-C80	不明	14.0	12.6	1.8	
43-C81	不明	14.4	3.8	1.8	

## D区 出土木器

(単位 cm)

図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
62-D34	不明	74.0	9.8	5.0	断面三角形、端面に切り込み

関西電力東大阪変電所保管の木器

図番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
66-11	平鉗	21.2	10.0	2.8	円形の隆起
66-12	平鉗	19.8	12.0	3.2	柄が残存する、舟形の隆起をもつ
66-13	平鉗	11.4 10.0	16.2 10.4	4.4 1.3	木製品 折損している
66-14	不明	10.2	10.1	1.6	低い隆起が
66-15	平鉗	11.6	5.1	2.2	舟形の隆起部分のみ
66-16	不明	12.6	7.8	1.7	端面に切りこみ
66-17	平鉗	11.4 11.6	9.6 10.2	3.8 2.2	未成品、折損している
66-18	平鉗	7.2	10.4	4.4	舟形の隆起
67-19	又鉗	26.8	9.8	1.4	両端に切りこみ
67-20	不明	24.2	9.6	2.2	
67-21	平鉗	8.6	6.2	3.0	舟形隆起部分
67-22	不明	23.4	5.4	0.8	有孔板状
67-23	高杯	底部径16.2		高さ10.4	一木
67-24	部材	23.4	13.8	10.4	
67-25	杓子	径 14.4		4.4	剝形の浅い飯杓子

## B区 出土石器

団番号	製品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	特徴
19-B82	石斧	9.6	7.8	4.1	522	大型蛤刃石斧
19-B83	石斧	6.4	2.8	2.8	57.2	柱状片刃石斧
20-B84	石鎌	2.3	1.7	0.5	1.1	凹基式
20-B85	石鎌	2.3	1.7	0.4	0.95	凹基式
20-B86	石鎌	2.4	1.2	0.4	0.6	
20-B87	石鎌	1.5	1.6	0.4	0.8	平基式
20-B88	石鎌	2.8	1.7	0.5	1.4	凹基式
20-B89	石鎌	3.4	1.4	0.6	2.1	尖基式
20-B90	石鎌	3.4	2.5	0.7	2.3	凹基式
20-B91	石鎌	3.0	2.0	0.5	1.4	平基式
20-B92	石錐	4.4	1.5	0.5	2.5	
20-B93	石錐	5.6	2.4	0.8	9.8	
20-B94	不明	5.0	2.3	1.0	11.2	
20-B95	石鎌	6.2	3.9	0.7	16.2	凹基式
20-B96	不明	5.8	5.6	1.0	50.8	
21-B97	石包丁	4.3	10.9	0.6	43.1	孔3つ 縁泥片岩
21-B98	石包丁	4.7	3.8	0.4	12.5	粘板岩
21-B99	石包丁	5.4	7.1	0.5	37.9	外彫刃 縁泥片岩
21-B100	石包丁	2.4	3.7	0.5	4.9	流紋岩
21-B101	石包丁	3.8	4.8	0.2	12.8	縁泥片岩
22-B102	石劍	8.1	3.1	1.6	57.1	柄部のみ残存
22-B103	石棒	8.5	2.7	2.4	109.5	縁泥片岩
23-B104	石斧	10.3	7.0	3.0	286.3	
23-B105	石斧	5.5	6.4	3.0	167.7	

## C区出土石器

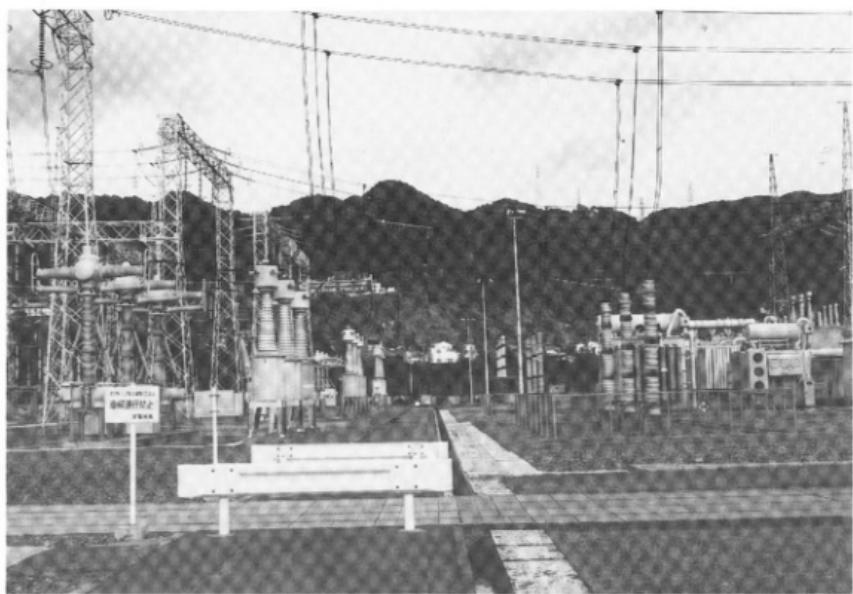
図番号	製品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	特徴
44-C82	石槍	9.4	3.5	1.0	32.7	
44-C83	石鎌	2.4	1.7	0.3	1.8	未製品
44-C84	石鎌	2.7	1.8	0.5	1.8	凹基式
44-C85	石錐	3.0	1.1	0.6	1.9	
44-C86	石鎌	2.6	1.5	0.3	0.8	凹基式
44-C87	石鎌	3.1	1.5	0.5	1.3	凹基式
44-C88	石鎌	2.4	2.3	0.4	0.9	凹基式
44-C89	石鎌	2.1	1.3	0.5	0.8	凹基式
44-C90	石錐	4.7	2.2	1.0	9.8	
44-C91	石鎌	2.8	1.8	0.5	1.7	凹基式
45-C92	石槍	6.1	2.9	0.6	12.9	未製品
45-C93	不定形石器	3.5	1.4	0.8	4.6	
45-C94	不錐	4.0	1.2	0.6	2.9	
45-C95	石鎌	2.4	1.2	0.3	0.8	
45-C96	石鎌	3.0	2.1	0.5	1.9	凹基式
45-C97	石錐	3.8	1.2	0.8	2.8	
45-C98	不定形石器	4.1	2.0	0.6	3.8	
45-C99	石鎌	2.9	2.1	0.5	3.3	未製品
45-C100	石錐	3.6	1.5	0.9	4.2	
45-C101	石鎌	2.3	1.2	0.3	0.9	
45-C102	石鎌	2.7	2.1	0.5	2.3	平基式
45-C103	石錐	3.2	1.4	0.5	1.9	
45-C104	石鎌	1.3	1.4	0.4	0.6	平基式
45-C105	石鎌	2.5	1.5	0.4	1.0	凹基式

45-C106	石 錐	2.6	1.5	0.3	0.6	
46-C107	石 包 丁	6.0	9.8	0.9	77.5	緑泥片岩
46-C108	石 包 丁	4.6	6.1	0.7	34.7	外彎刃 緑泥片岩
46-C109	石 包 丁	5.9	6.0	0.9	36.6	
46-C110	石 包 丁	3.7	3.9	0.6	8.3	外彎刃
47-C111	石 斧	10.4	5.7	3.7	318.6	大型蛤刃石斧
47-C112	石 斧	9.9	5.2	4.4	317.5	大型蛤刃石斧
48-C113	石 斧	9.6	8.3	4.1	600	表面ガラス 状溶融
48-C114	不 明	8.9	4.0	3.1	123.3	
48-C115	石 斧	5.9	1.3	1.2	16.6	柱状片刃石 斧小型
49-C116	不 明	9.9	9.2	4.2	401.5	円形の窪み有
49-C117	不 明	4.6	7.8	0.9	35.3	板状緑泥片岩
49-C118	砥 石	6.2	5.5	5.2	341.4	砂岩
49-C119	不 明	4.4	5.0	0.6	22.6	円形板状

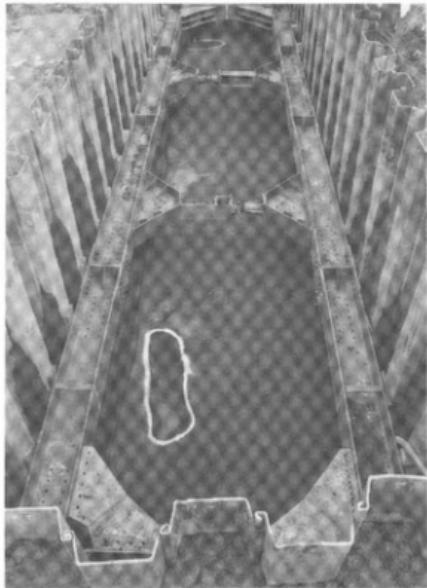
#### D区 出 土 石 器

団番号	製品名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	特 微
60-D30	不 明	9.0	8.9	2.8	184.1	剝片 自然面を残す
60-D31	不 明	3.1	3.4	0.6	6.1	
60-D32	不 明	4.4	4.3	0.8	19.1	
61-D33	石 包 丁	4.2	14.2	0.8	66.4	

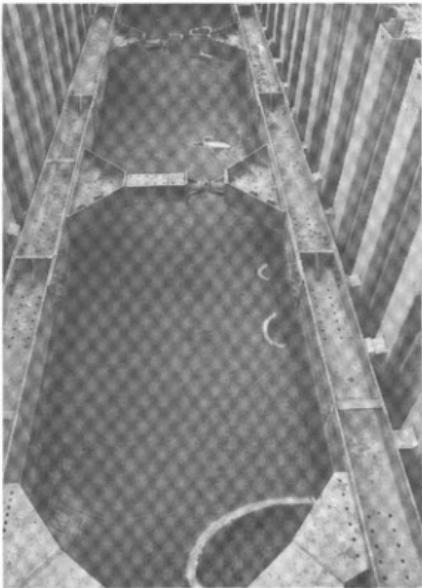
# 図 版



調査地全景（後方の山は国見高地性遺跡）

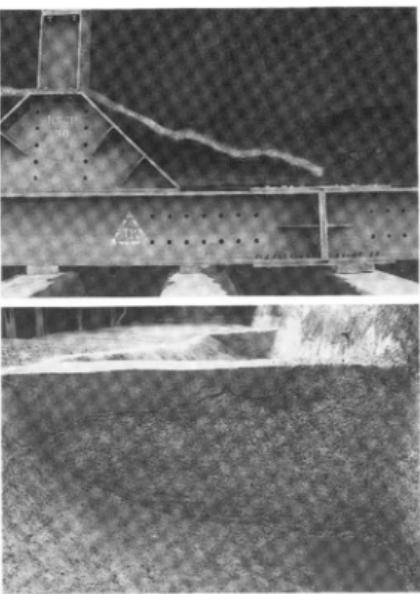
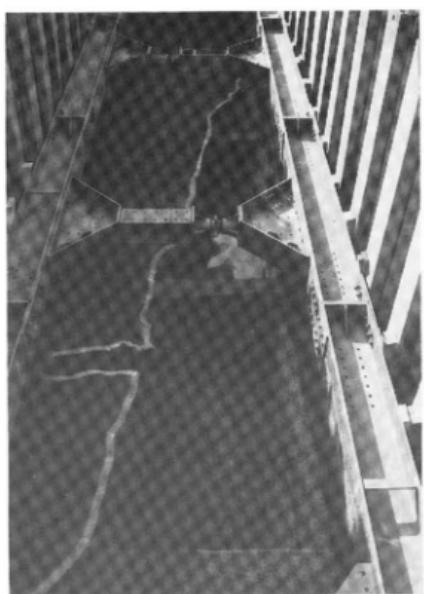


第1遺構面全景（西より）

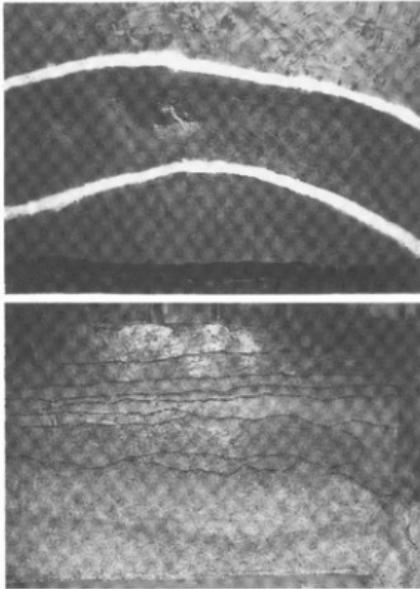


第1遺構面全景（東より）

図版二 A区  
遺構



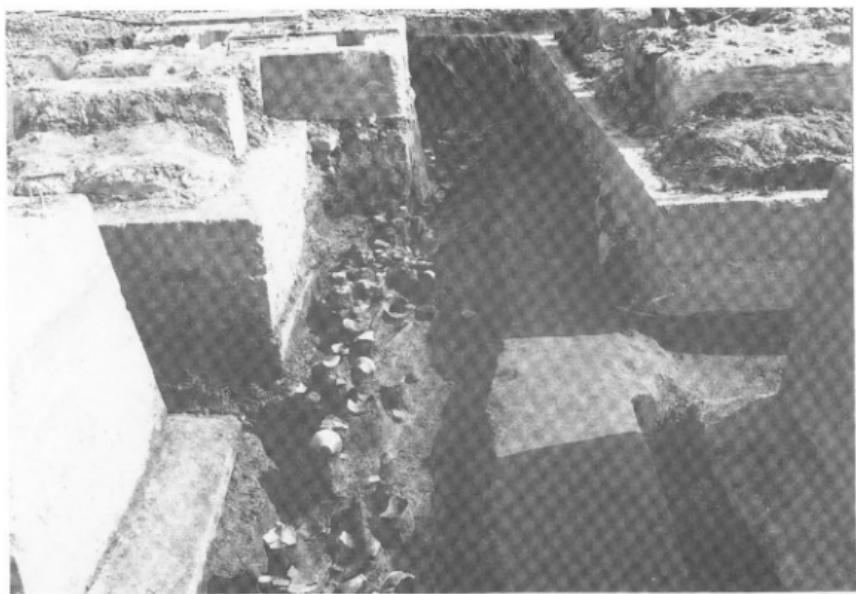
第2遺構面 ASR-1 上 ASR-1 下 ASR-1セクション断面



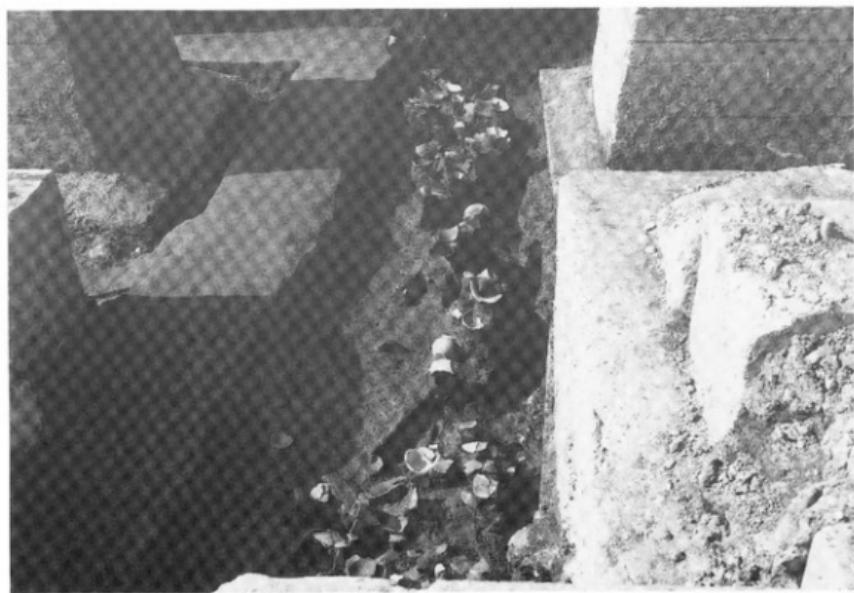
第3遺構面 ASD-2

上 ASD-2 下 調査区西壁断面

図版三 B区 遺構



B S D - 1 (北より)



B S D - 1 (南より)

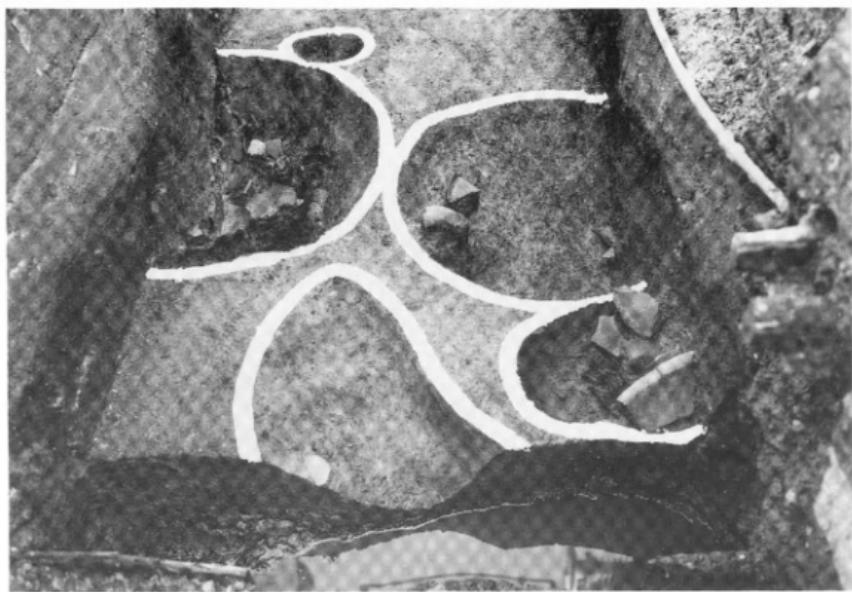
図版四  
B区  
遺構



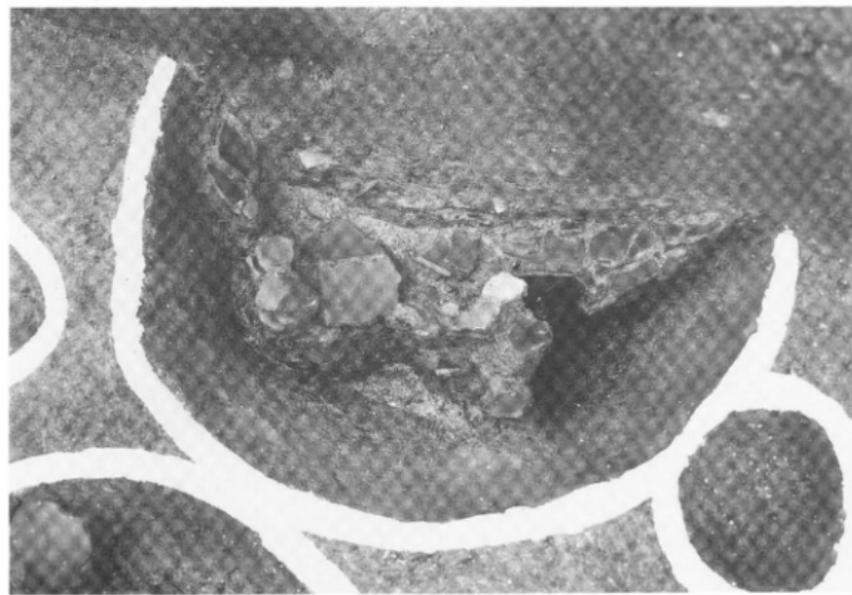
B S D - 1 遺物出土状況(南端付近)



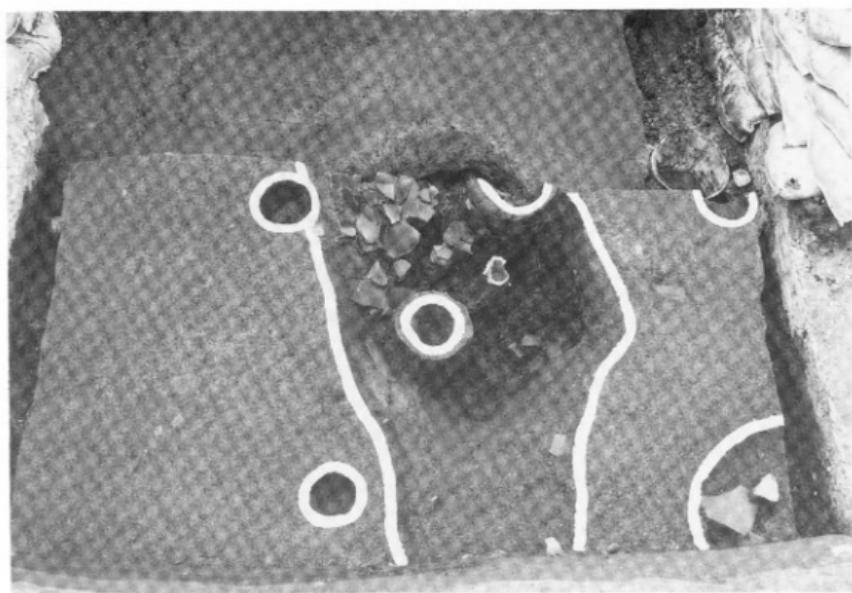
B S D - 1 遺物出土状況(中央付近)



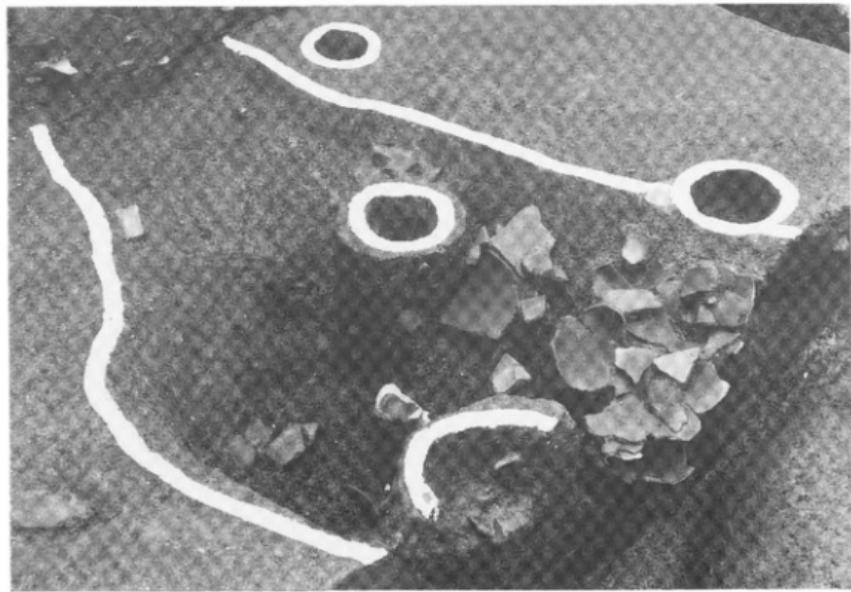
1区 第2遺構面上層（西より）CSK-3、4、5 CSD-5



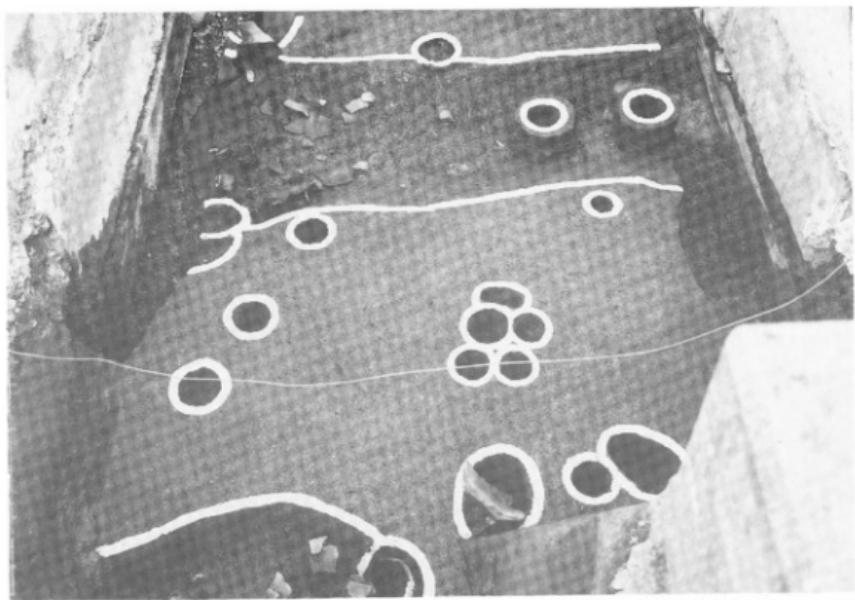
1区 CSD-5 遺物出土状況



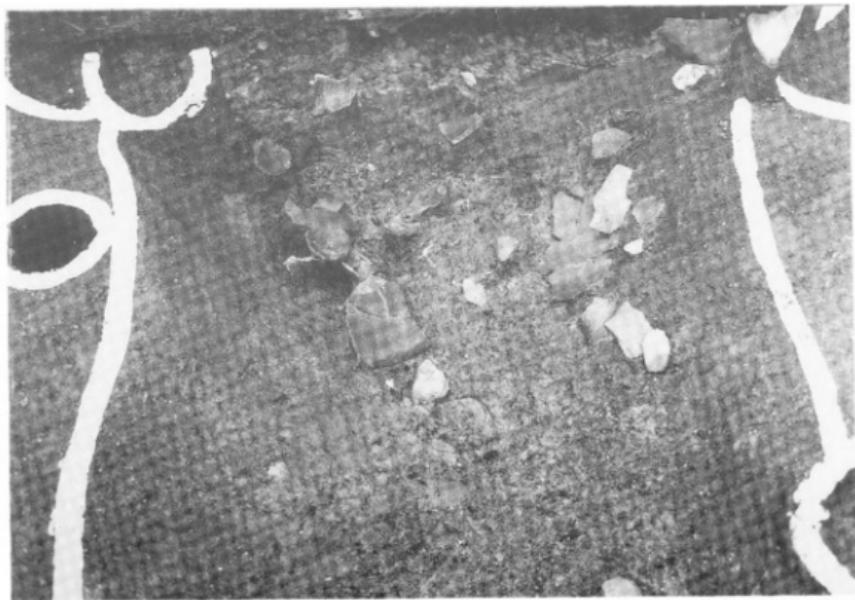
1区 第2遺構面上層(北より)



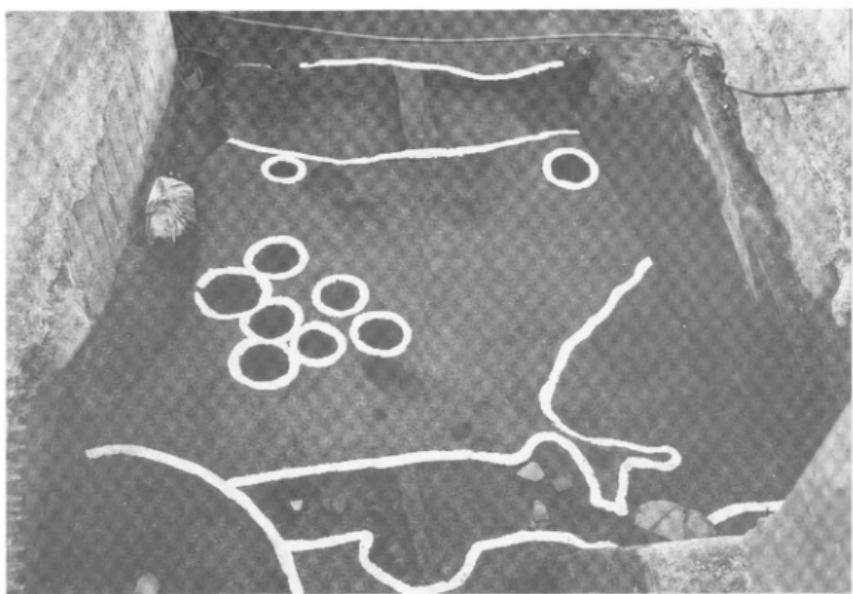
1区 CSD-5 遺物出土状況



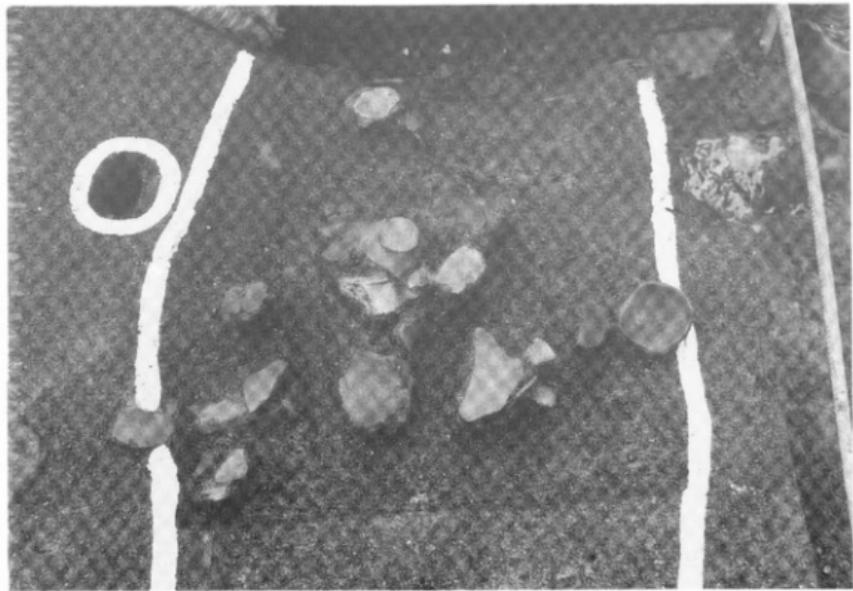
3区 第2遺構面上層(南より)



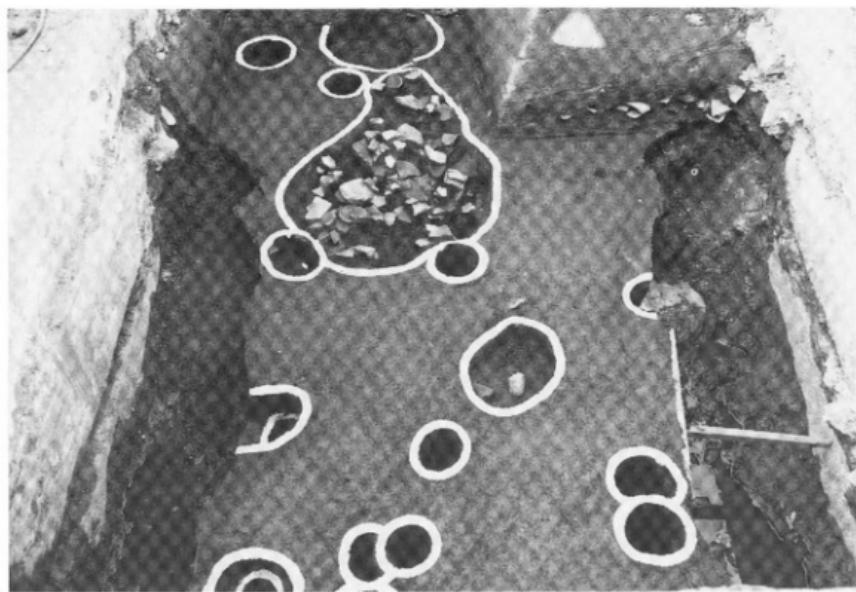
3区 CSD-6 遺物出土状況



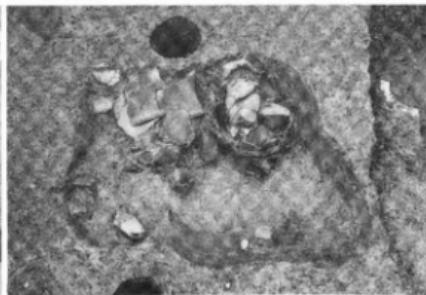
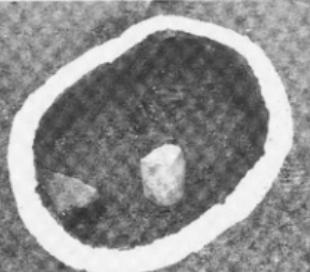
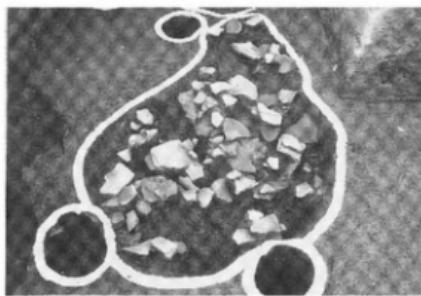
4区 第2遺構面上層(南より) CSD-6、11 CSK-14、15



4区 CSD-6 遺物出土状況



5区 第2遺構面上層(南より)CSK-10、11、12、13

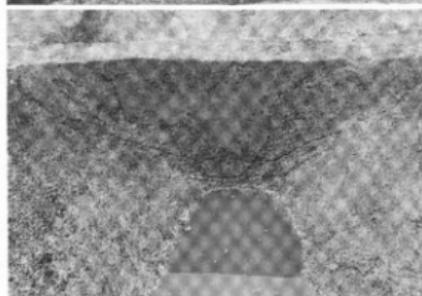
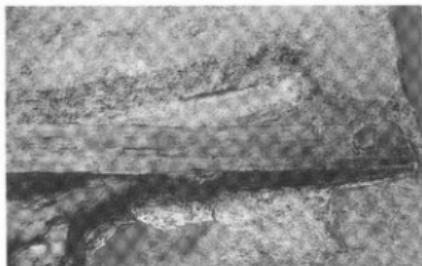


(左上) CSK-11 上層遺物出土状況  
(左下) CSK-11 下層遺物出土状況

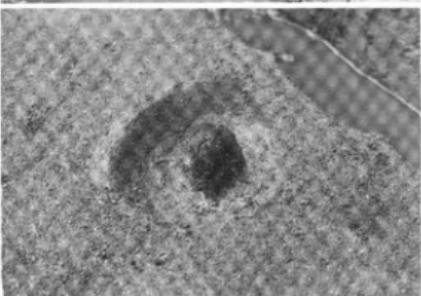
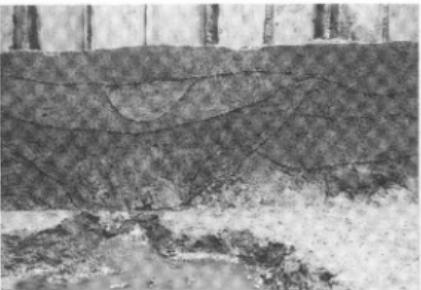
(右上) CSK-10 上層遺物出土状況  
(右下) CSK-10 下層遺物出土状況



第4遺構面全景(南より)



(左上) DSR-1 下層木器出土状況  
(左下) DSR-1 下層セクション断面



(右上) 調査区西壁断面(下層)  
(右下) DSP-5

図版十一 BSD一一出土土器



B1



B6



B2



B7



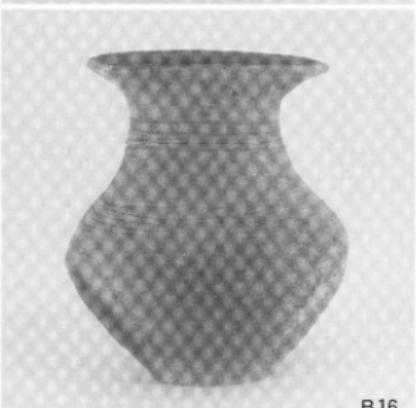
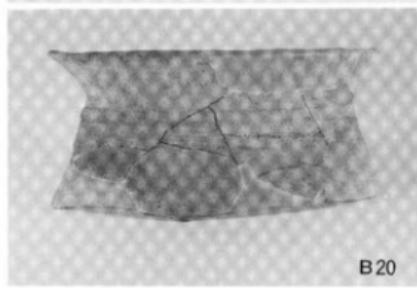
B3



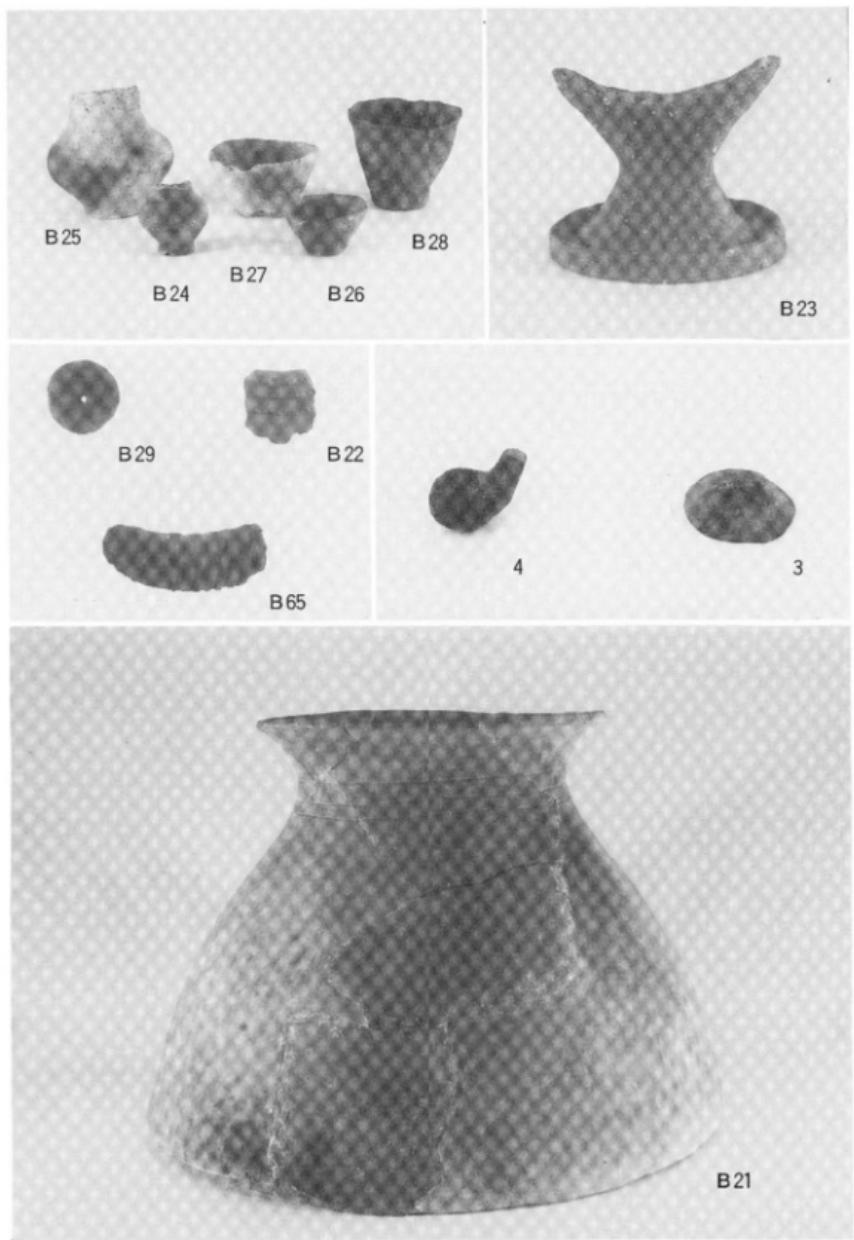
B9



B8



図版十三 BSD—1出土土器、B区包含層出土土器、蓋形土製品、匙形土製品



図版十四 B S D — 1 出土土器



B 30



B 33



B 31



B 34



B 32



B 37

図版十五 BSD—1出土土器



B41



B43



B44



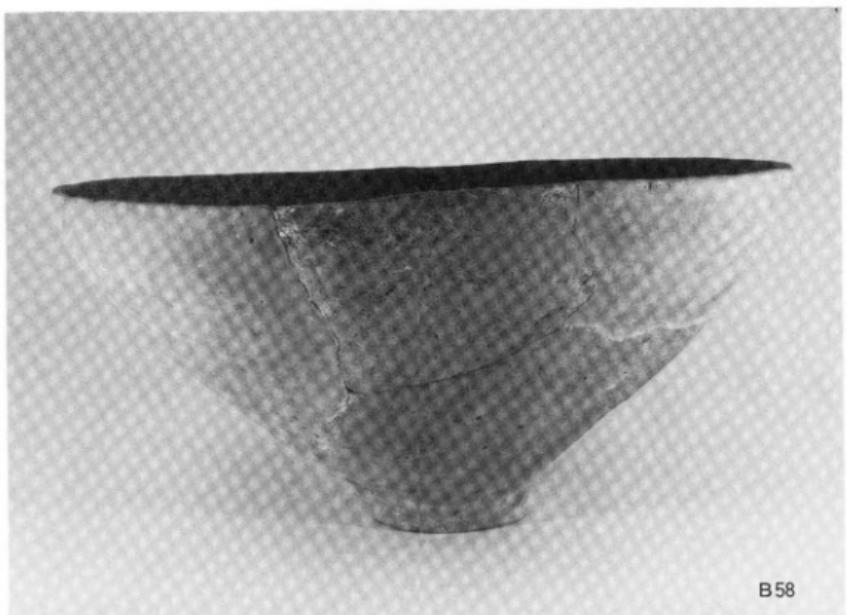
B46



B49



B50



B 58



B 59

圖版十七 B S D — 1 出土土器、B 区包含層出土土器



図版十八 B区包含層出土土器及び外部の特徴を持つ土器



B60



B61



B62



B67



5



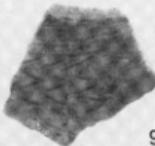
6



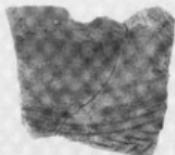
7



8



9



10

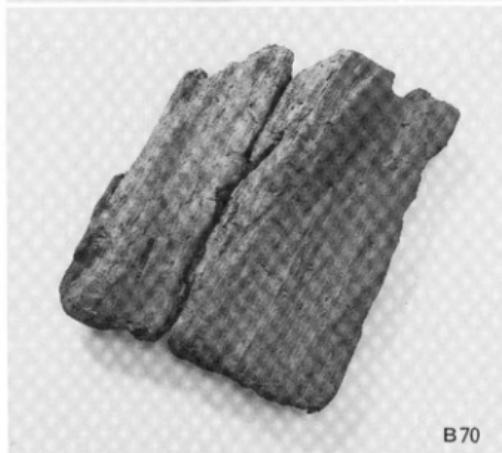
図版十九 B 区 出土木器



B 68



B 69



B 70



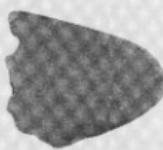
B 74



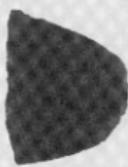
図版二十 B 区 包含層出土石器



B 100



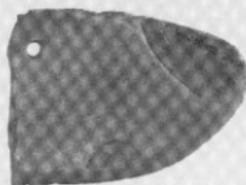
B 101



B 98



B 97



B 99



B 95



B 86



B 88



B 87



B 84



B 89



B 90



B 85



B 93



B 94



B 92



B 91

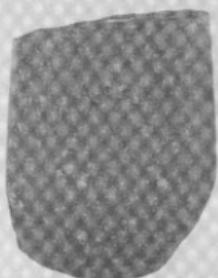
図番二十一 BSSD—1出土石器、B区包含層出土石器



B 83



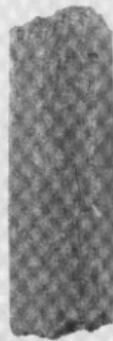
B 105



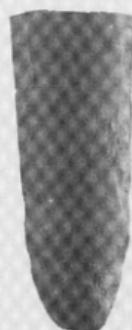
B 82



B 104

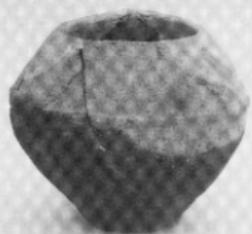


B 103



B 102

図版二十二 CSK—4、5、6、10、11及びCSD—5出土土器



C5



D 10



C8



C27



C6



C7

図版二十三 C区土器群、CSD-5出土土器及び高熱を受けた跡の残る土器片



C31

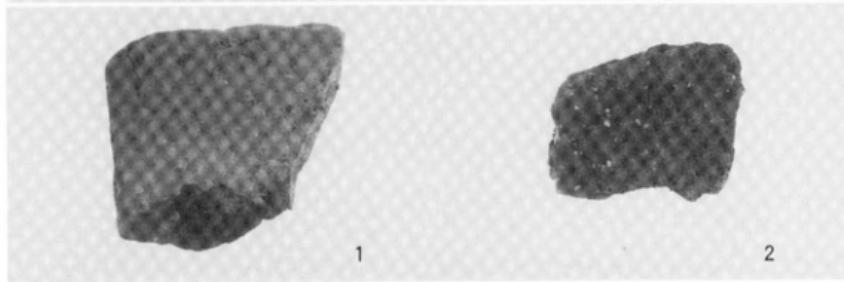


C66

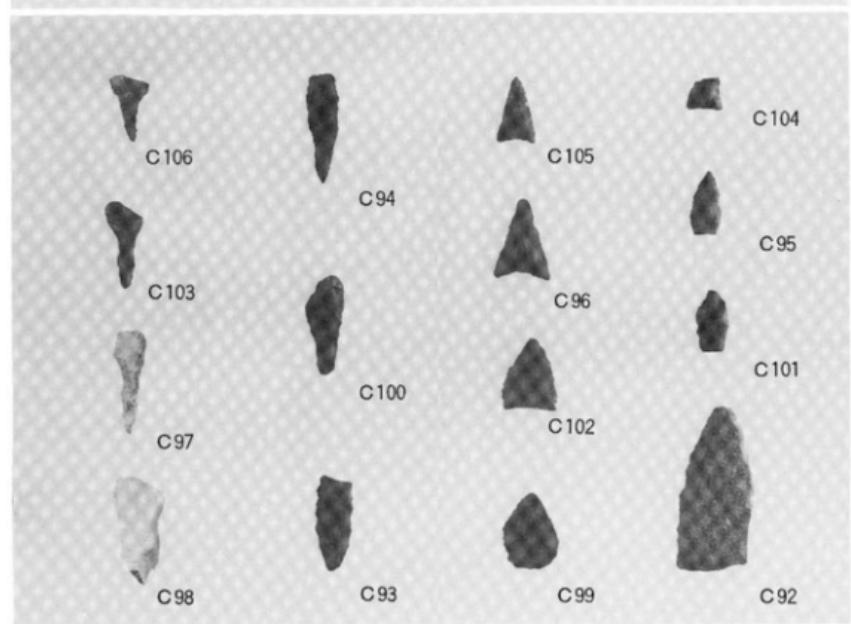
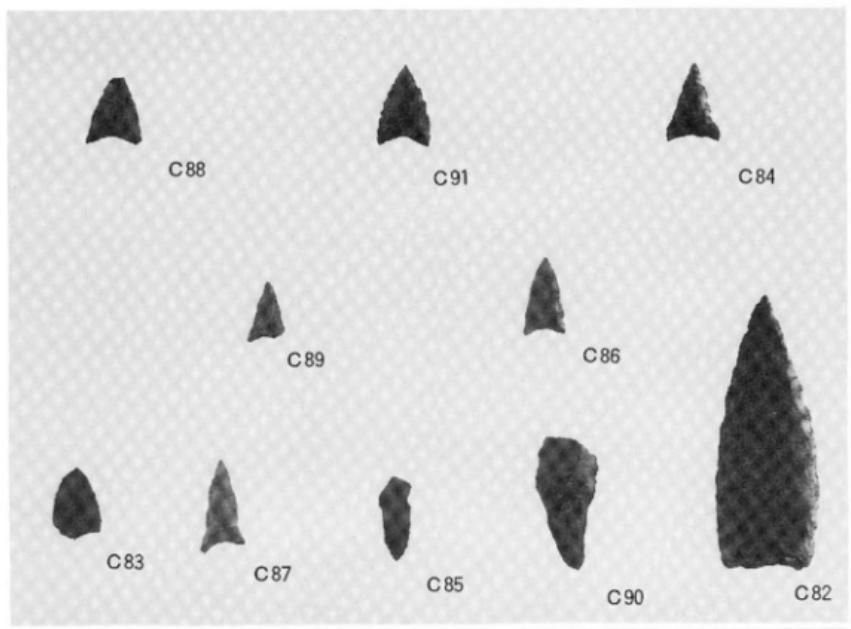


1

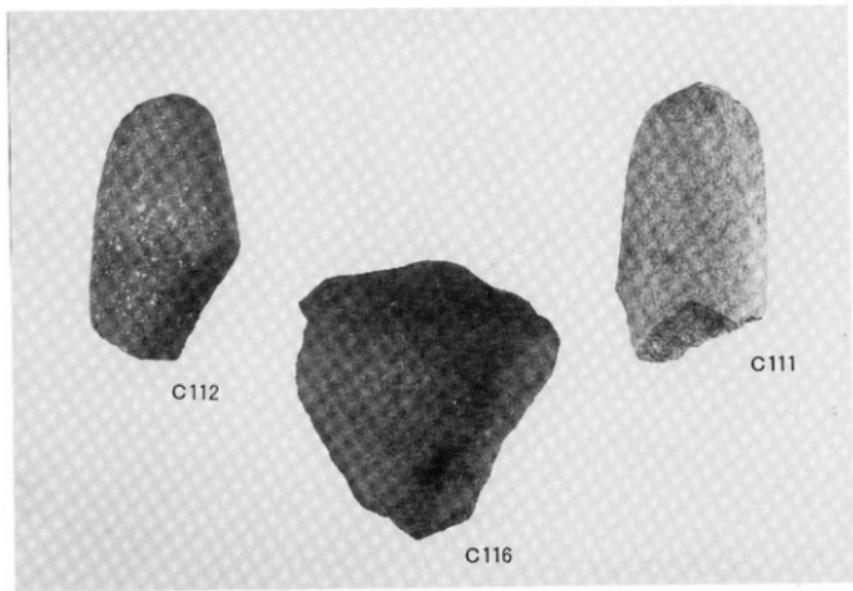
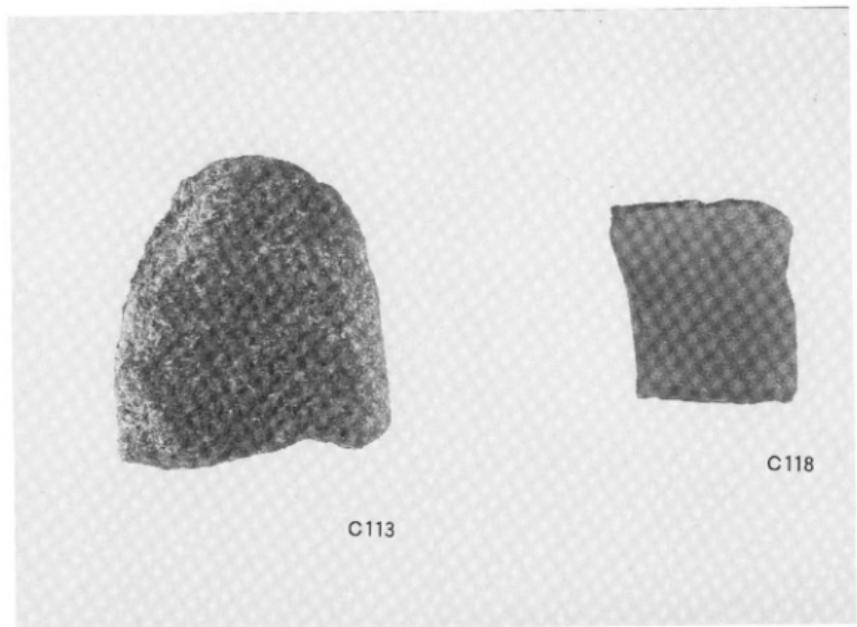
2



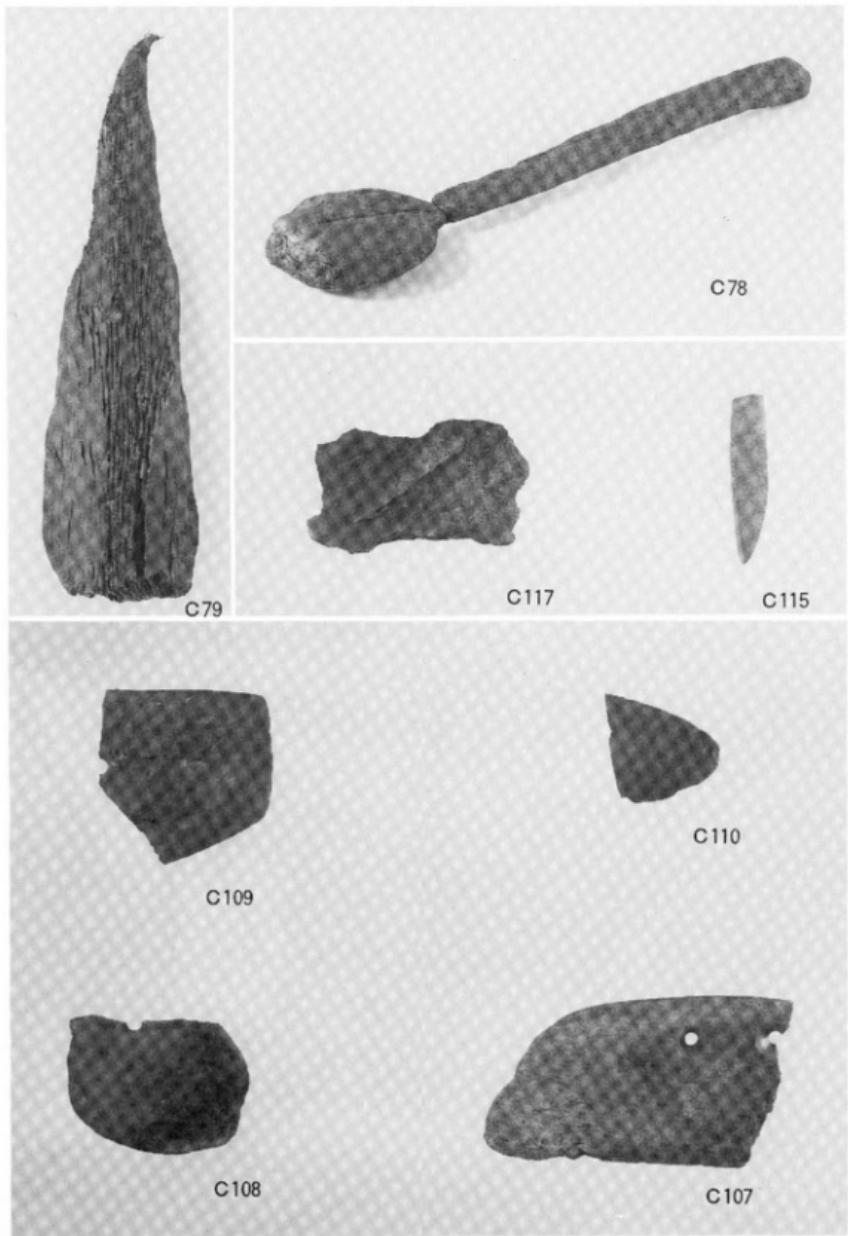
図版二十四 C区 出土石器



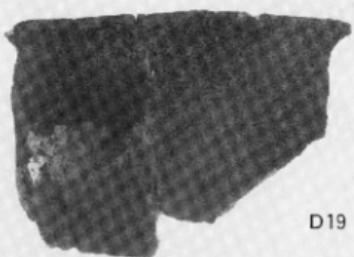
図版二十五 C区 出土石器



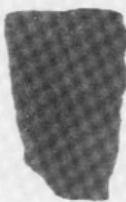
図版二十六 C区 出土木器及び石器



図版二十七 D 区 包含層出土土器



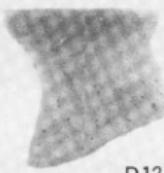
D19



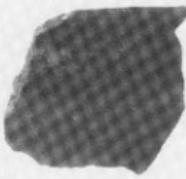
D16



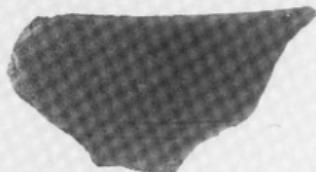
D11



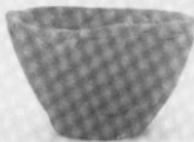
D12



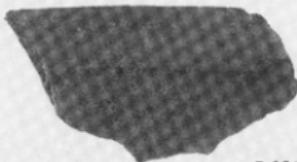
D20



D13外



D27

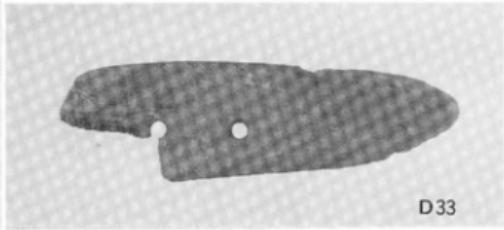
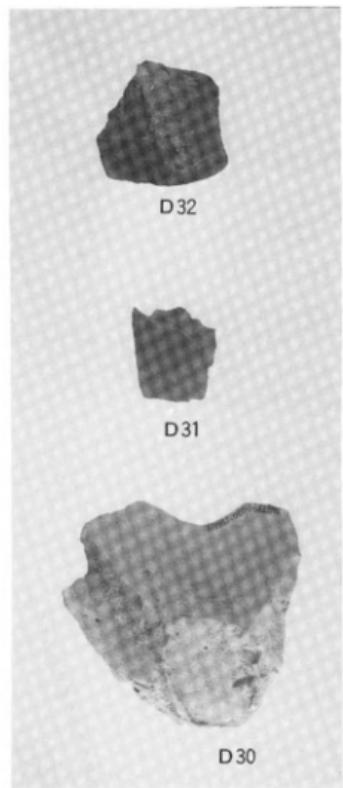
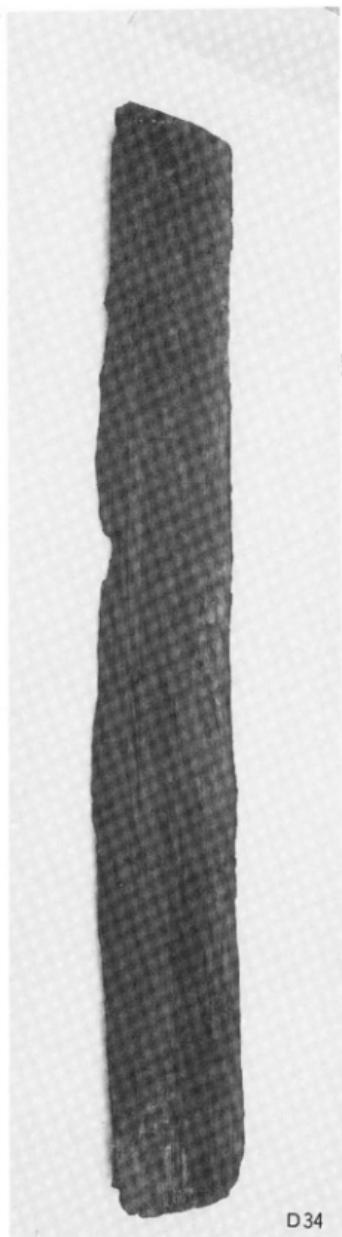


D13内



D28

図版二十八 D S R - 1 下層出土木器及びD区出土石器



図版二十九 関西電力東大阪変電所保管の木器



13



12



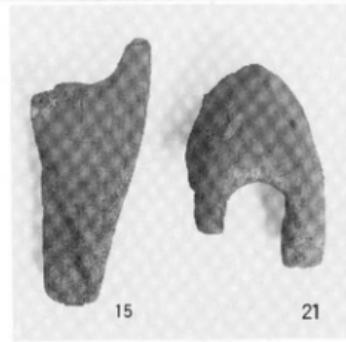
12



24



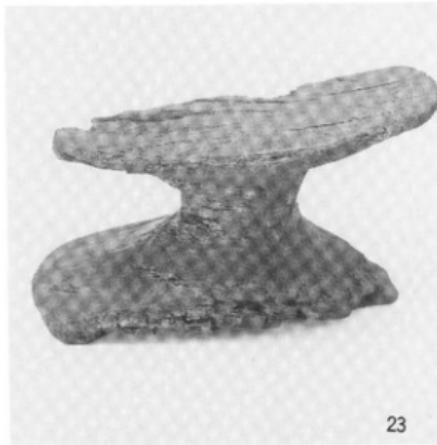
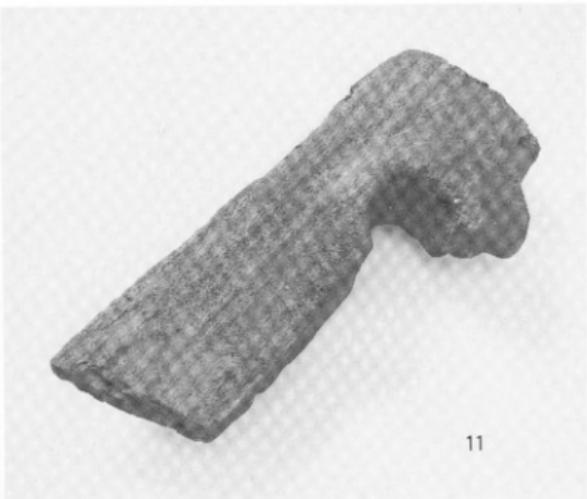
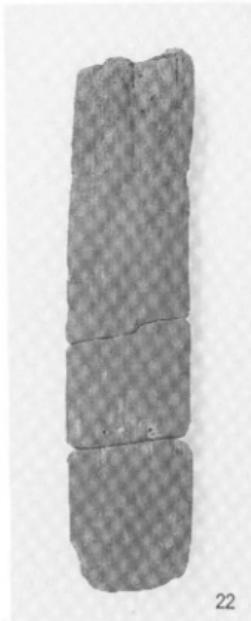
18



15

21

図版三十 関西電力東大阪変電所保管の木器



図版三十一 関西電力東大阪変電所保管の木器



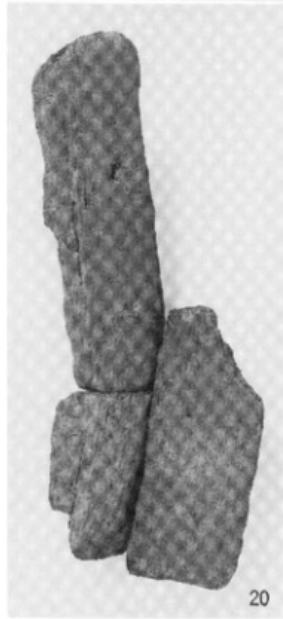
19



25



25



20



14



16

